

2026年7月の地震活動の評価

1. 主な地震活動

- 7月28日に熊本県熊本地方でマグニチュード(M) 7.1の地震(*1)が発生し、熊本県で最大震度7を観測し、死者が出るなどの被害を生じた。また、この地震により熊本県では、長周期地震動階級4を観測した。

2. 各領域別の地震活動

(1) 北海道地方

目立った活動はなかった。

(2) 東北地方

- 7月1日、14日に岩手県沖の深さ約40 kmで、それぞれM6.1、M5.0の地震が発生した。これらの地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

これらの地震の震央周辺では、6月25日にM7.2の地震が発生して以降、地震活動が継続しており、7月中に震度1以上を観測した地震が17回発生した。

今回の地震活動域の南東側では、2025年11月9日の三陸沖(M6.9)、2026年4月20日の三陸沖(M7.7)の地震活動が見られる。これらの一連の地震活動域の東側では、2025年11月4日の三陸沖の地震(M5.3)が発生して以降、微動活動が断続的に継続している。

G N S S観測によると、4月20日の三陸沖の地震(M7.7)の後、およそ3か月間で、岩手県の久慈観測点が東南東方向に約7 cm変動するなど、岩手県を中心に余効変動と考えられる水平変動が観測されている。余効変動から推定される余効すべりは、M7.7の地震活動域とその西側及び今回の地震活動域の東側で継続していると考えられる。また、その周辺では、繰り返し地震の解析から、非地震性すべりが継続していると考えられる。

今回の地震を含む、6月25日以降の地震活動は、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」(M7.6)の震源域の西端付近における最大余震(1995年1月7日のM7.2)の震央付近で発生している。なお、これらの地震活動域を含む2025年11月からの三陸沖から岩手県沖にかけての一連の地震活動域、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の震源域及び2025年12月8日の青森県東方沖(M7.5)の地震活動域は、「1968年十勝沖地震」(M7.9)の震源域内のそれぞれ南部、中部及び北部に位置する。

6月25日のM7.2の地震は、地震調査委員会が「日本海溝沿いの地震活動の長期評価(平成31年2月26日公表)」で想定していた「青森県東方沖及び岩手県沖北部」の領域で発生する「ひとまわり小さいプレート間地震」(M7.0~M7.5程度)であり、30年以内に発生する確率はⅢランク(高い)(*)に該当する。これは、海溝型地震の中では、地震発生確率が最も高いものと位置づけられる。なお、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」は「青森県東方沖及び岩手県沖北

部」の「ひとまわり小さいプレート間地震」とされ、また、「1968 年十勝沖地震」は同領域の「プレート間巨大地震」（M7.9 程度）とされているが、どちらも、30 年以内に発生する確率はⅢランク（高い）に該当する。

（３）関東・中部地方

目立った活動はなかった。

（４）近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

（５）九州・沖縄地方

- 7 月 1 日に宮崎県北部平野部の深さ約 15 km で M5.1 の地震が発生した。この地震の発震機構は北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内で発生した地震である。
- 7 月 3 日に宮古島北西沖の深さ約 15 km（CMT 解による）で M6.5 の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、陸のプレート内で発生した地震である。
- 7 月 17 日に大隅半島東方沖で M5.2 の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。
- 7 月 28 日に熊本県熊本地方で発生した M7.1 の地震については、「令和 8 年熊本地震の評価」を参照。

（６）南海トラフ周辺

- 南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。

（７）その他の地域

- 7 月 3 日に北西太平洋で M6.0 の地震が発生した。

＊ 1：令和 8 年 7 月 28 日に熊本県熊本地方で発生した M7.1 の地震及びそれ以降に発生した一連の地震活動について、気象庁は名称を「令和 8 年熊本地震」と定めた。

注：GNSS とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。

2026年7月の地震活動の評価についての補足説明

令和8年8月12日
地震調査委員会

1. 主な地震活動について

2026年7月の日本及びその周辺域におけるマグニチュード(M)別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上及びM5.0以上の地震の発生は、それぞれ128回(6月は98回)及び17回(6月は13回)であった。また、M6.0以上の地震の発生は5回(6月は3回)であった。

なお、上記の月回数のうち、令和8年熊本地震は、M4.0以上、M5.0以上、M6.0以上のそれぞれについて、30回、4回、2回であった。

- (参考) M4.0以上の月回数 81回(69-104回)
(1998-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)
M5.0以上の月回数 10回(7-14回)
(1973-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)
M6.0以上の月回数 1回(0-2回)
(1919-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)
M6.0以上の年回数 16回(12-21回)
(1919-2017年の年回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)

2025年7月以降2026年6月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあつた。

ー	トカラ列島近海	2025年7月2日	M5.1
ー	トカラ列島近海	2025年7月2日	M5.6
ー	トカラ列島近海	2025年7月3日	M5.5(深さ約10 km)
ー	トカラ列島近海	2025年7月5日	M5.4
ー	トカラ列島近海	2025年7月6日	M4.9
ー	トカラ列島近海	2025年7月6日	M5.5
ー	トカラ列島近海	2025年7月7日	M5.1
ー	ロシア、カムチャツカ半島東方沖	2025年7月30日	M8.8
ー	トカラ列島近海	2025年9月17日	M4.7
ー	根室半島南東沖	2025年10月25日	M5.8(深さ約40 km)
ー	三陸沖	2025年11月9日	M6.9(深さ約15 km)
ー	熊本県阿蘇地方	2025年11月25日	M5.8(深さ約10 km)
ー	青森県東方沖	2025年12月8日	M7.5(深さ約55 km)
ー	島根県東部	2026年1月6日	M6.4(深さ約10 km)
ー	茨城県南部	2026年4月1日	M5.0(深さ約50 km)
ー	長野県北部	2026年4月18日	M5.0(深さ約10 km)
ー	長野県北部	2026年4月18日	M5.1(深さ約10 km)
ー	三陸沖	2026年4月20日	M7.7(深さ約20 km)
ー	十勝地方南部	2026年4月27日	M6.2(深さ約85 km)
ー	宮城県沖	2026年5月15日	M6.4(深さ約45 km)
ー	沖縄本島近海	2026年5月20日	M5.9(深さ約50 km)

ー	フィリピン諸島、ミンダナオ	2026 年 6 月 8 日	Mw7.7
ー	茨城県南部	2026 年 6 月 16 日	M5.5 (深さ約 50 km)
ー	岩手県沖	2026 年 6 月 25 日	M7.2 (深さ約 45 km)
ー	山梨県東部・富士五湖	2026 年 6 月 26 日	M5.6 (深さ約 20 km)

2. 各領域別の地震活動

(1) 北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

(2) 東北地方

東北地方では特に補足する事項はない。

(3) 関東・中部地方

ー G N S S 観測によると、2022 年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されている。これは、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのフィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。すべりの中心は渥美半島周辺から浜名湖の東側に移動している。

(4) 近畿・中国・四国地方

ー 2025 年 2 月から、山口県北部の地殻下部の深さ 25 km から 30 km 程度でまとまった微小地震活動が継続している。これら一連の微小地震活動に伴って、わずかな地殻変動が観測されている。また、2025 年半ば頃から、山口県北部の地殻内の深さ 5 km 程度から 20 km 程度でまとまった微小地震活動が継続している。

ー 四国西部で 7 月 29 日から、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で深部低周波地震（微動）を観測している。ひずみ及び傾斜データによると、その周辺では深部低周波地震（微動）とほぼ同期してわずかな地殻変動を観測している。これらは、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における短期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。

(5) 九州・沖縄地方

九州・沖縄地方では特に補足する事項はない。

(6) 南海トラフ周辺

ー「南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。」：

（なお、これは、8 月 7 日に開催された定例の南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会における見解（参考参照）と同様である。）

（参考）南海トラフ地震関連解説情報についてー最近の南海トラフ周辺の地殻活動ー（令和 8 年 8 月 7 日気象庁地震火山部）

「現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（M8 から M9 クラス）は、「平常時」においても今後 30 年以内に発生する確率が高い（詳細は「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）」

参照)と評価されており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

8月2日04時10分に日向灘の深さ21kmを震源とするM5.3の地震が発生しました。この地震は、発震機構が東西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部で発生しました。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)のうち、主なものは以下のとおりです。

- (1) 四国中部：7月16日から7月23日
- (2) 紀伊半島西部：7月20日から7月23日
- (3) 四国西部：7月29日から継続中

2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)から(3)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られました。

GNSS観測によると、2022年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。

(長期的な地殻変動)

GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

3. 地殻活動の評価

(顕著な地震活動に関する現象)

8月2日に発生した日向灘の地震は、フィリピン海プレート内部で発生した地震で、その規模から南海トラフ沿いのプレート間の固着状態の特段の変化を示すものではないと考えられます。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)から(3)の深部低周波地震(微動)と地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

2022年初頭からの静岡県西部から愛知県東部にかけての地殻変動は、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。この長期的ゆっくりすべりは、すべりの中心が渥美半島周辺から、浜名湖の東側に移動しています。

これらの深部低周波地震(微動)、短期的ゆっくりすべり、及び長期的ゆっくりすべりは、それぞれ、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

(長期的な地殻変動)

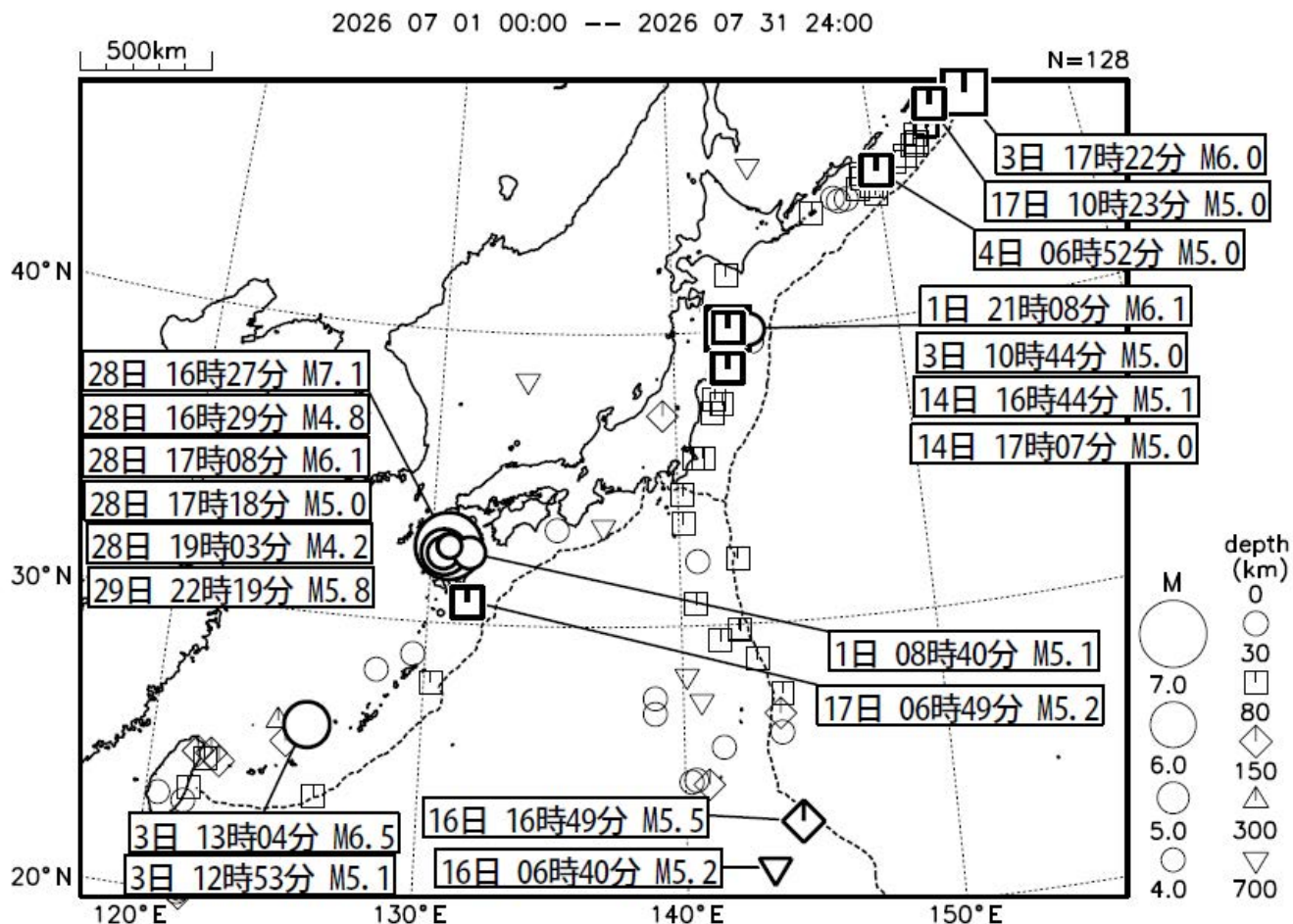
御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺で見られる長期的な沈降傾向はフィリピン海プレートの沈み込みに伴うもので、その傾向に大きな変化はありません。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。」

- 参考 1 「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安
- ① M6.0 以上または最大震度が 4 以上のもの。
 - ②内陸 M4.5 以上かつ最大震度が 3 以上のもの。
 - ③海域 M5.0 以上かつ最大震度が 3 以上のもの。
- 参考 2 「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安
- 1 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
 - 2 「主な地震活動」として記述された地震活動（一年程度以内）に関連する活動。
 - 3 評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。
 - 4 一連で M6.0 以上が推定されたゆっくりすべりとそれに伴って発生した低周波地震(微動)。

2026 年 7 月の地震活動の評価に関する資料

2026 年 7 月の全国の地震活動 (マグニチュード 4.0 以上)



- ・ 7 月 1 日 21 時 08 分に岩手県沖で M6.1 の地震（最大震度 4）が発生した。
- ・ 7 月 3 日 13 時 04 分に宮古島北西沖で M6.5 の地震（最大震度 3）が発生した。
- ・ 7 月 3 日 17 時 22 分に北西太平洋で M6.0 の地震（日本国内で震度 1 以上を観測した地点はなし）が発生した。
- ・ 7 月 28 日 16 時 27 分に熊本県熊本地方で M7.1 の地震（最大震度 7）が発生した。
- ・ 7 月 28 日 16 時 29 分に熊本県熊本地方で M4.8 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。
- ・ 7 月 28 日 17 時 08 分に熊本県熊本地方で M6.1 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。
- ・ 7 月 28 日 19 時 03 分に熊本県熊本地方で M4.2 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。
- ・ 7 月 29 日 22 時 19 分に熊本県天草・芦北地方で M5.8 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。

(上記期間外)

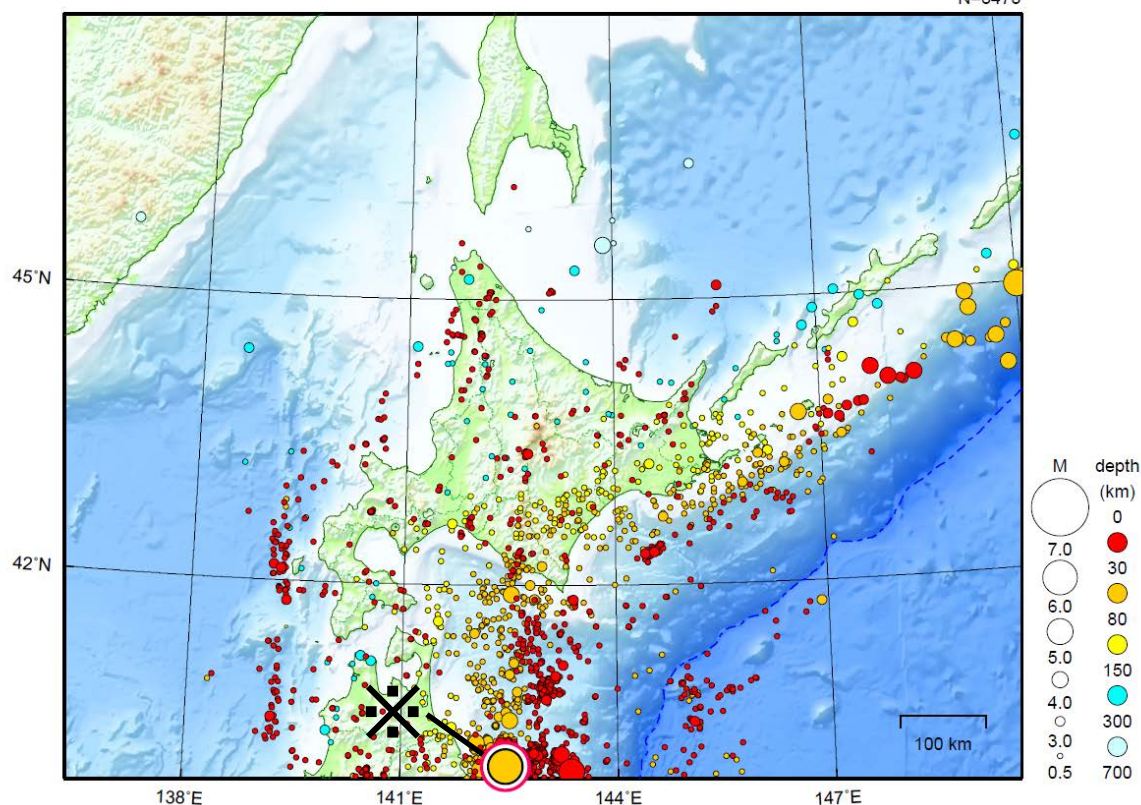
- ・ 8 月 1 日 21 時 47 分に熊本県熊本地方で M4.7 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。
また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。]

北海道地方

2026/07/01 00:00 ~ 2026/07/31 24:00

N=3473



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

※で示した地震については東北地方の資料を参照。

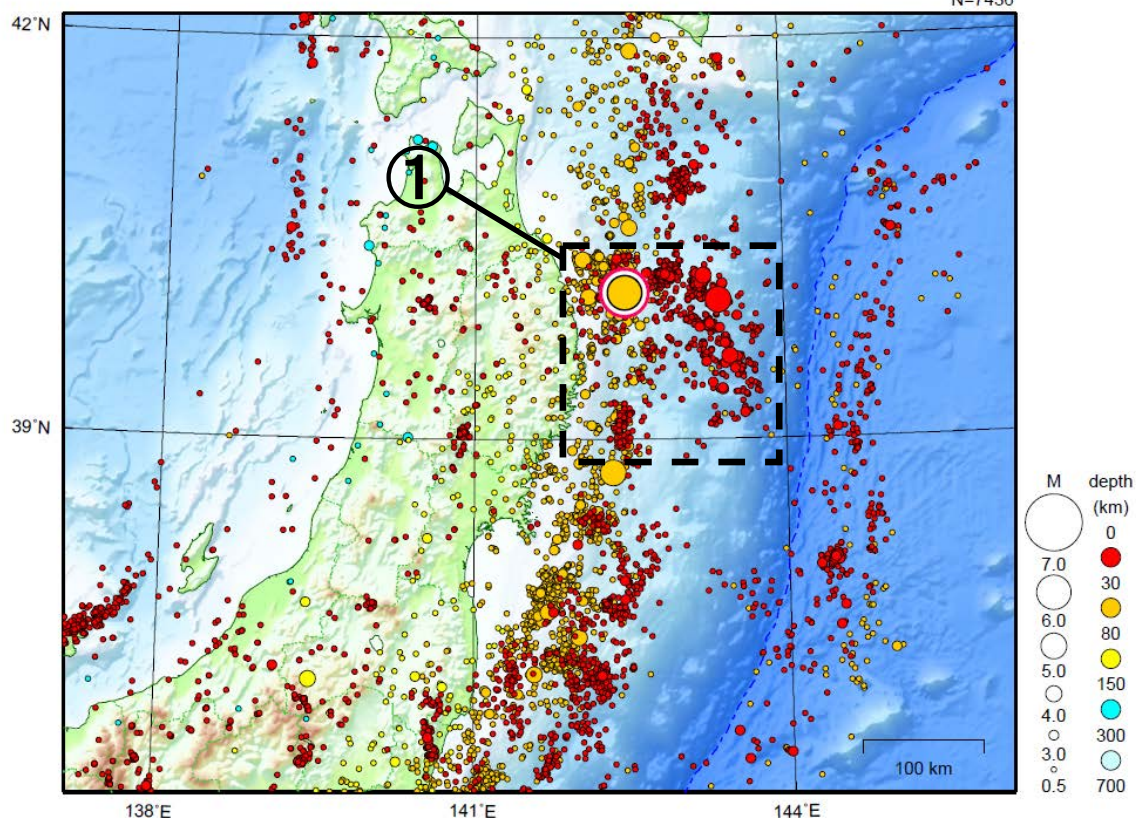
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

東北地方

2026/07/01 00:00 ~ 2026/07/31 24:00

N=7436



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 7月1日に岩手県沖で M6.1 の地震(最大震度4)が発生した。2025年11月以降の三陸沖から岩手県沖にかけての地震活動域では、7月中に震度1以上を観測した地震が17回(震度4:1回、震度3:3回、震度2:3回、震度1:10回)発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

7月1日、14日 岩手県沖の地震

(2025年11月以降の三陸沖から岩手県沖にかけての地震活動)

2026年7月1日21時08分に岩手県沖の深さ40kmでM6.1の地震(最大震度4、今回の地震①)が発生した。また、7月14日17時07分にほぼ同じ震央の深さ39kmでM5.0の地震(最大震度3、今回の地震②)が発生した。これらの地震は、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。これらの地震の発震機構(CMT解)は東西方向に圧力軸を持つ型である。

2020年9月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域b)では、2025年11月4日からまとまった地震活動が見られるようになり、11月9日にM6.9の地震(最大震度4)が発生した。その後、この地震の北西側で2026年4月20日にM7.7の地震(最大震度5強)が発生すると、地震活動はさらに活発となった。さらに2026年6月25日にはM7.2の地震(最大震度6強)が発生し、その近傍で今回の地震が発生した。

2025年11月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、2026年4月20日に発生したM7.7の地震以降、地震活動域が北西側に広がっている。この活動域の北西端で2026年6月25日にM7.2の地震が発生し、その後1週間以内にM6.0以上の地震が2回発生した(6月28日M6.1、7月1日M6.1)。領域cでは、2026年7月1日から31日までに震度1以上を観測する地震が17回(震度4:1回、震度3:3回、震度2:3回、震度1:10回)発生するなど、活発な地震活動が継続している。

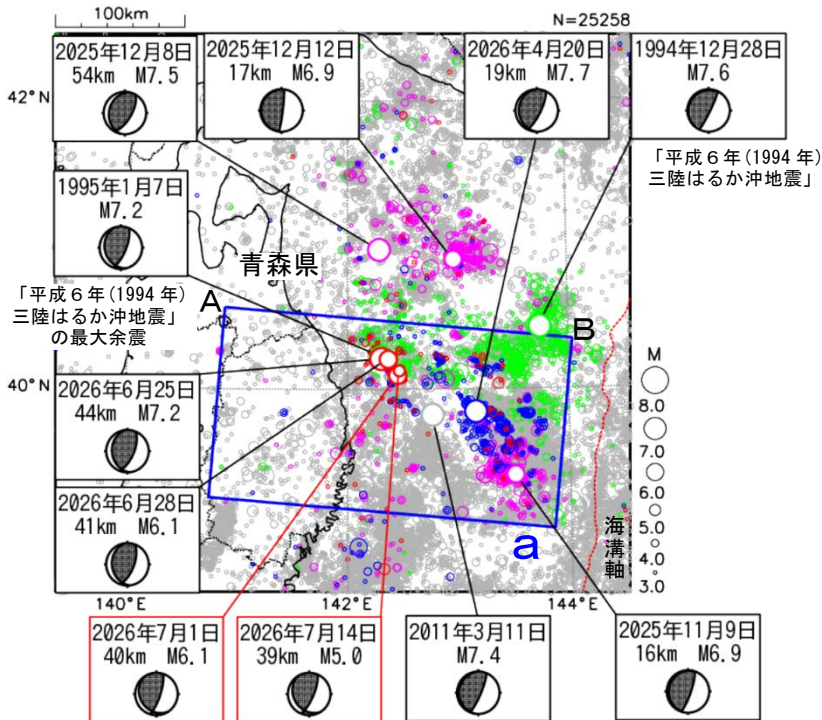
1994年12月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近では、1995年1月7日にM7.2の地震(最大震度5、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の最大余震)が発生している。

震央分布図

(1994年12月1日~2026年7月31日、深さ0~140km、M≥3.0)

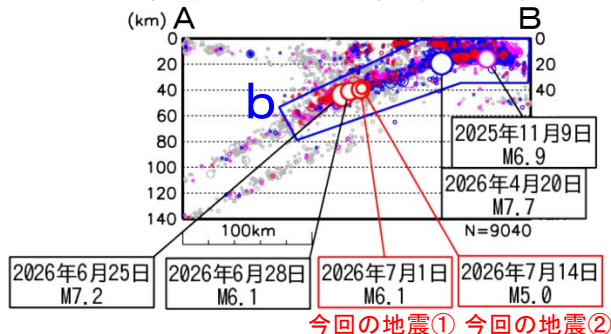
- 1994年12月1日~1995年1月31日 ○ 1995年2月1日~2025年10月31日
- 2025年11月1日~2026年4月19日 ○ 2026年4月20日~2026年6月24日
- 2026年6月25日以降

図中の発震機構はCMT解を示す



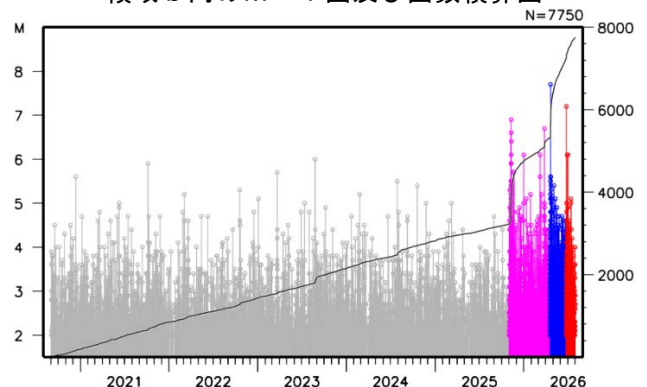
今回の地震① 今回の地震②

領域a内の断面図 (A-B投影)
(2020年9月1日~2026年7月31日、M≥2.0)



今回の地震① 今回の地震②

領域b内のM-T図及び回数積算図

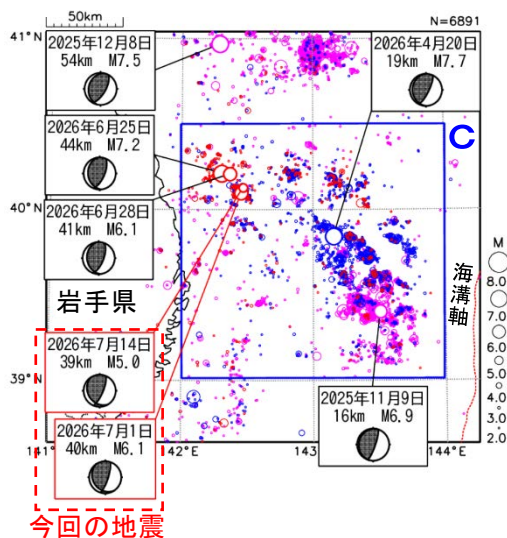


気象庁作成

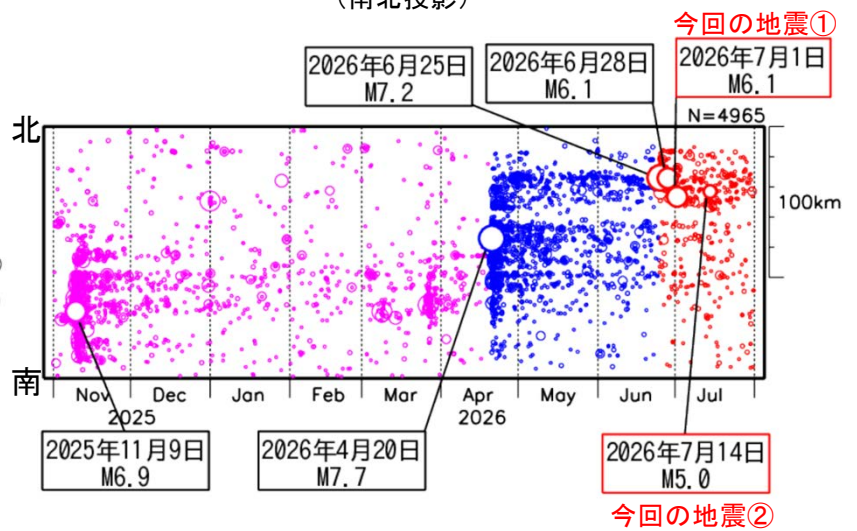
震央分布図及び領域 c 内の時空間分布図
(2025年11月1日～2026年7月31日、
深さ 0 ～80km、 $M \geq 2.0$)

- 2025年11月1日～2026年4月19日
- 2026年4月20日～2026年6月24日
- 2026年6月25日以降

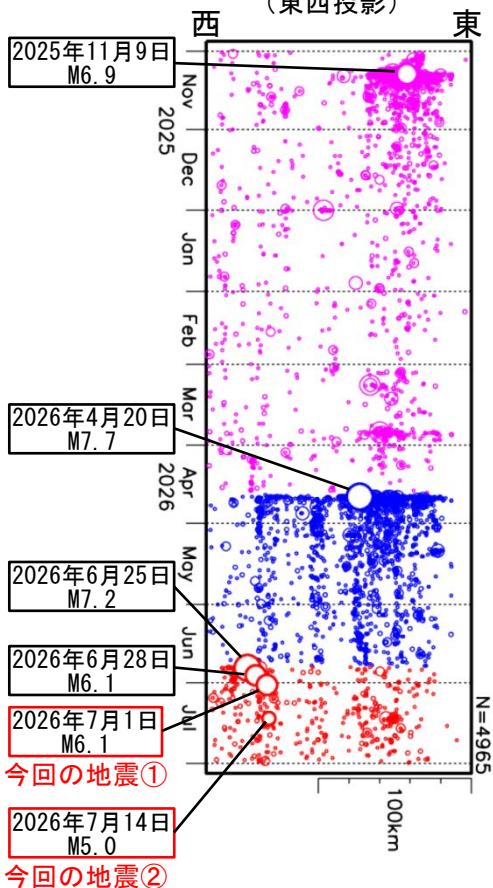
図中の発震機構はCMT解を示す



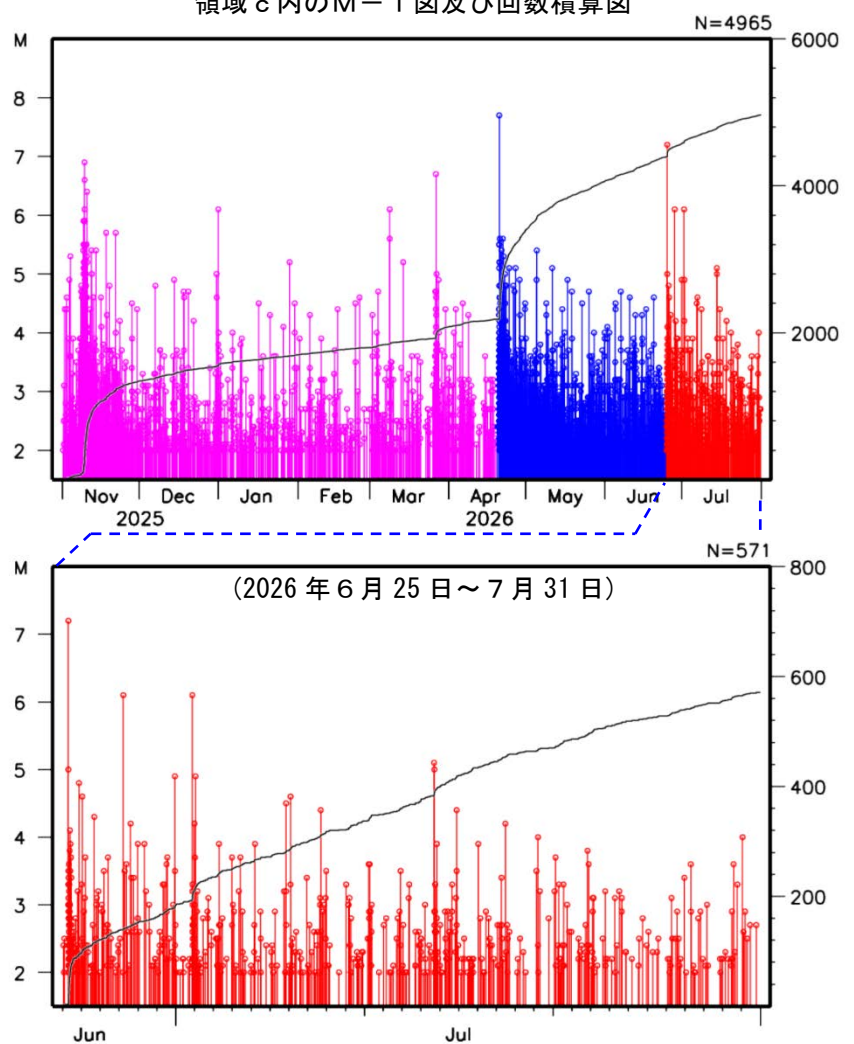
(南北投影)



(東西投影)

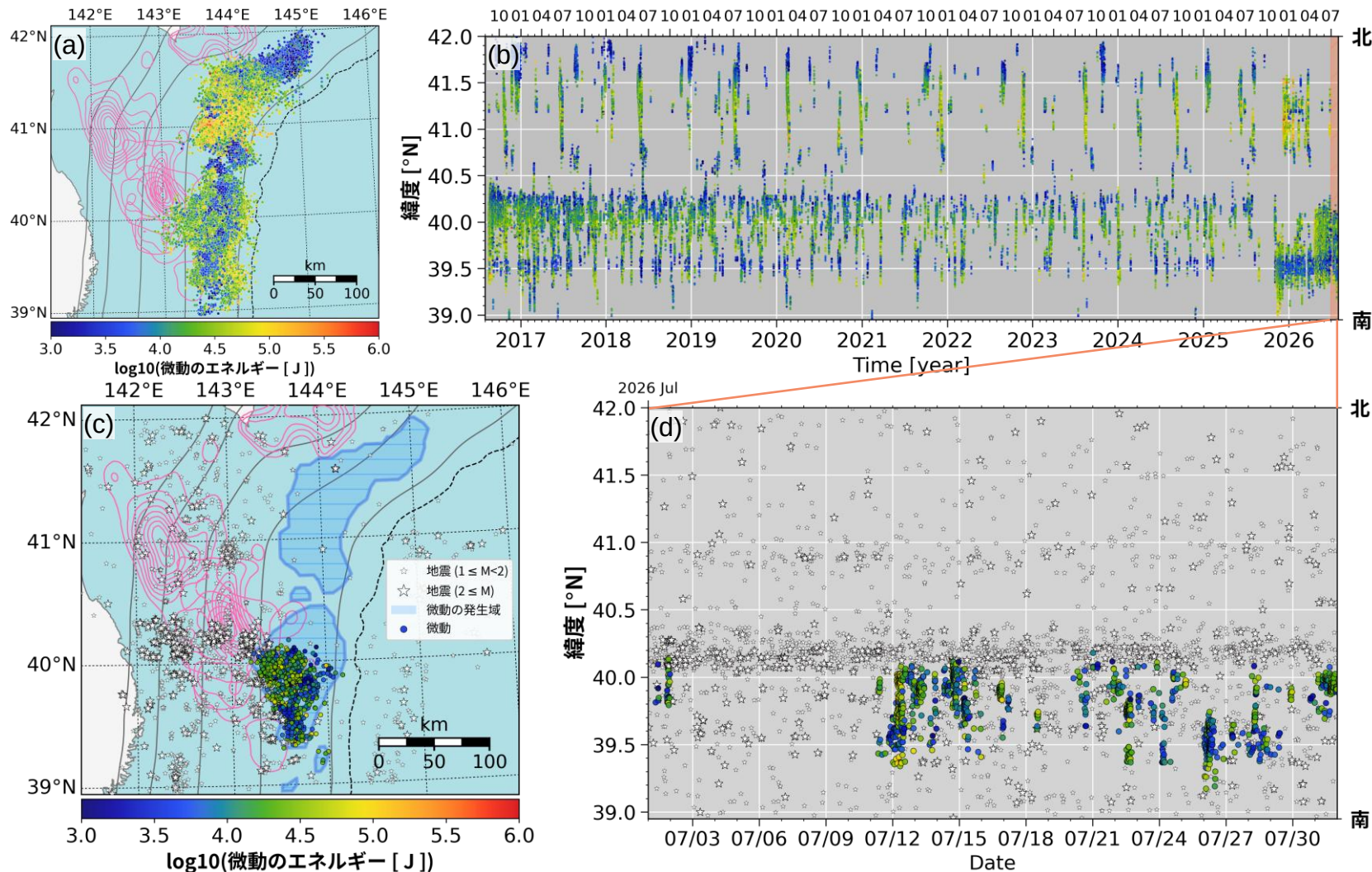


領域 c 内の M-T 図及び回数積算図



2026年7月の日本海溝北部における微動活動

- 三陸沖で4月20日のM7.7の地震後から継続する微動活動を観測
- 青森沖では微動活動の観測なし



(a-b) 2016/08/15 から 2026/07/31までの微動分布
(c-d) 2026/07/01 から 2026/07/31までの微動分布
※ Sagae et al. (2025) の手法で解析した

謝辞: 2026/07/01-2026/07/31 までの気象庁一元化震源カタログを使用しました。防災科学技術研究所S-netの地震波形データ、F-net Project による広帯域地震波形を用いたメカニズム解析結果を使用しました。文部科学省「情報科学を活用した地震活動・地震動評価技術の高度化事業」(JPJ013735)の助成を受けたものです。記して感謝申し上げます。

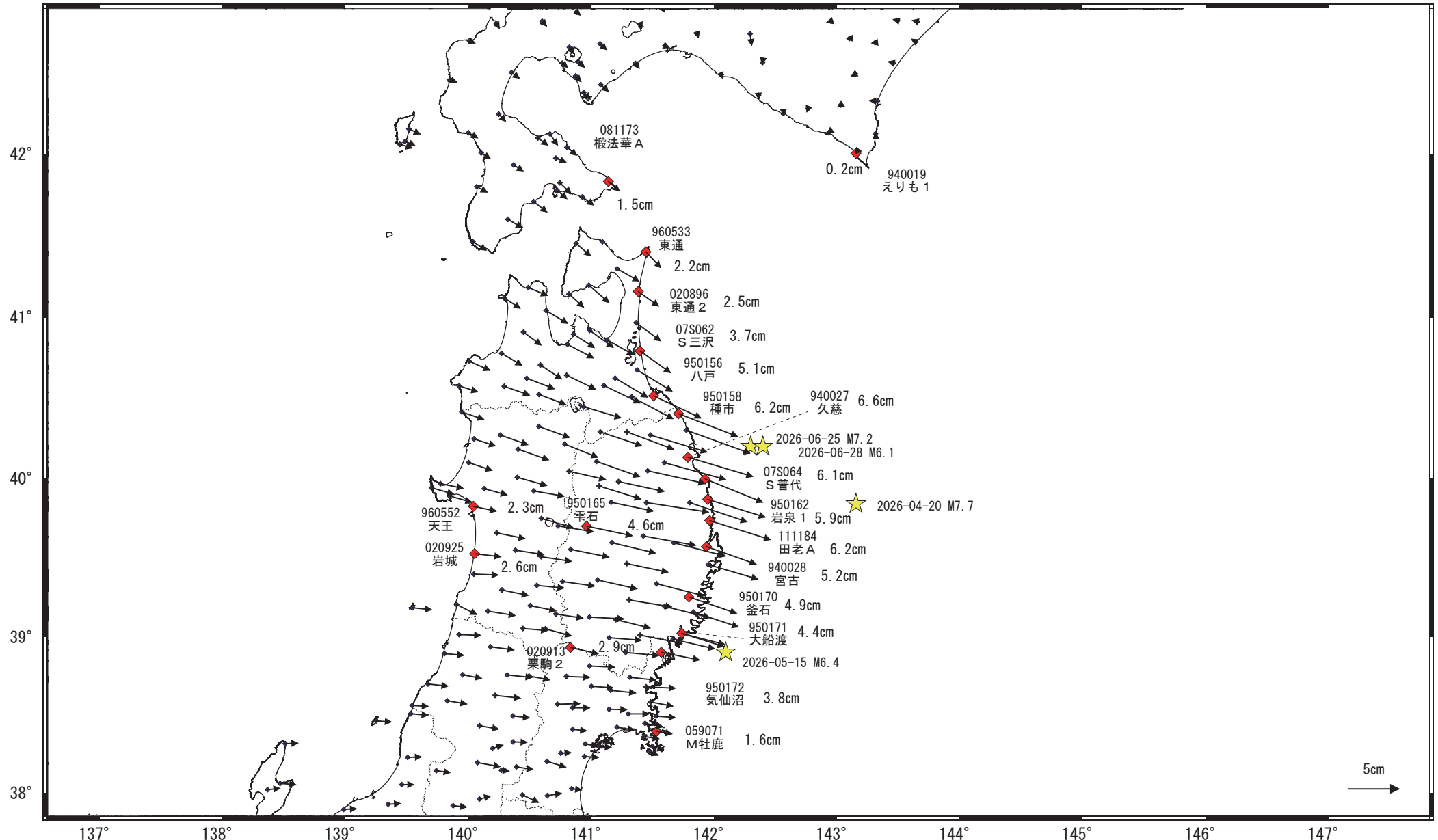
三陸沖の地震(4月20日 M7.7)後の観測データ(暫定)

この地震に伴い余効変動が観測されている。

地殻変動(水平)

基準期間:2026-04-21~2026-04-21[F5.1:最終解]

比較期間:2026-08-02~2026-08-03[R5.1:速報解]



★震央 ◆観測局(グラフ表示)

☆固定局:猿払(950101)(北海道)

※5月15日の宮城県沖の地震及び6月25日の岩手県沖の地震に伴う地殻変動を含んでいる。

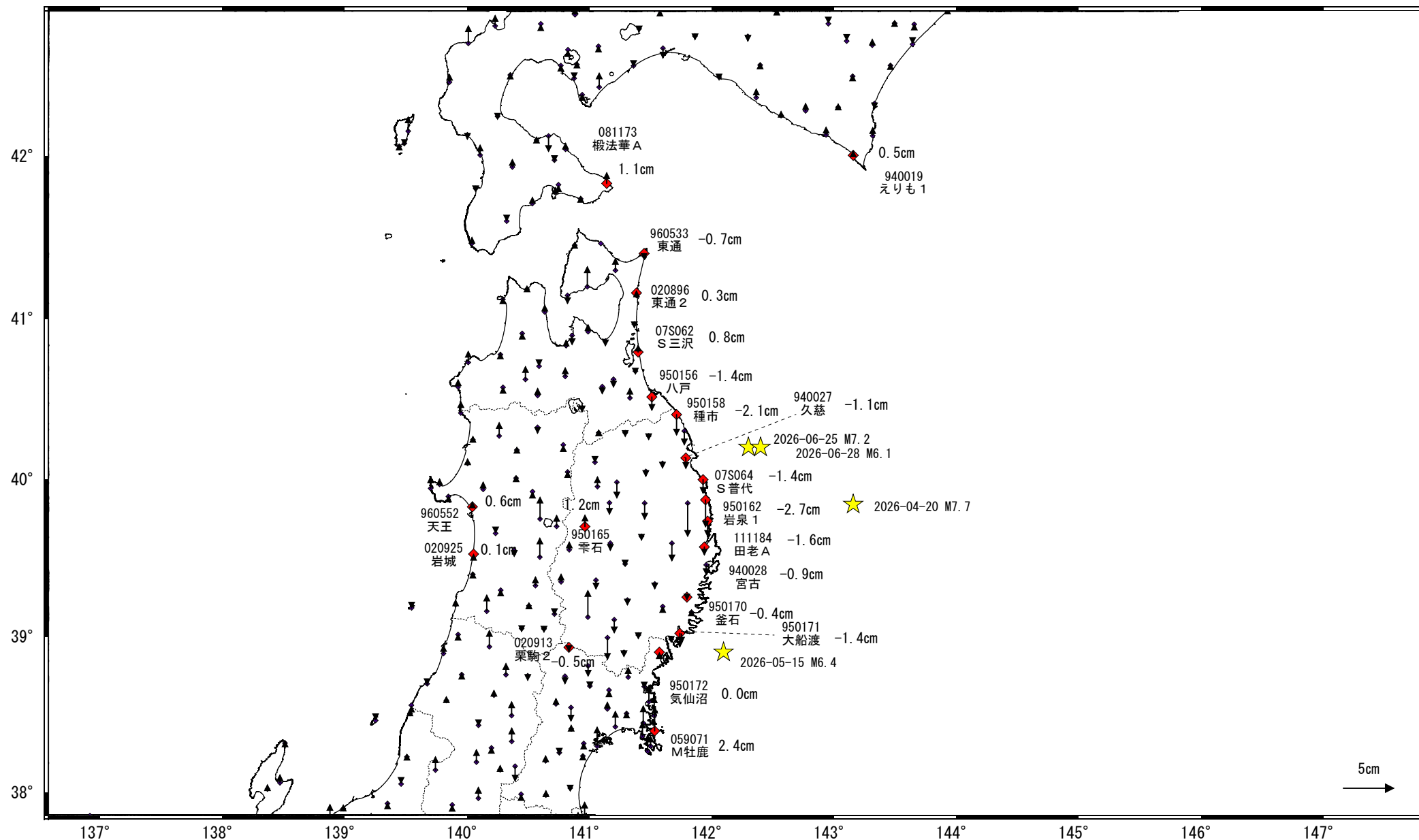
三陸沖の地震(4月20日 M7.7)後の観測データ(暫定)

この地震に伴い余効変動が観測されている。

地殻変動(上下)

基準期間:2026-04-21~2026-04-21[F5.1:最終解]

比較期間:2026-08-02~2026-08-03[R5.1:速報解]



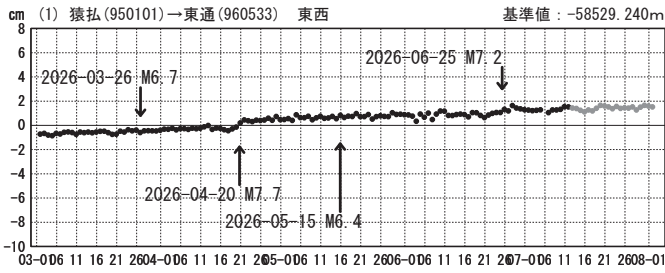
★震央 ◆観測局(グラフ表示)

☆固定局:猿払(950101)(北海道)

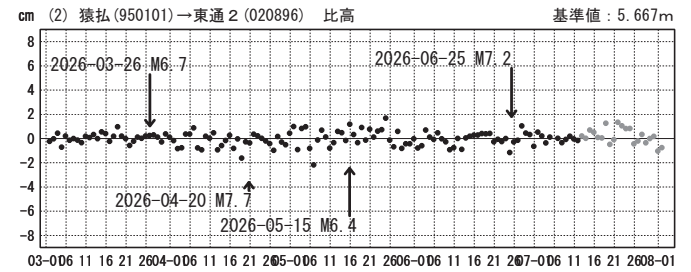
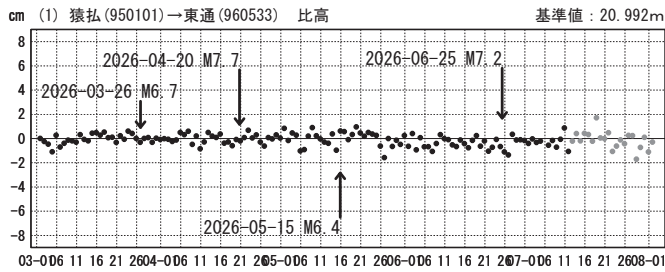
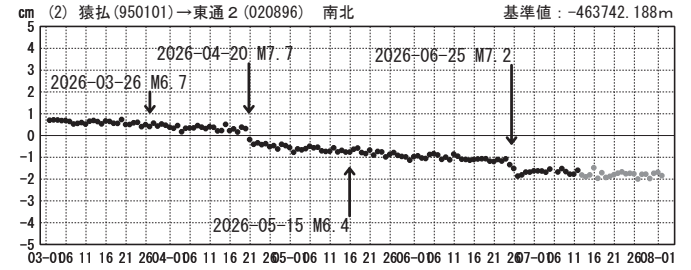
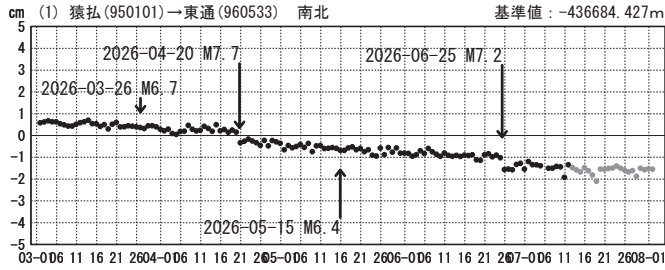
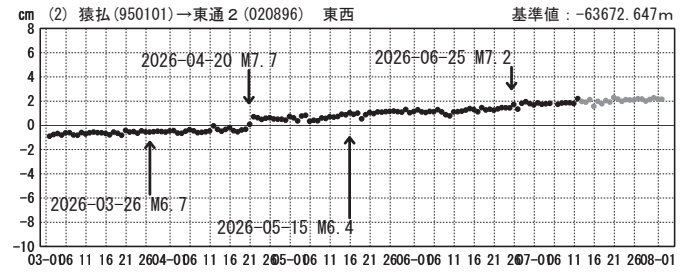
※5月15日の宮城県沖の地震及び6月25日の岩手県沖の地震に伴う地殻変動を含んでいる。

成分変化グラフ

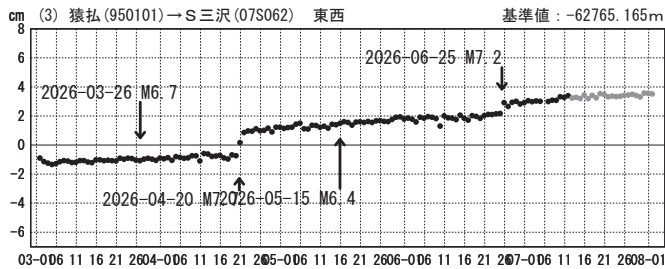
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



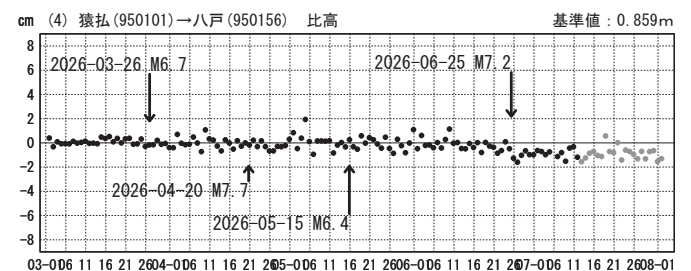
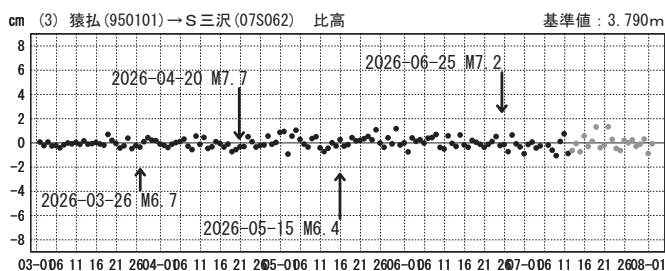
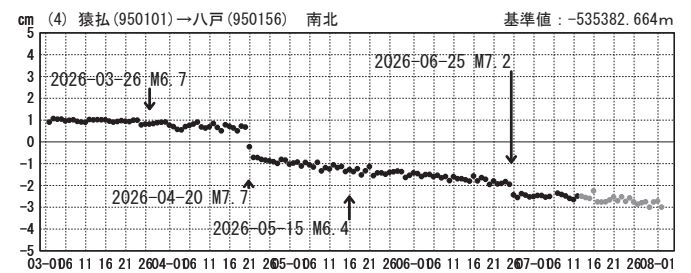
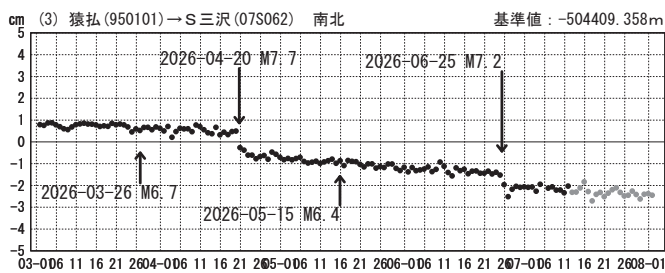
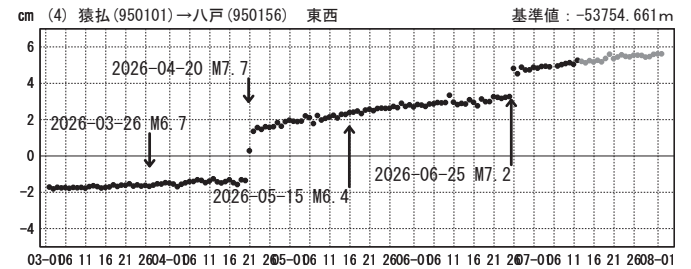
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



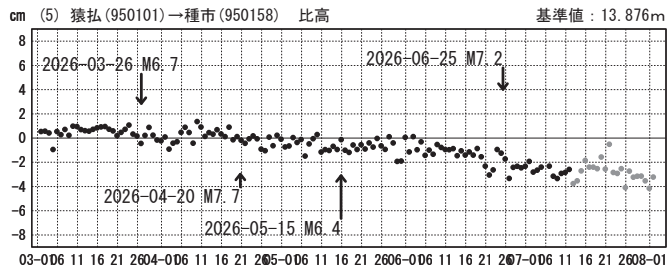
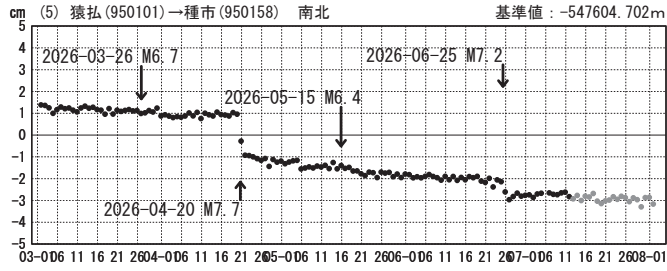
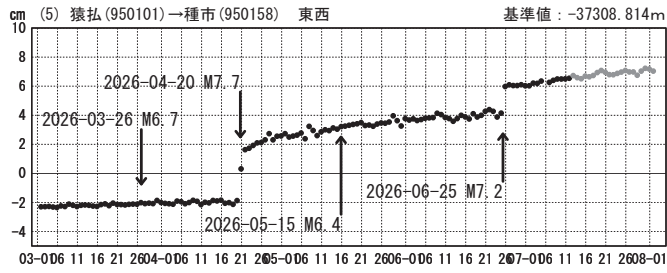
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



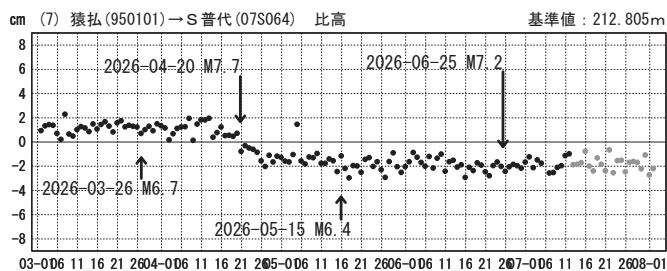
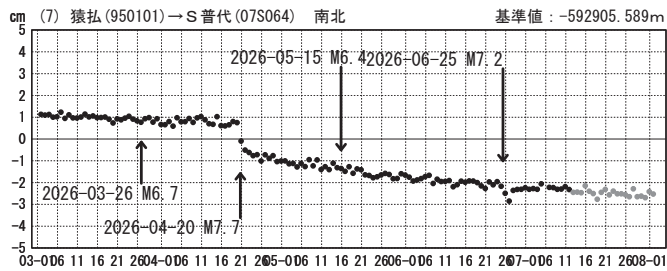
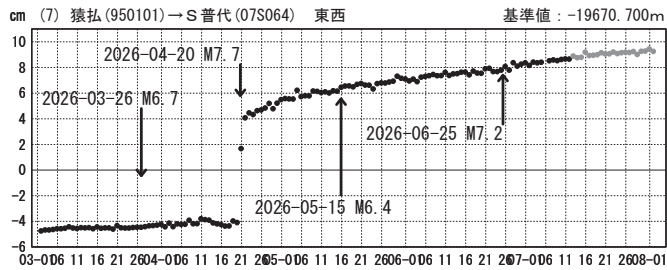
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

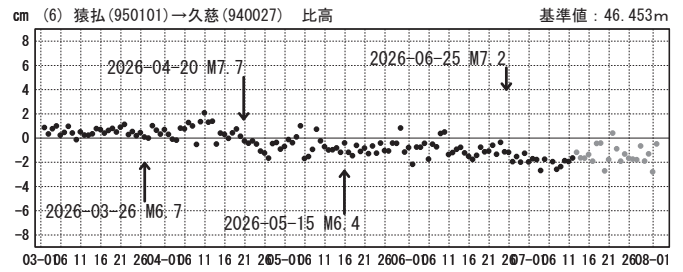
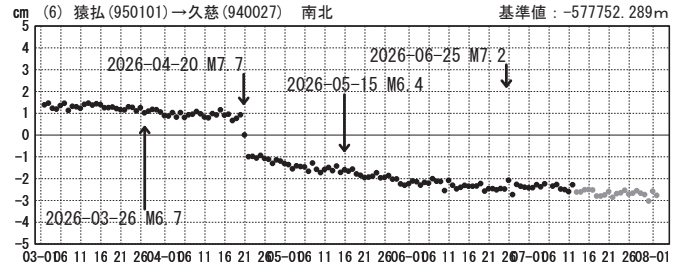
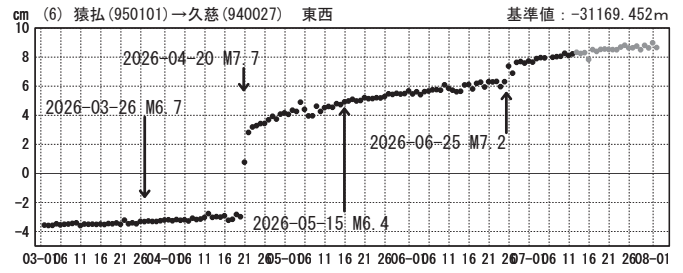
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



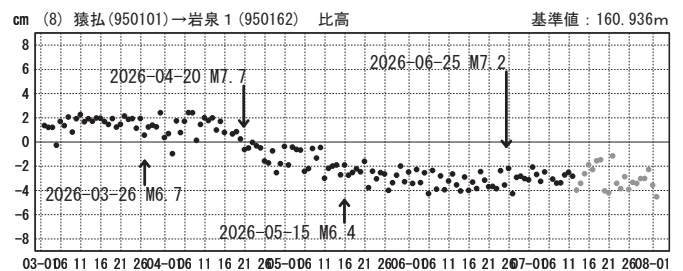
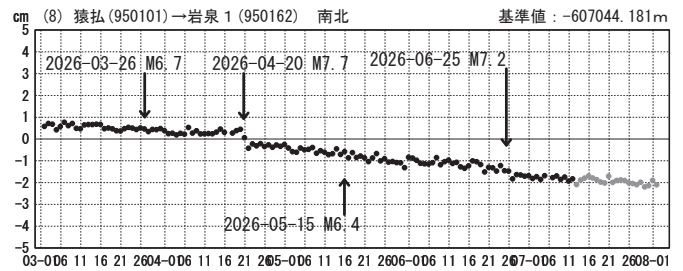
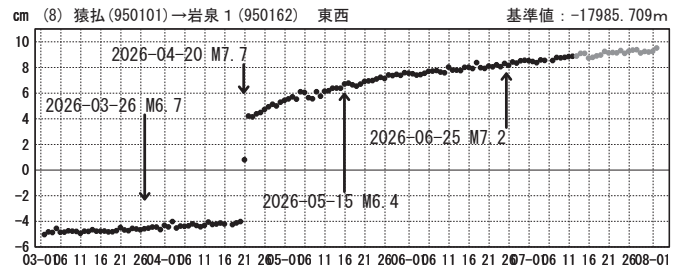
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



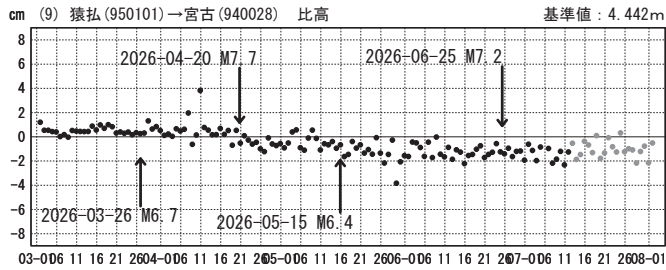
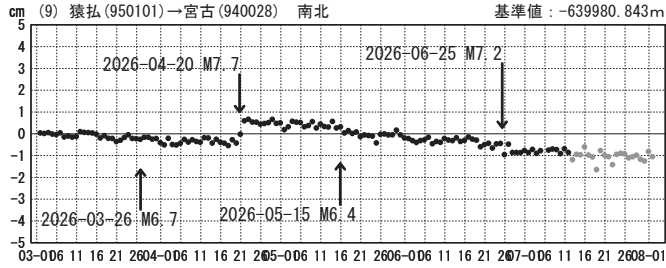
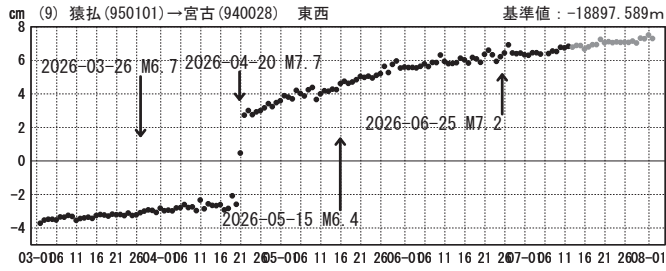
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



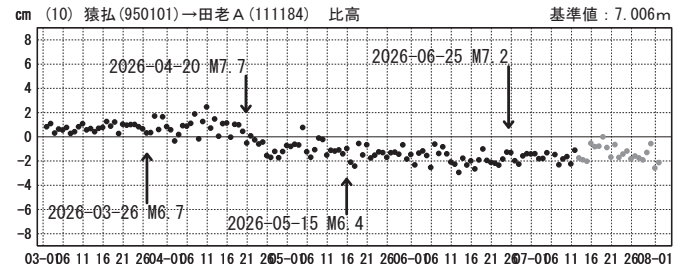
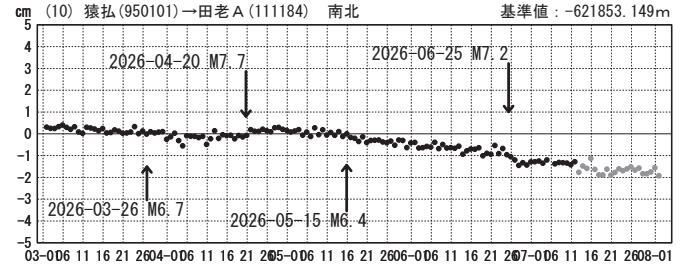
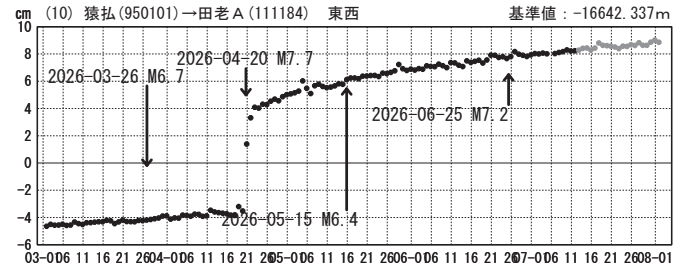
●— [F5.1:最終解] ●— [R5.1:速報解]

成分変化グラフ

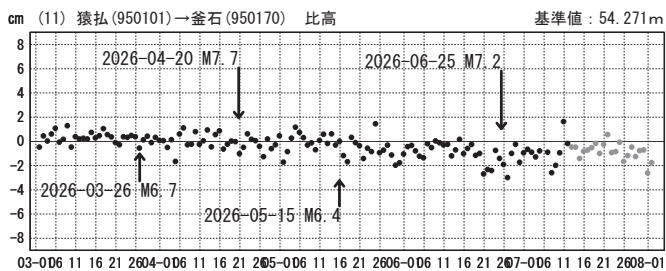
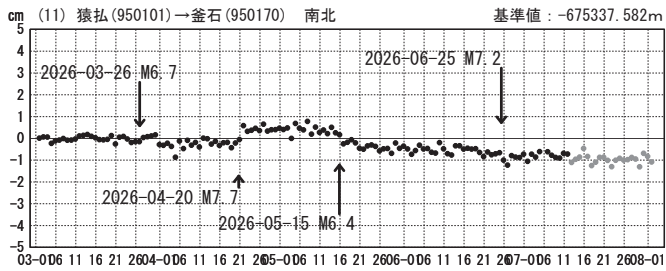
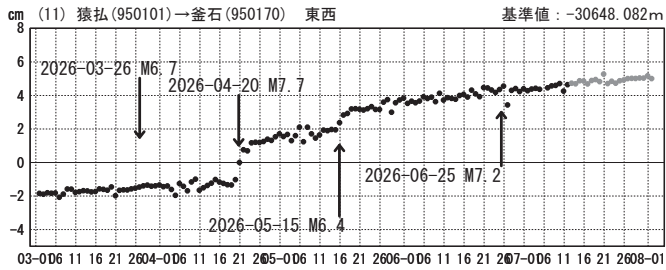
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



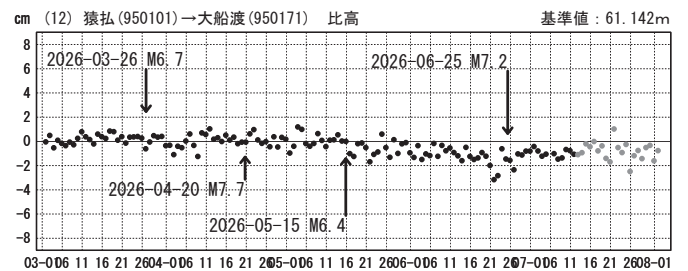
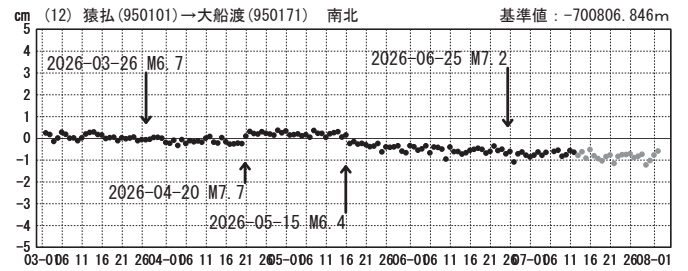
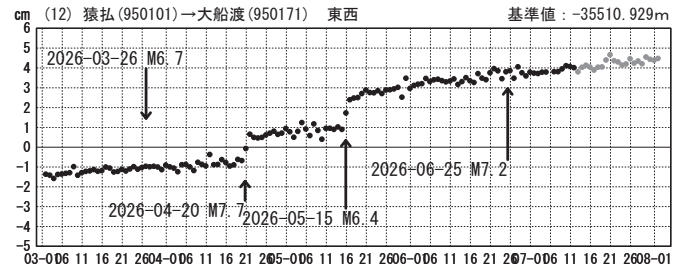
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



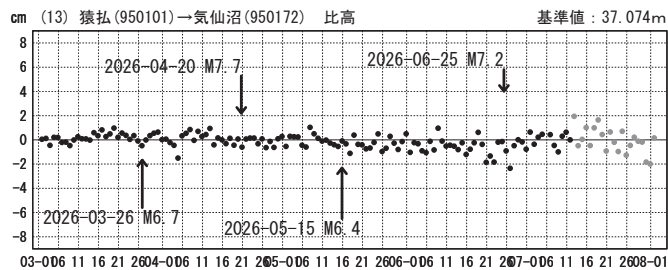
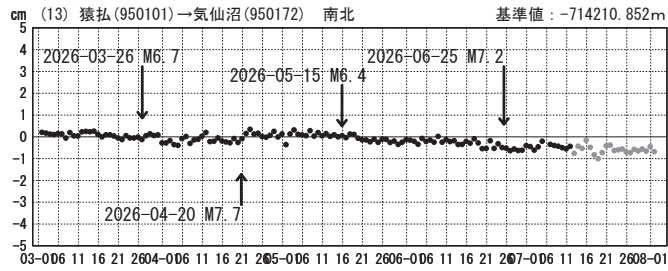
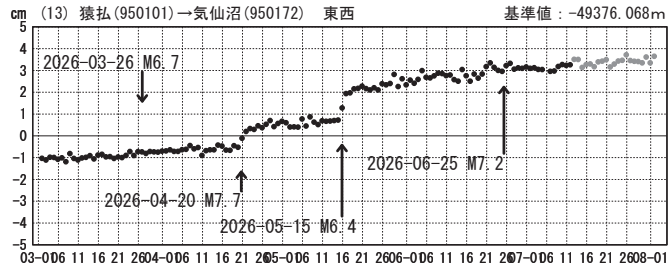
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



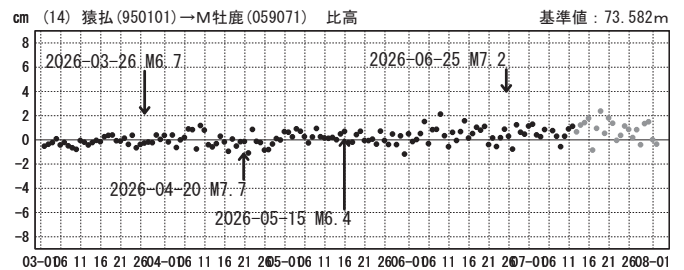
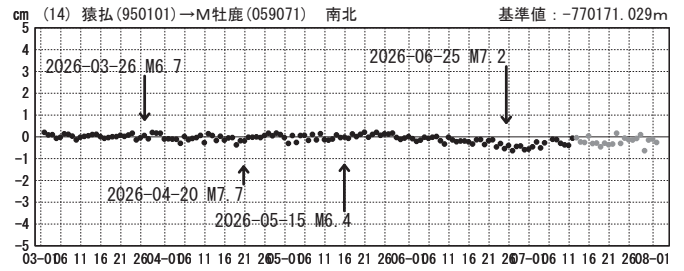
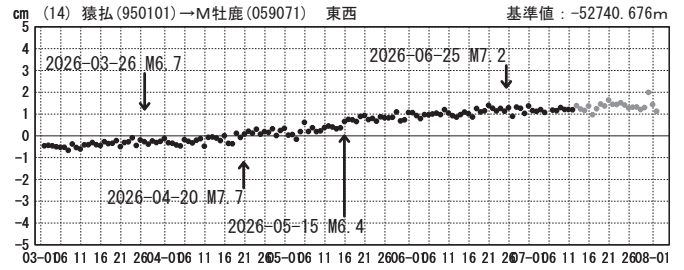
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

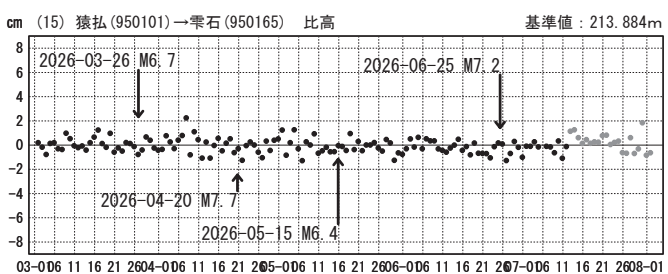
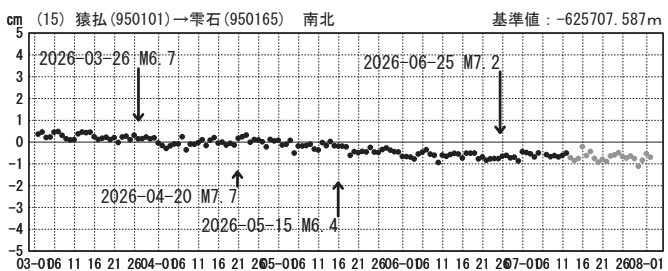
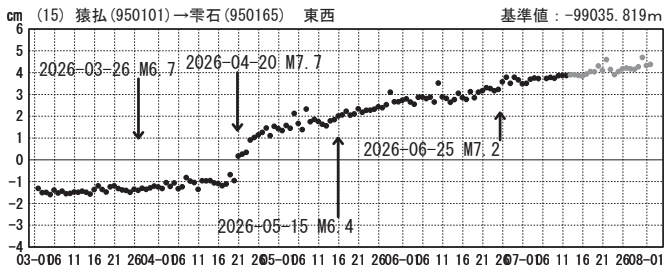
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



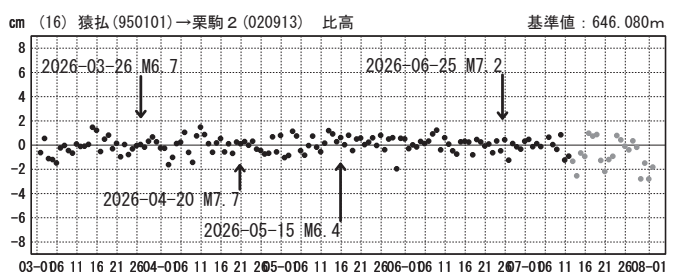
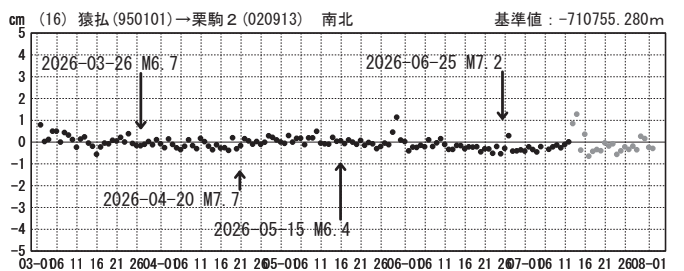
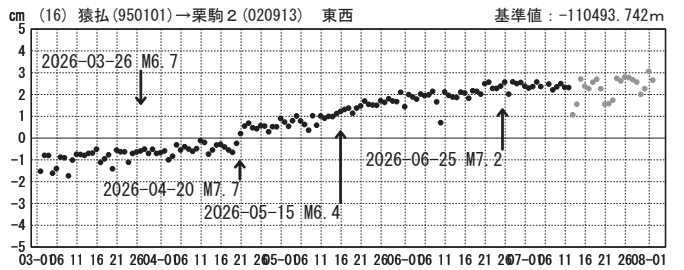
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



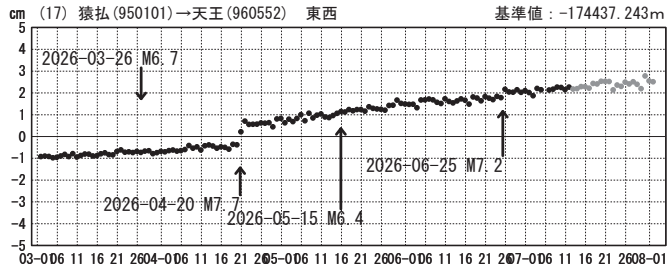
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



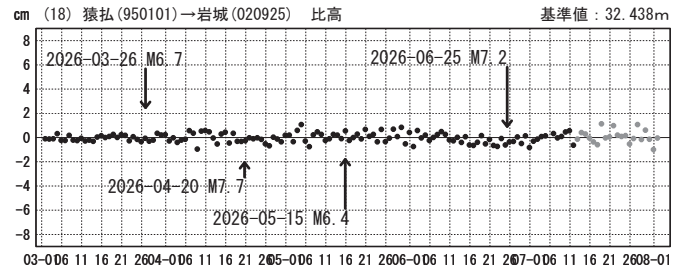
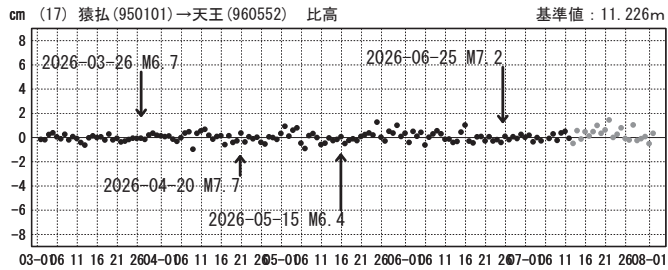
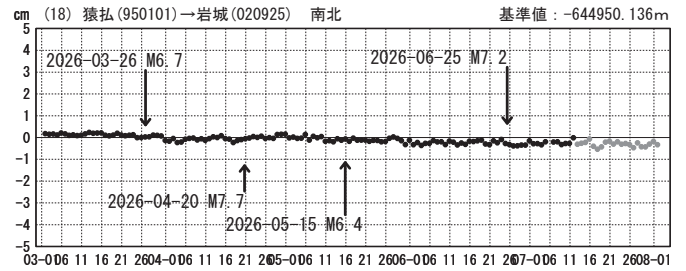
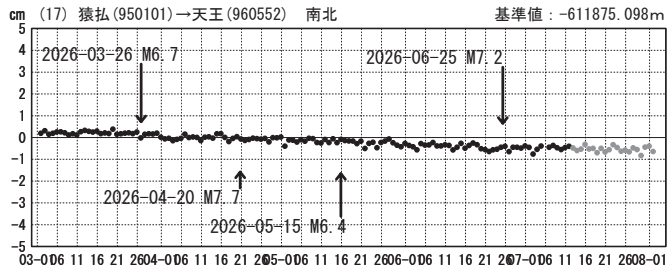
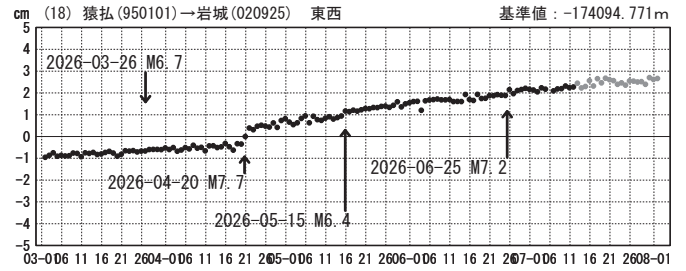
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

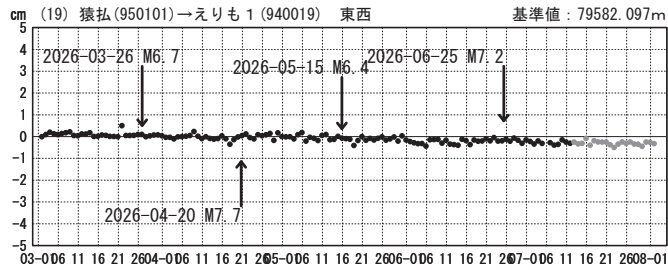
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



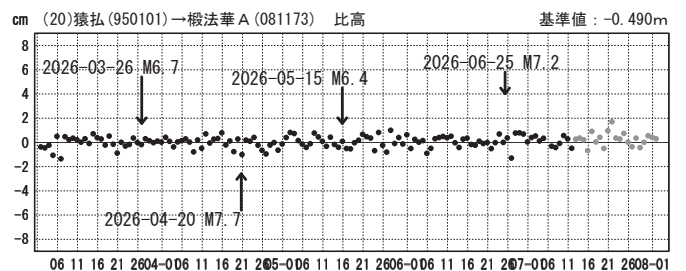
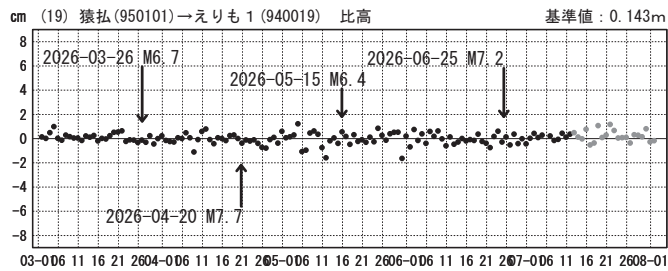
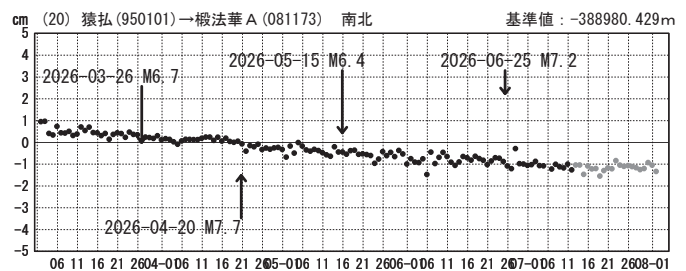
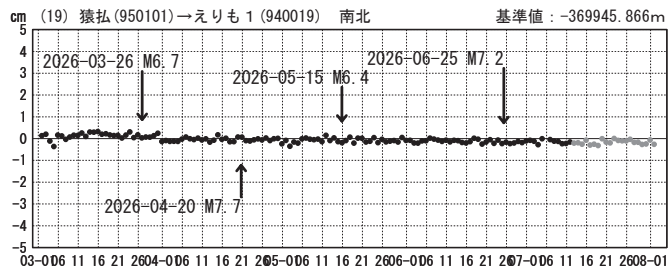
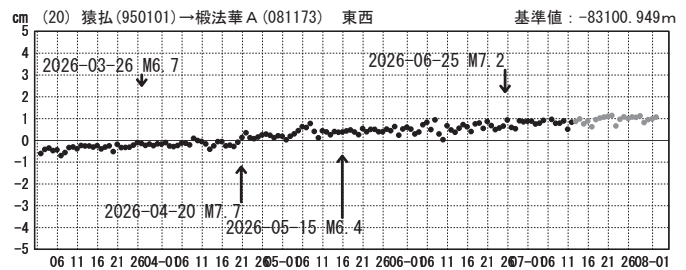
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



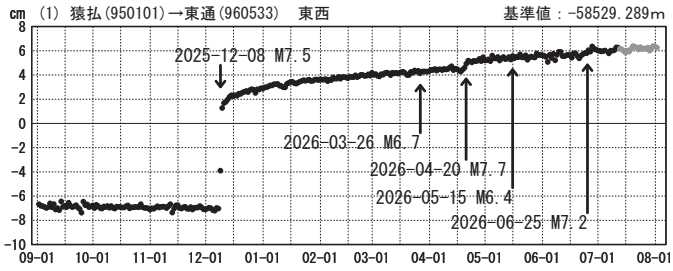
期間：2026-03-01～2026-08-03 JST



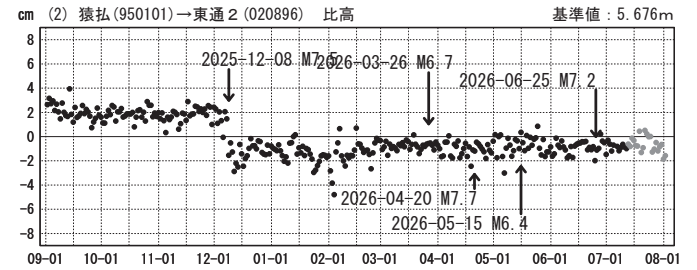
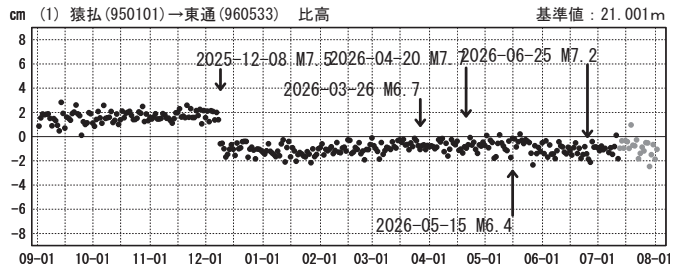
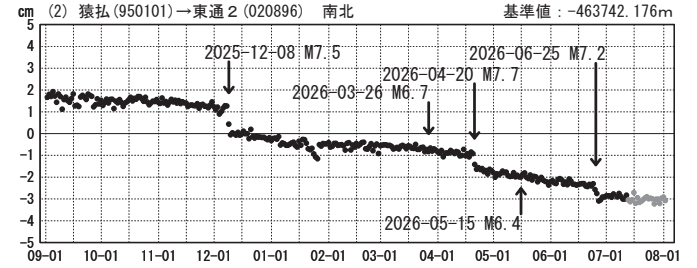
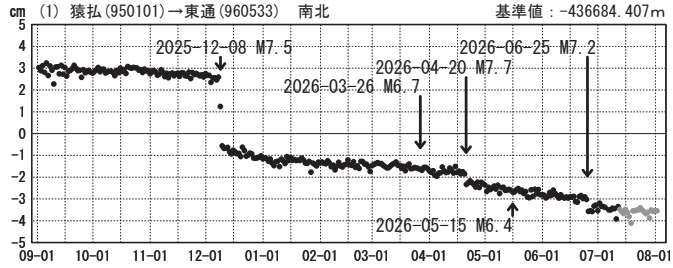
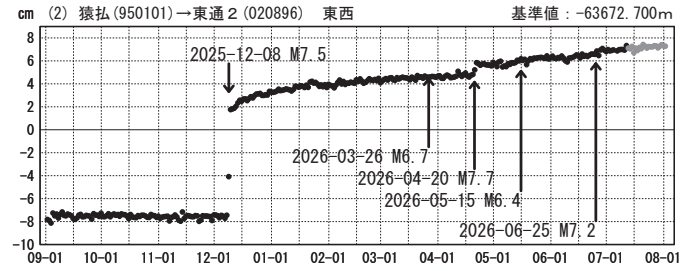
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

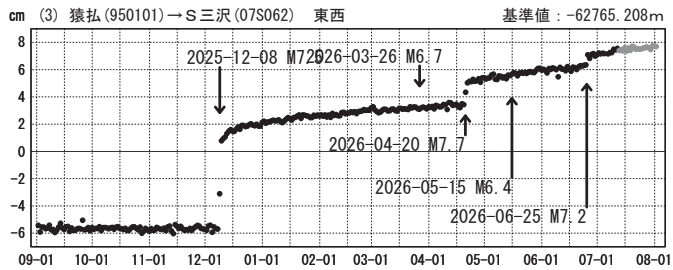
期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



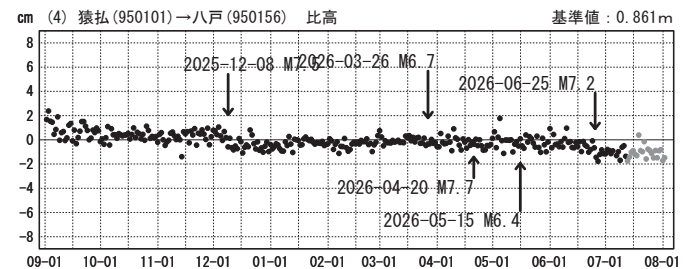
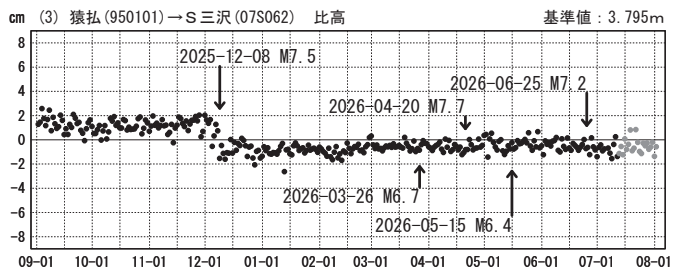
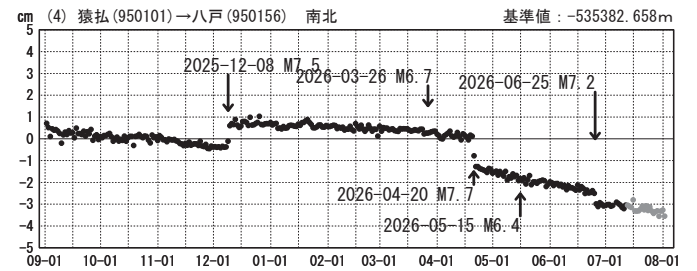
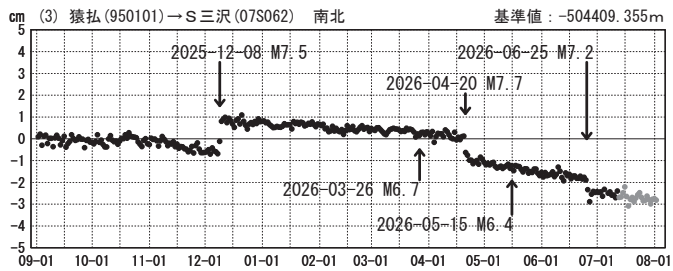
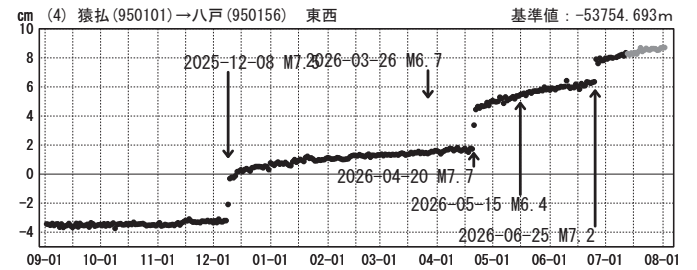
期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



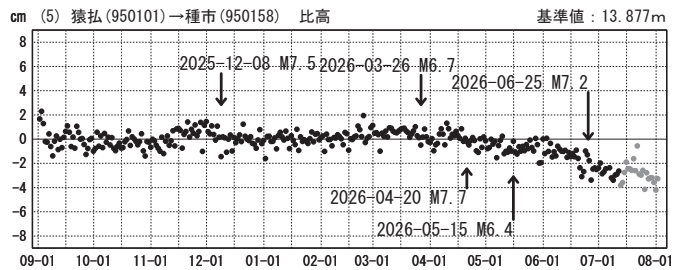
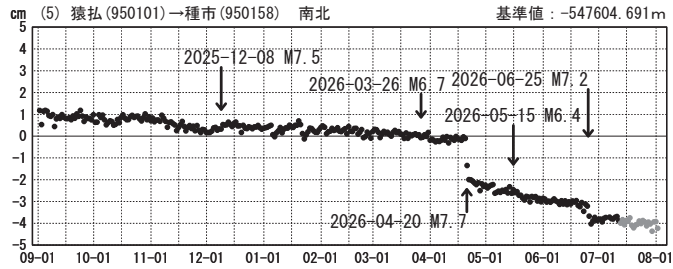
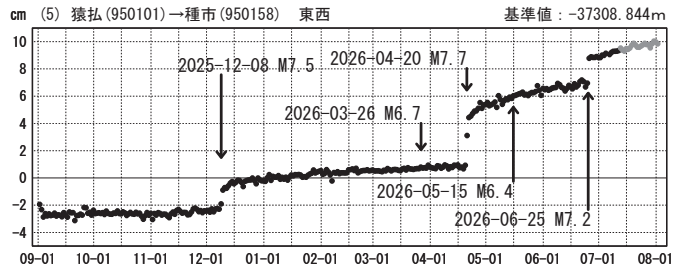
期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



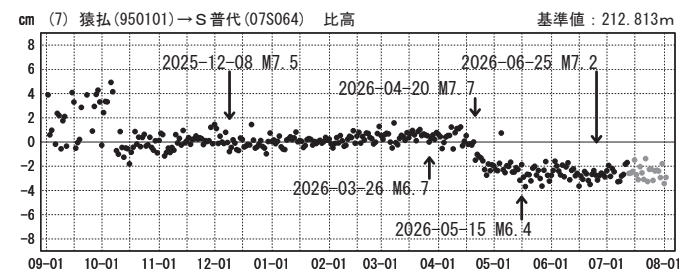
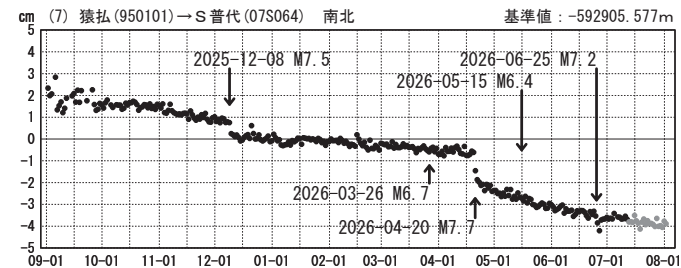
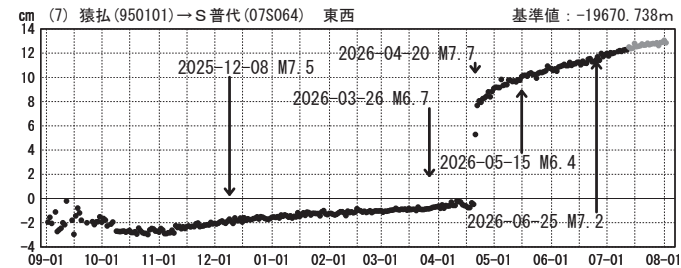
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

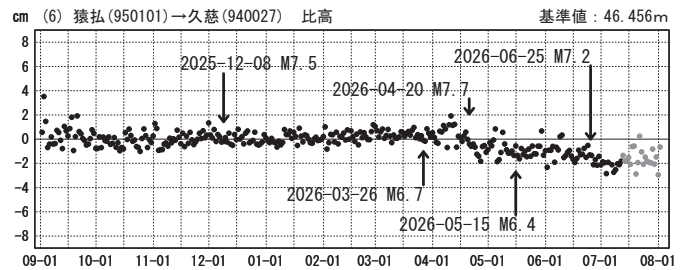
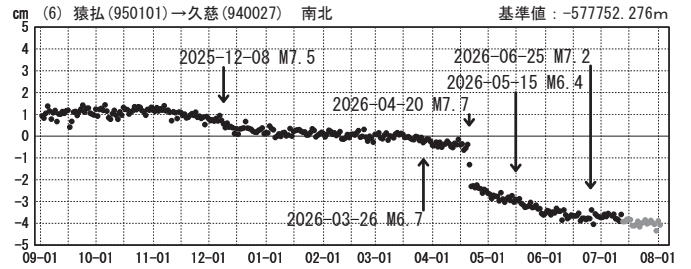
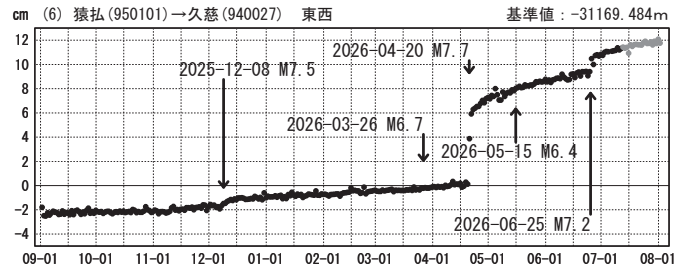
期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



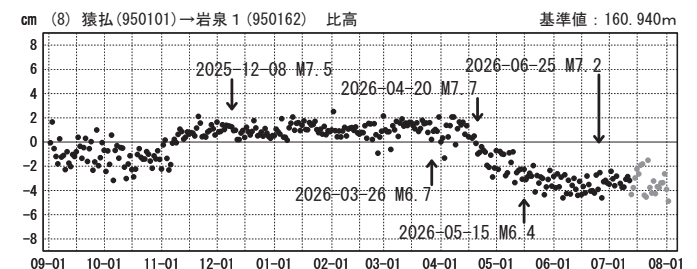
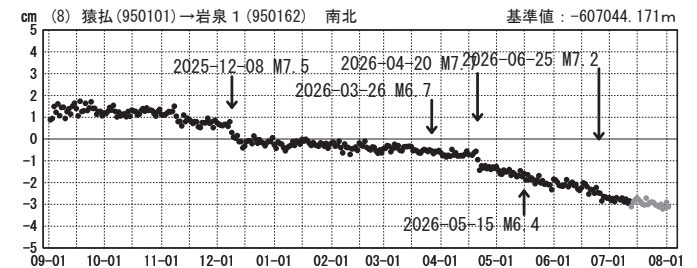
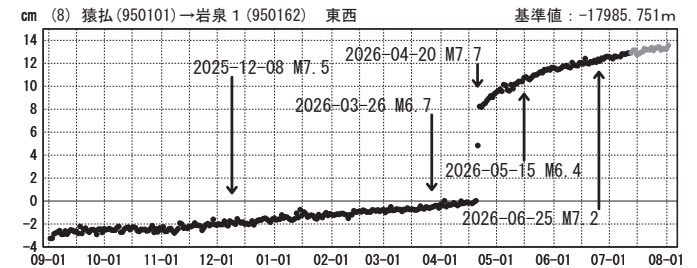
期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



期間：2025-09-01～2026-08-03 JST

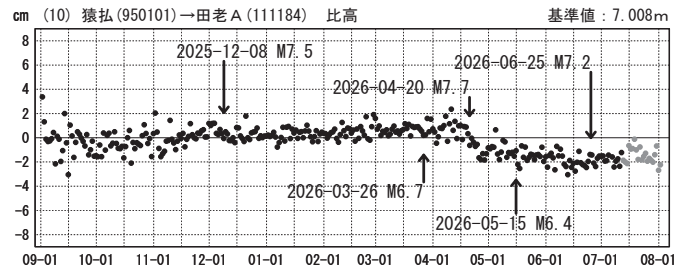
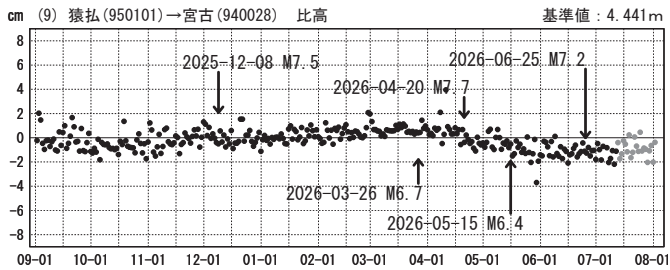
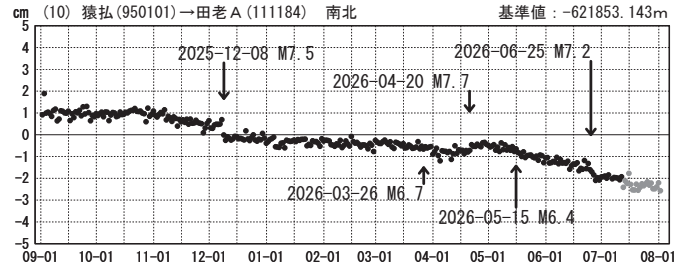
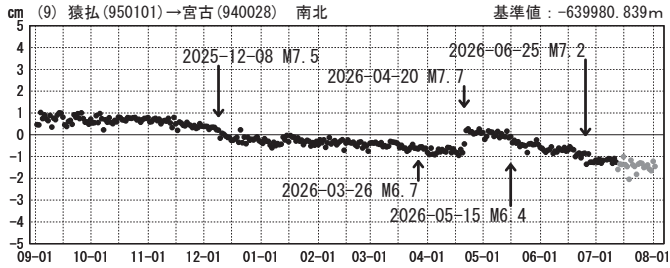
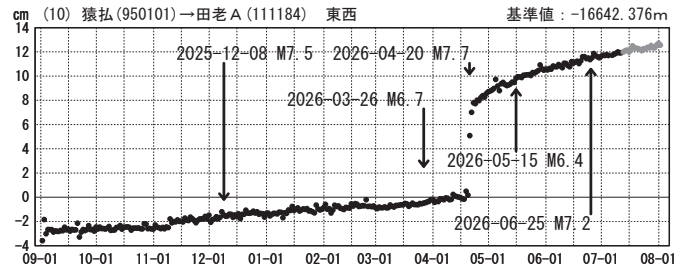
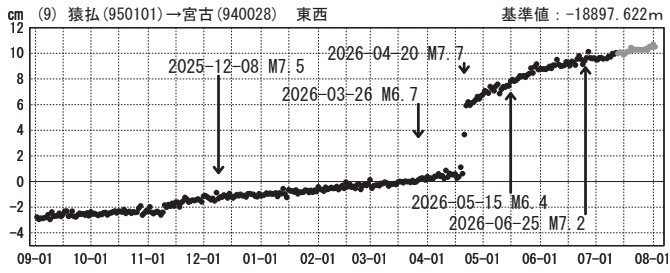


●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解] ×---[Q5.1:迅速解]

成分変化グラフ

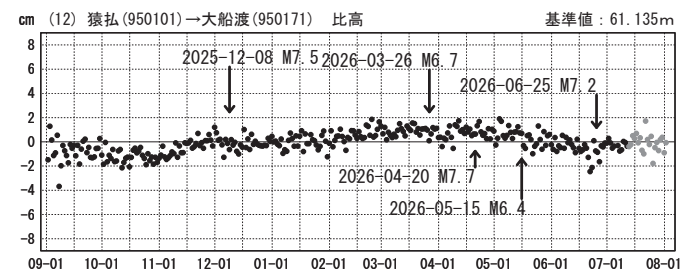
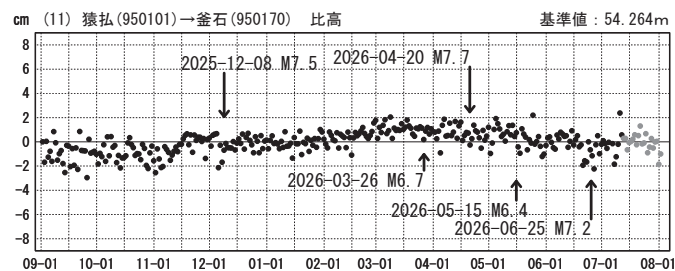
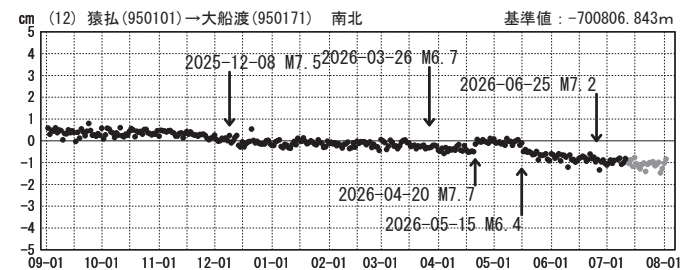
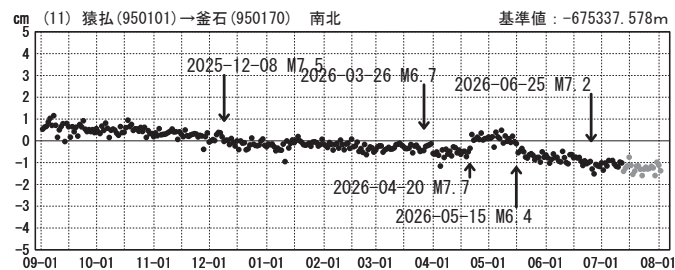
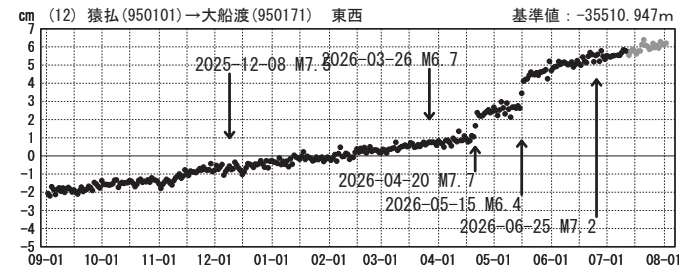
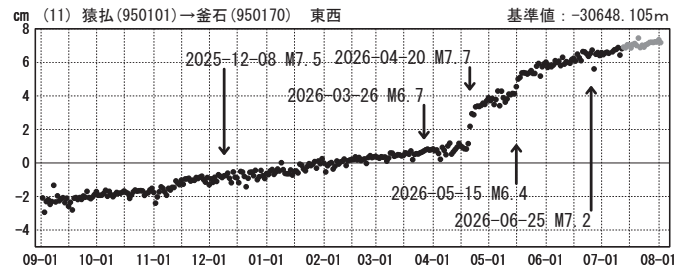
期間：2025-09-01～2026-08-03 JST

期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



期間：2025-09-01～2026-08-03 JST

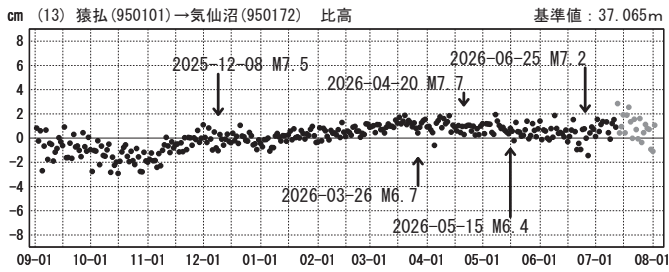
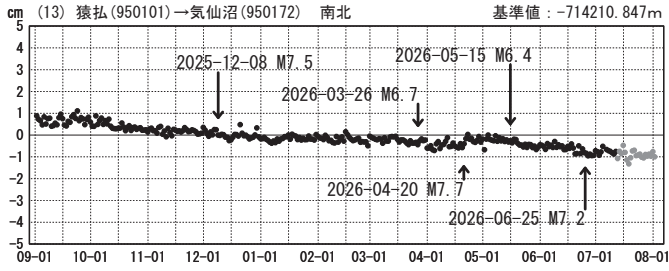
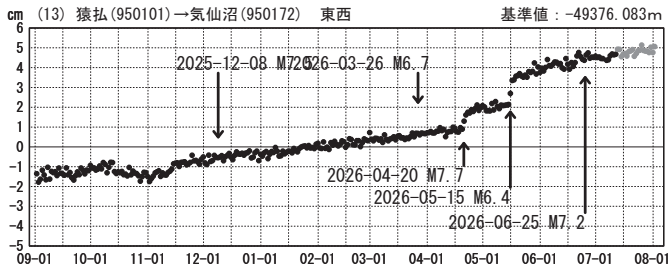
期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



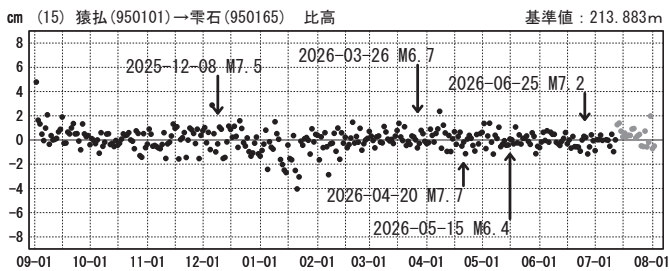
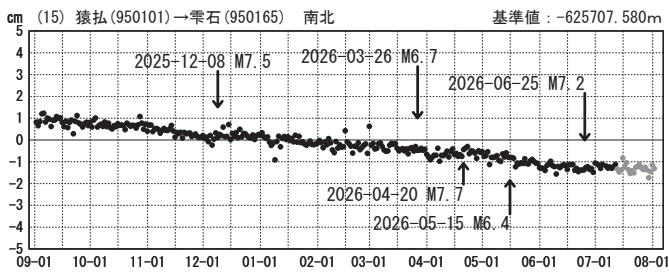
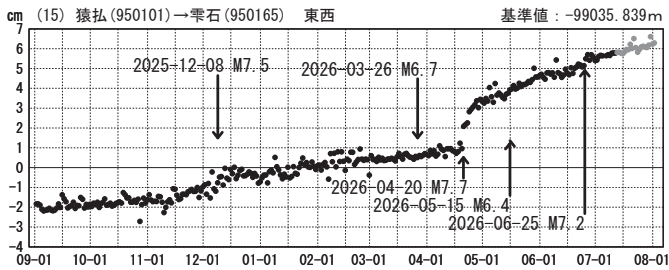
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

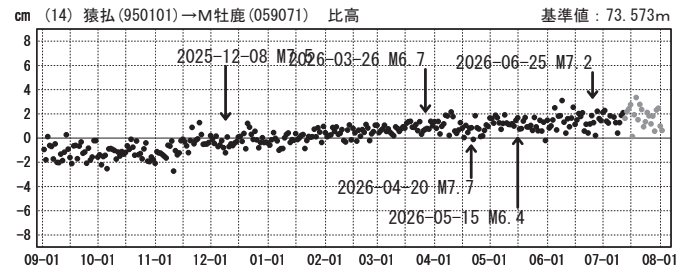
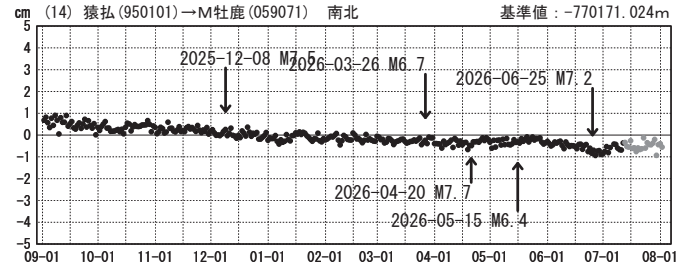
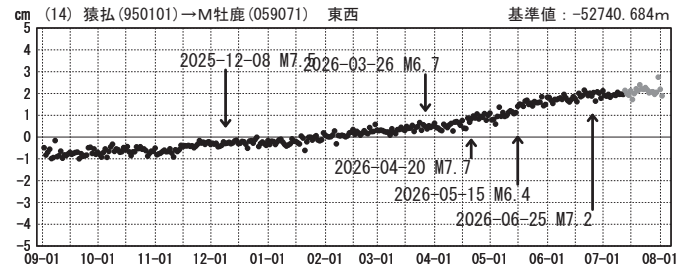
期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



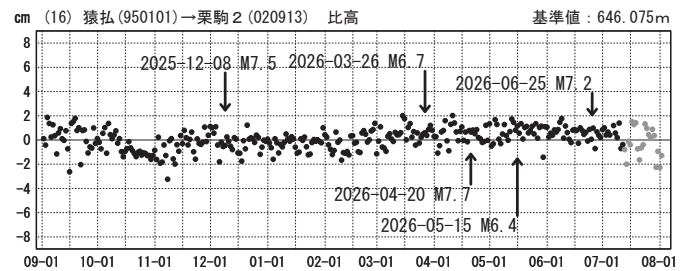
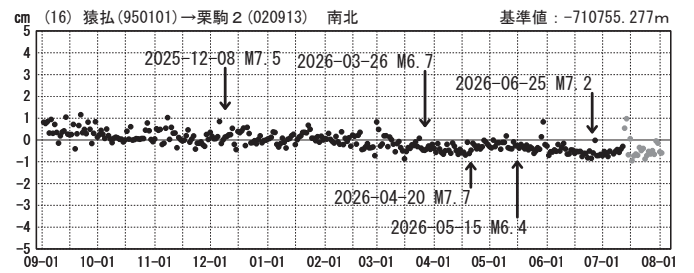
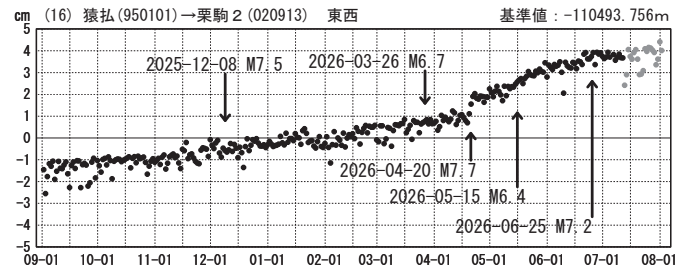
期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



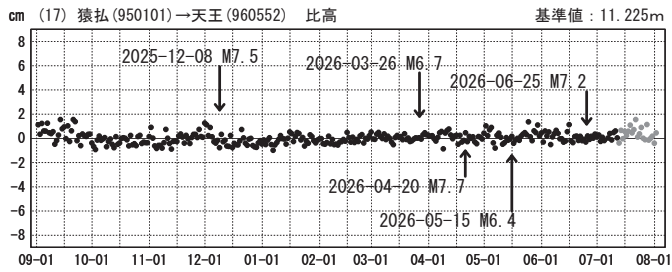
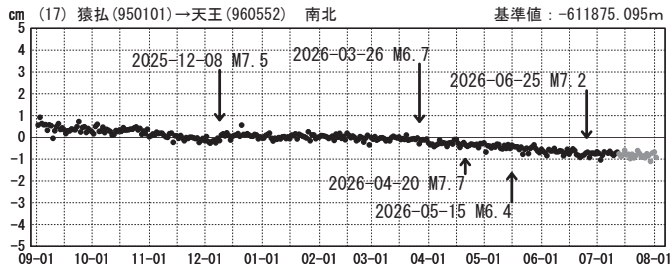
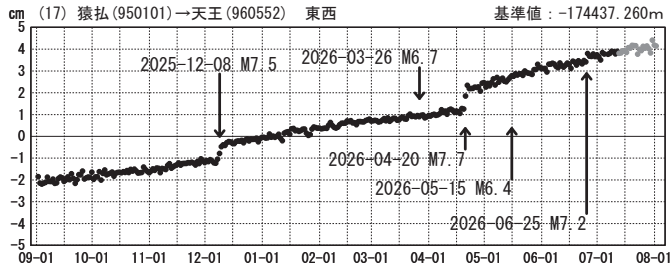
期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



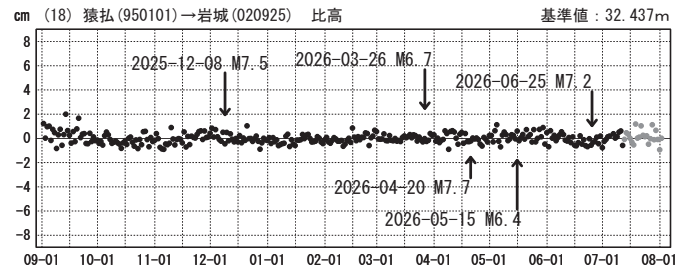
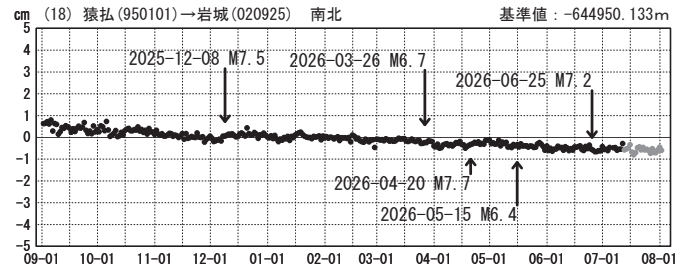
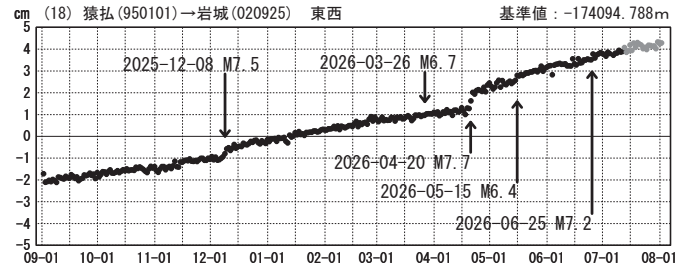
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

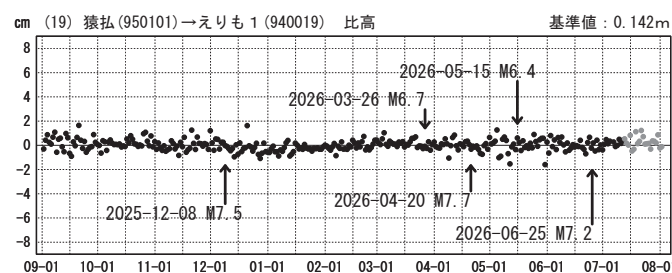
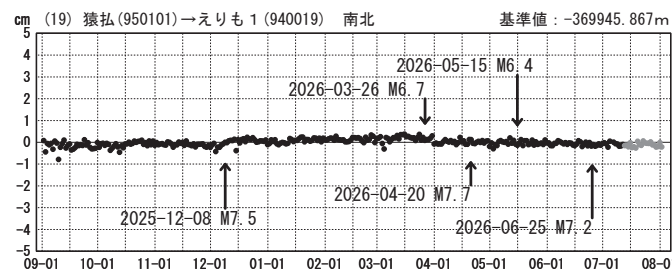
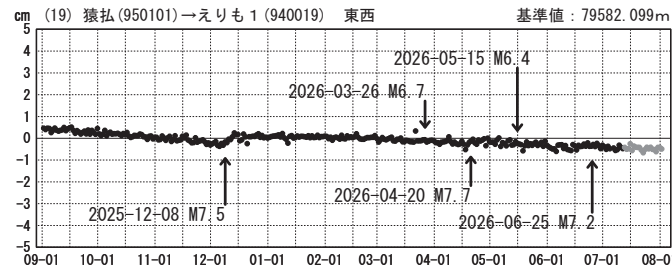
期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



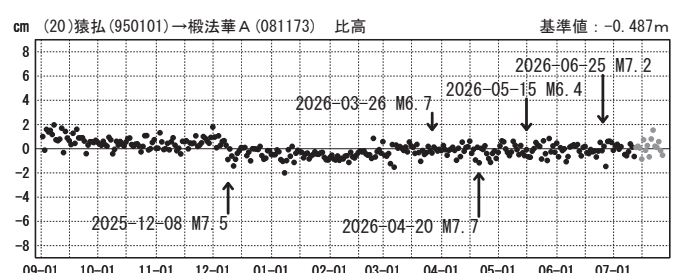
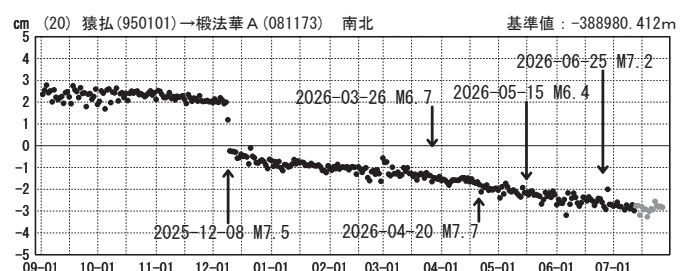
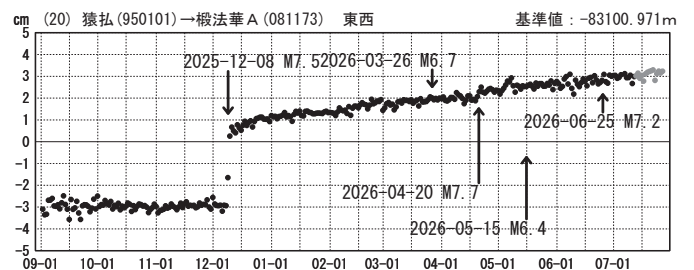
期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



期間：2025-09-01～2026-08-03 JST



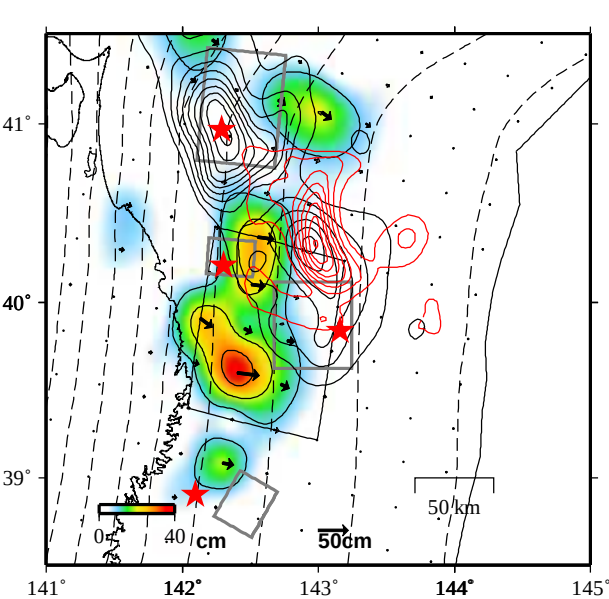
期間：2025-09-01～2026-07-27 JST



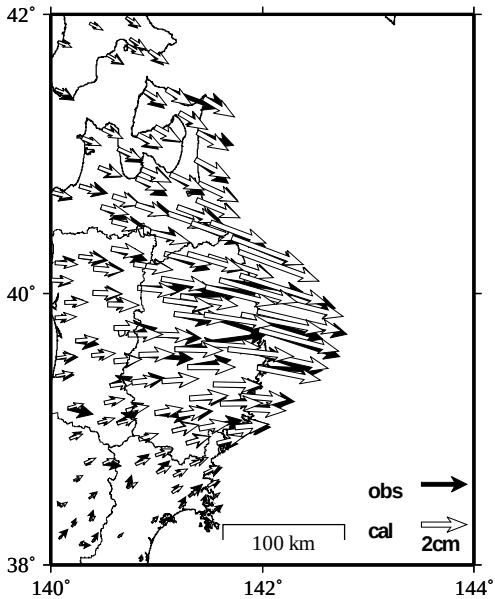
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

GNSSデータから推定された東北地方のゆっくりすべり（暫定）

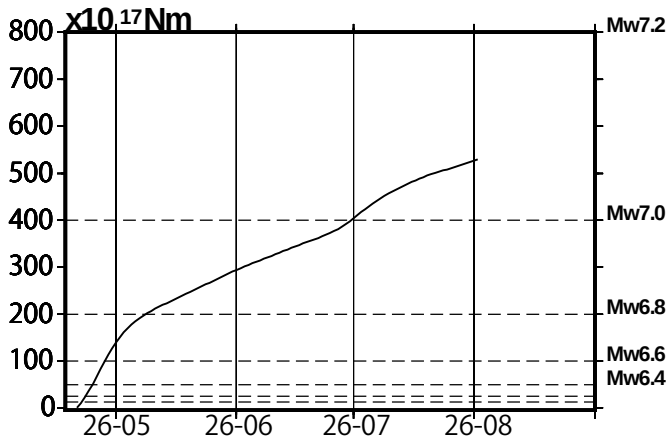
推定すべり分布
(2026-04-21/2026-08-02)



観測値（黒）と計算値（白）の比較
(2026-04-21/2026-08-02)



モーメント* 時系列（試算）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で表示している。

使用データ:GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)
F5.1解(2025-10-01/ 2026-06-20)R5.1解 (2026-06-21/2026-08-02)

トレンド期間:2023-01-01/2024-12-31（年周・半年周成分は補正なし）

モーメント計算範囲:左図の黒枠内側

観測値:3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線:太平洋プレート上面の等深線(Nakajima & Hasegawa 2006; Kita et al. 2010)

すべり方向:プレートの沈み込み方向 $\pm 15^\circ$ に拘束

赤星:2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖、2026-05-15宮城県沖、2026-06-25岩手県沖の地震の震央（気象庁一元化震源）

矩形断層（灰）：2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖、2026-05-15宮城県沖、2026-06-25岩手県沖の地震

固定局:猿払

* 電子基準点の保守等による変動は補正している。

* 令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。

* 以下の地震に伴う地殻変動は補正している。

2025-11-09三陸沖の地震、2025-12-08青森県東方沖の地震、2026-03-26三陸沖の地震

2026-04-20三陸沖の地震、2026-05-15宮城県沖の地震、2026-06-25岩手県沖の地震

* 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形は補正している(Suito 2017)

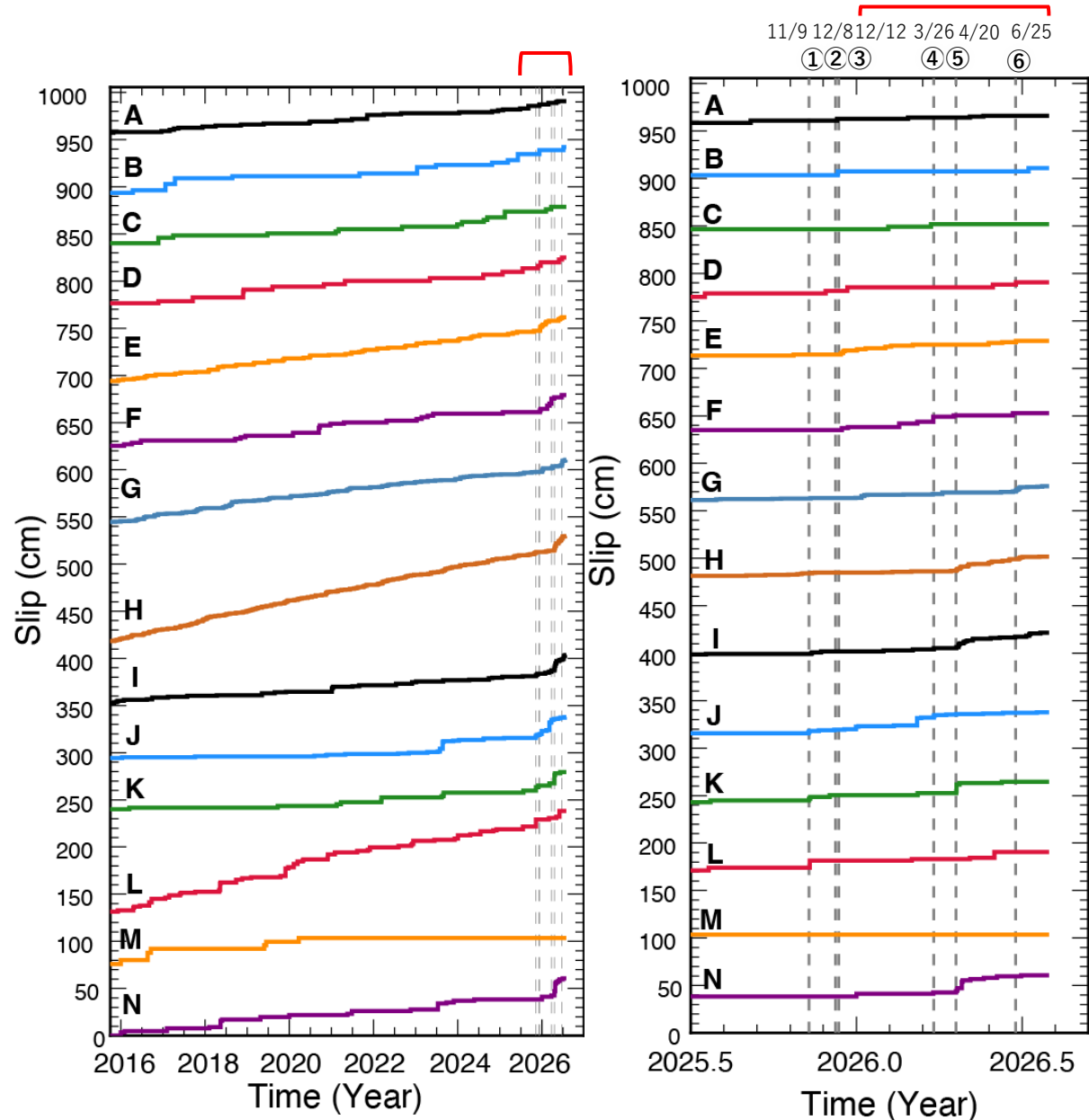
* 2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖の地震の粘弾性変形は補正している(Han et al.(2014)を参考)

* 共通誤差成分を推定している。

* モーメント:断層運動のエネルギーの目安となる量。

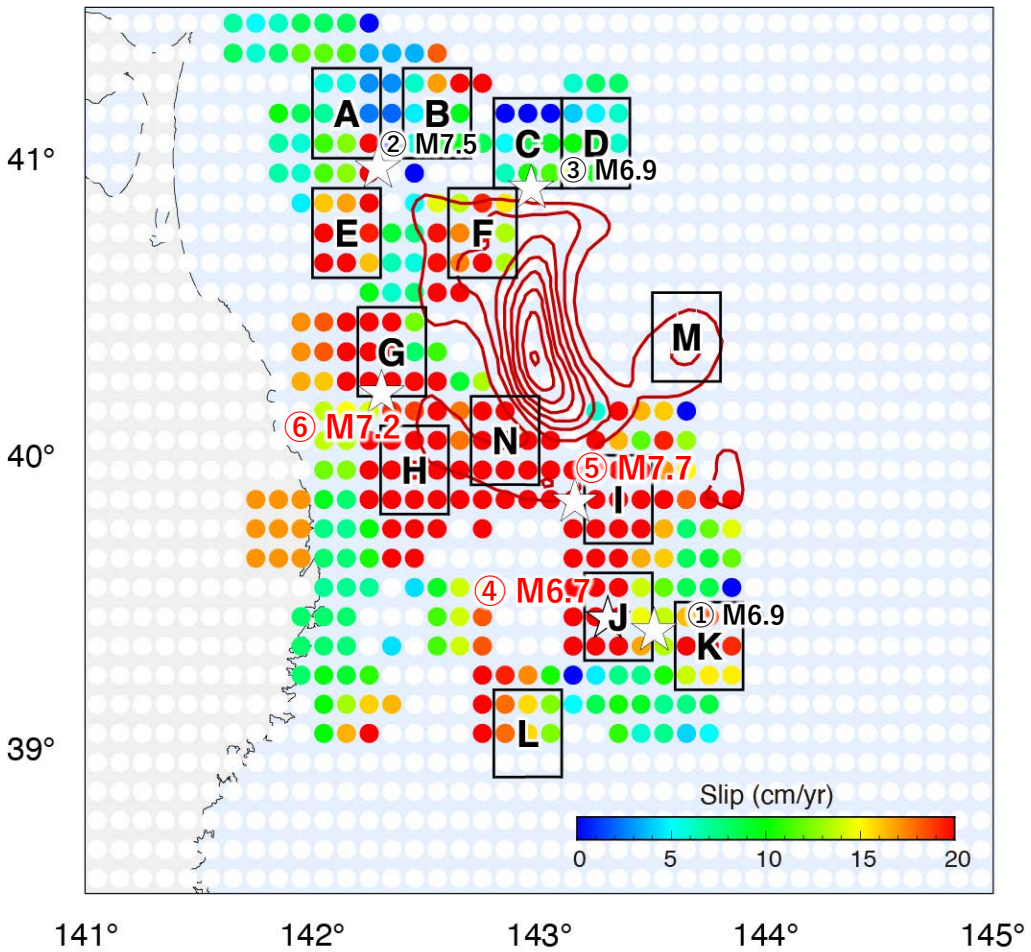
繰り返し地震から推定した非地震性すべりの推移

東京大学地震研究所
繰り返し地震カタログは気象庁作成



領域ごとの繰り返し地震の積算滑り：非地震性すべりの推移を表す

2026 1/1- 7/31 (Earthquake ④-⑥ occurred)



0.3度×0.3度グリッド領域内の平均累積すべり速度を、0.1度シフトで表示
赤コンターは永井・他(2001) による1994年三陸はるか沖地震のすべり分布

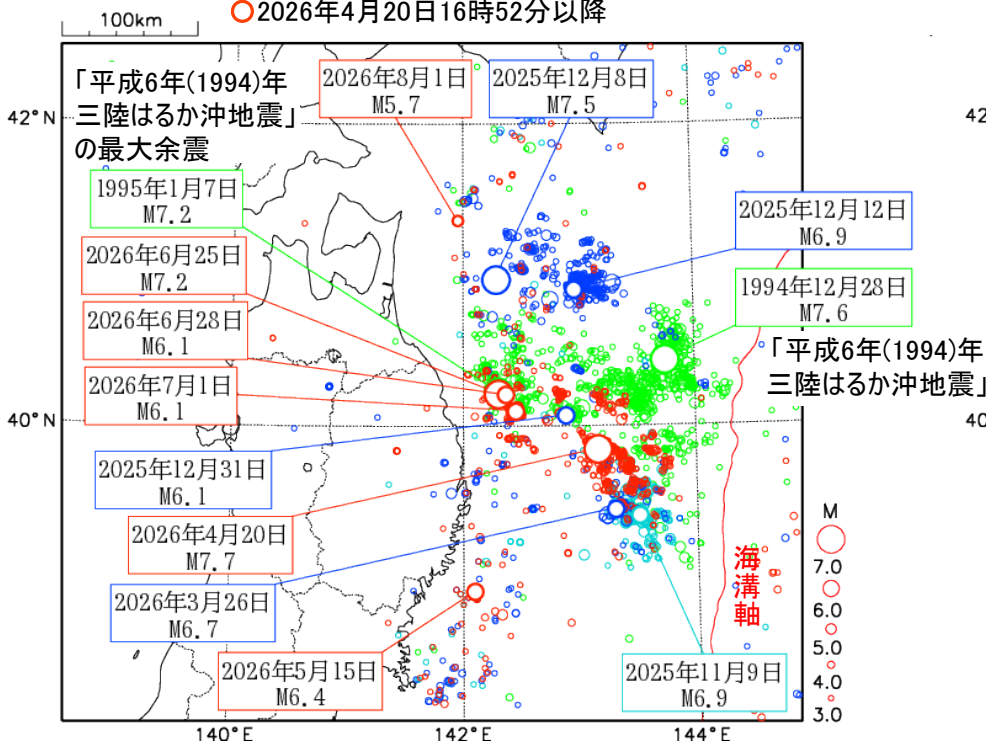
繰り返し地震データ： 2015/10/26 -2026/7/31

青森県東方沖から三陸沖の地震活動域比較

震央分布図

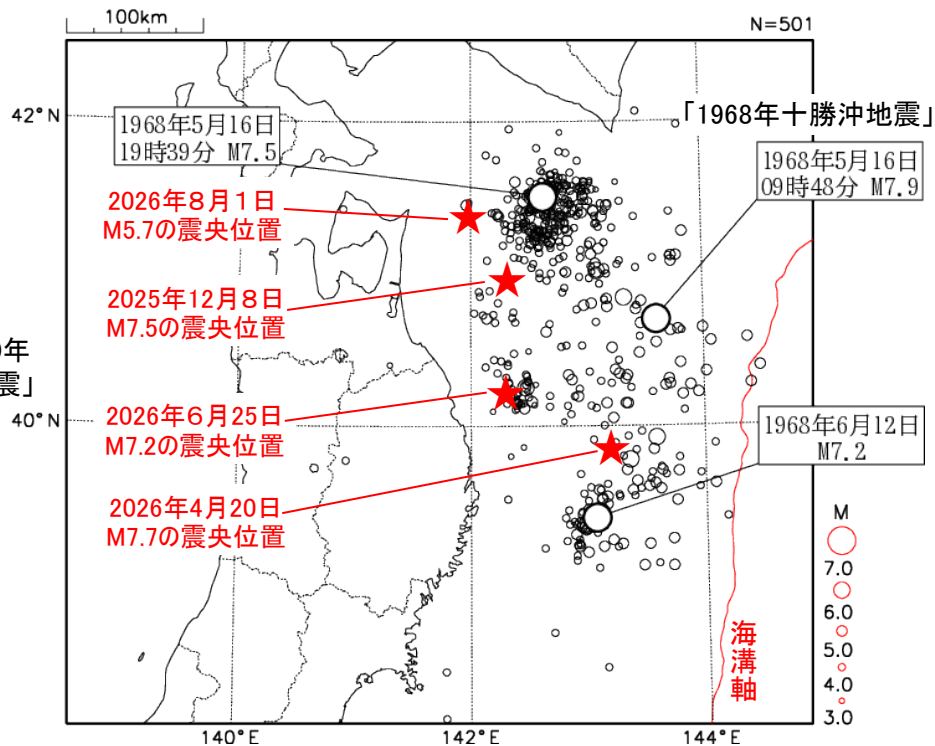
(1994年12月28日～1995年1月31日及び2025年11月1日
～2026年8月1日、深さ0～90km、M $\geq$ 3.0)

- 1994年12月28日～1995年1月31日
- 2025年11月1日～2025年12月8日23時14分
- 2025年12月8日23時15分～2026年4月20日16時51分
- 2026年4月20日16時52分以降



震央分布図

(1968年5月16日～1968年6月15日、
深さ0～90km、M $\geq$ 3.0)

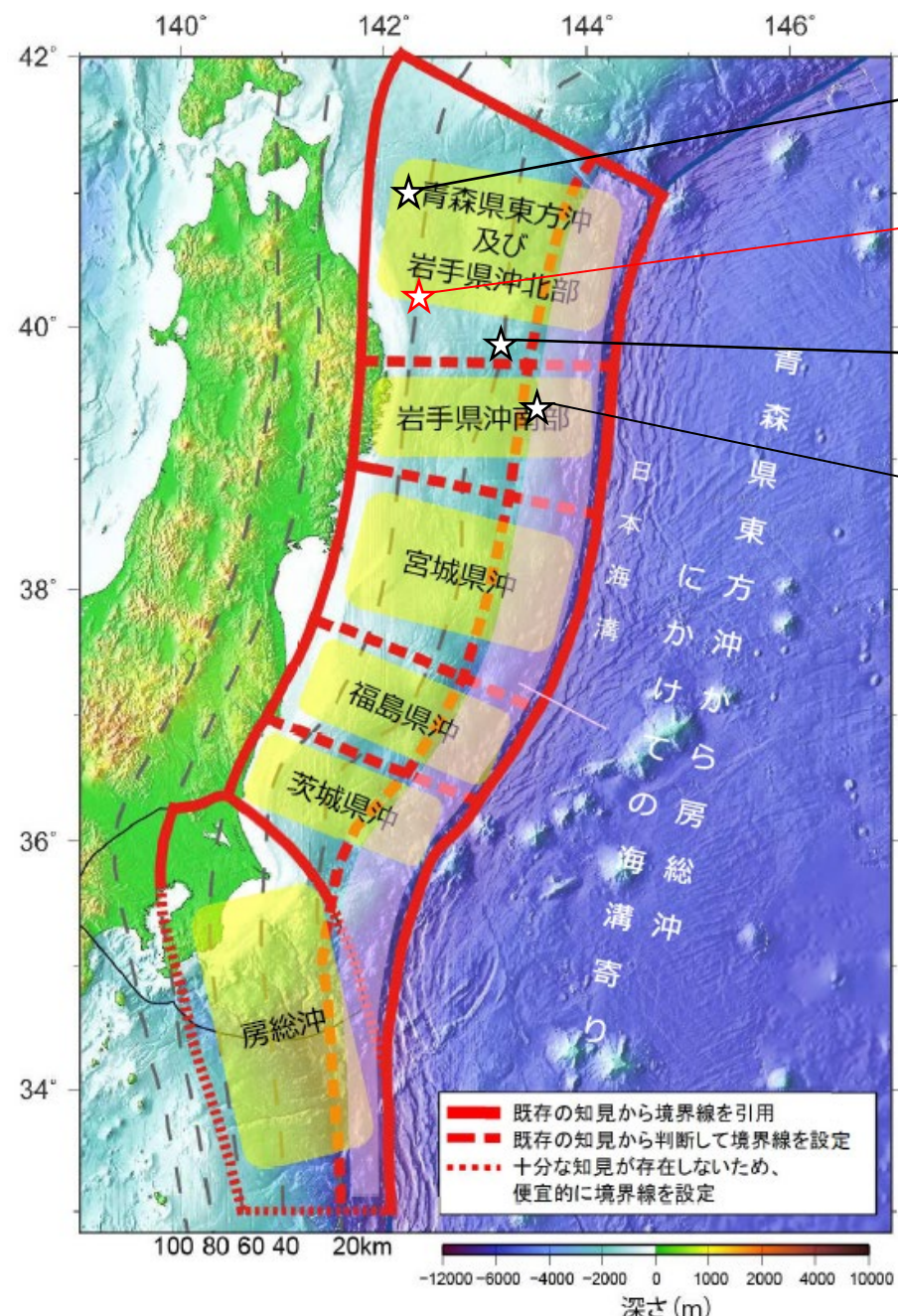


左図には、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の約1か月分の地震活動域、2025年11月9日三陸沖の地震活動域、2025年12月8日青森県東方沖の地震活動域及び2026年4月20日三陸沖の地震活動域等を示している。

右図には、「1968年十勝沖地震」の約1か月分の地震活動域を示している。

- ・「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」、2025年11月及び2026年4月の三陸沖の地震、2025年12月の青森県東方沖の地震の活動域は、すみ分けて見える。
- ・「1968年十勝沖地震」の活動域は、上記の活動域を包含するように広がっている。
- ・2026年6月25日の岩手県沖の地震(M7.2)は、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の最大余震(1995年1月7日、M7.2)とほぼ同じ場所で発生している。

長期評価の対象領域と今回の地震



2025/12/8 54 km M7.5

2026/6/25 44 km M7.2

2026/04/20 19 km M7.7

2025/11/9 15 km M6.9

青森県東方沖及び岩手県沖北部、宮城県沖以外の領域については、ほぼ同一の震源域で繰り返し発生している規模の大きな地震は知られていない。超巨大地震（東北地方太平洋沖型）については、宮城県沖を必ず含み、隣接する領域（岩手県沖南部または福島県沖）の少なくとも一方にまたがり、場合によっては茨城県沖まで破壊が及ぶ可能性のある地震であると考えた。

～

評価対象領域の区域分けに関して、大地震の記録が比較的多く残っている青森県東方沖及び岩手県沖北部については、1968年十勝沖地震を当該海域で発生する代表例と考えて設定した。

今後30年以内の地震発生確率（2026年1月1日時点）

将来発生する地震の評価

日本海溝沿いの地震（「日本海溝沿いの地震活動の長期評価」（平成31年2月公表）より）

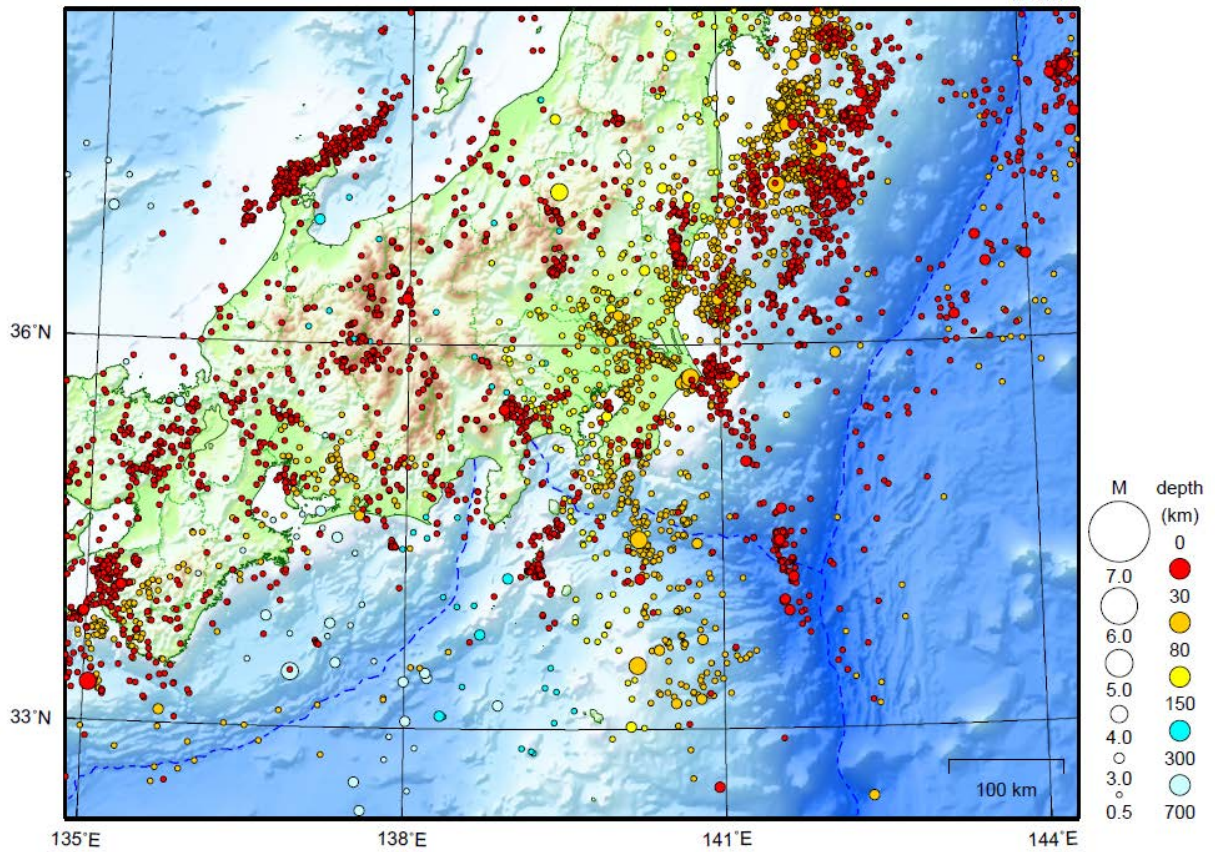
評価対象地震	発生領域	規模	ランク	地震発生確率 （30年以内）	評価に使用した地震	地震後 経過率 ^{注2}
超巨大地震 （東北地方太平洋沖 型）	岩手県沖南部～ 茨城県沖	M9.0程度	Iランク	ほぼ0%	過去約3000年間の5回	0.02- 0.03
プレート間 巨大地震	青森県東方沖及び岩 手県沖北部	M7.9程度	IIIランク	20～40%	1677年以降の4回	0.59
	宮城県沖	M7.9程度	IIランク	20%程度	1793年以降の3回 ^{注1}	－
ひとまわり小さい プレート間地震	青森県東方沖及び岩 手県沖北部	M7.0～7.5程度	IIIランク	90%程度 以上	1923年以降の10回 ^{注1}	－
	岩手県沖南部	M7.0～7.5程度	IIIランク	30%程度	1923年以降の1回 ^{注1}	－
	宮城県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	90%程度	1923年以降の6～7回 ^{注1}	－
	宮城県沖の陸寄り （宮城県沖地震）	M7.4前後	IIIランク	80%～90%程度 以上	1897年以降の4回	0.39
	福島県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	50%程度	1923年以降の2回 ^{注1}	－
	茨城県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	80%程度	1923年以降の5回 ^{注1}	－
海溝寄りのプレート間 地震（津波地震等）	青森県東方沖から房総沖に かけての海溝寄り	Mt8.6～9.0 ^{注3}	IIIランク	30%程度	1600年以降の4回 ^{注1}	－
沈み込んだプレート内 の地震	青森県東方沖及び岩手県沖 北部～茨城県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	60～70%	1923年以降の3～4回 ^{注1}	－
海溝軸外側の地震	日本海溝の海溝軸外側	M8.2前後	IIランク	7%	1600年以降の1回 ^{注1}	－

^{注1} 東北地方太平洋沖地震より後の期間は除いた
^{注2} 地震後経過率＝最新発生時期からの経過時間÷平均発生間隔
－は時間が経過しても地震の起こりやすさが変わらないと仮定した地震
^{注3} Mtは津波マグニチュード

関東・中部地方

2026/07/01 00:00 ~ 2026/07/31 24:00

N=6474



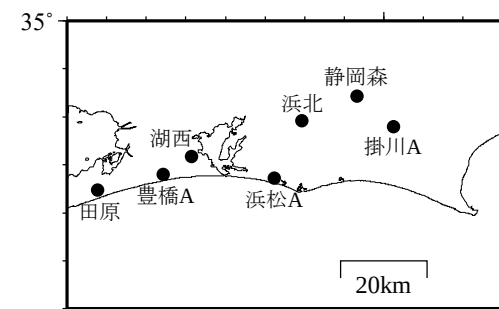
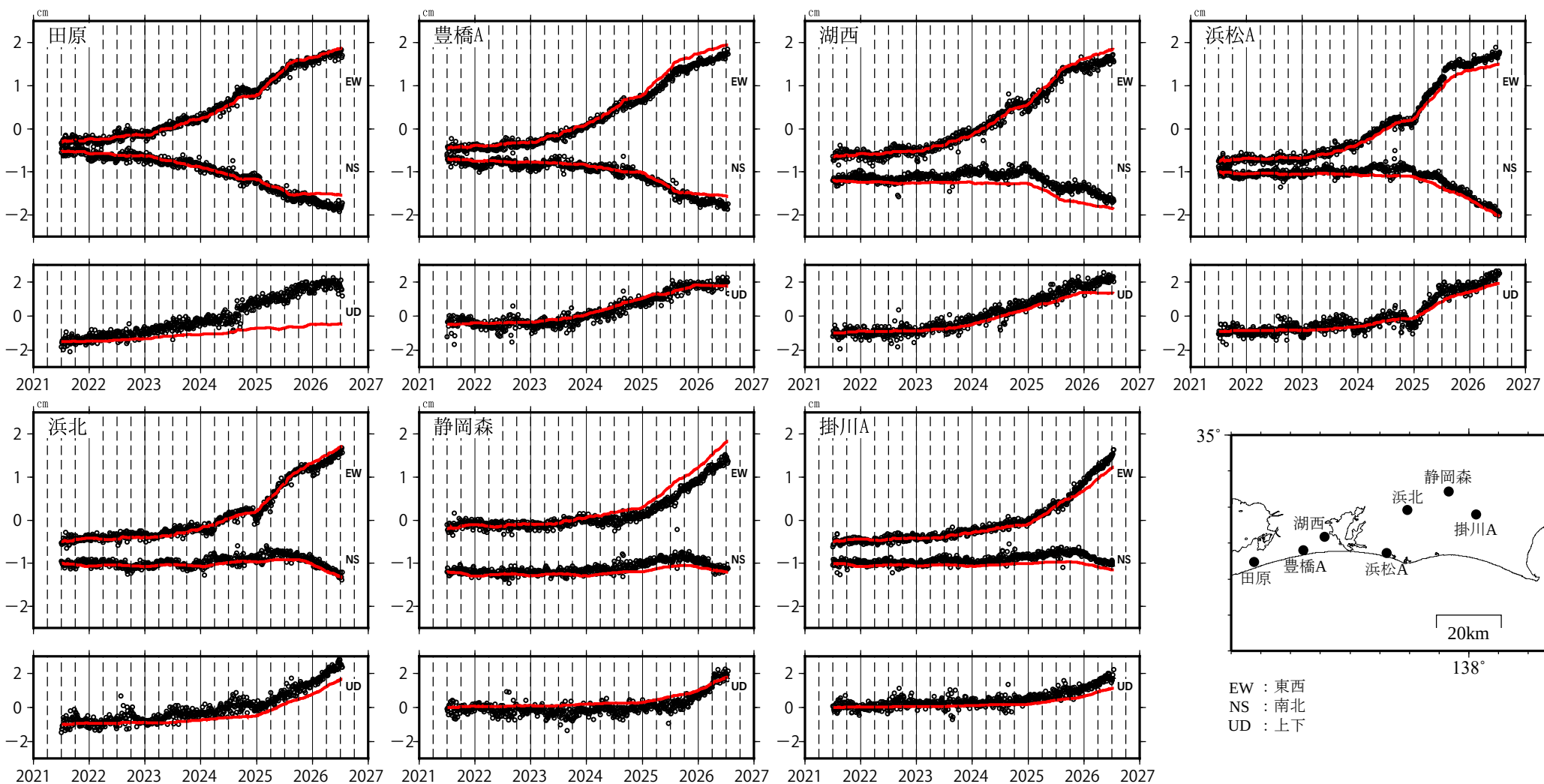
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

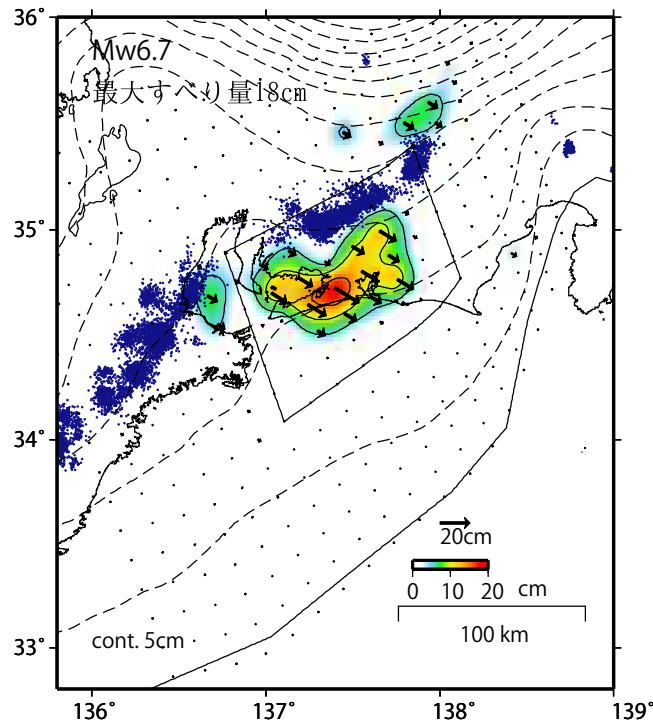
気象庁・文部科学省

東海地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線) 時間依存のインバージョン

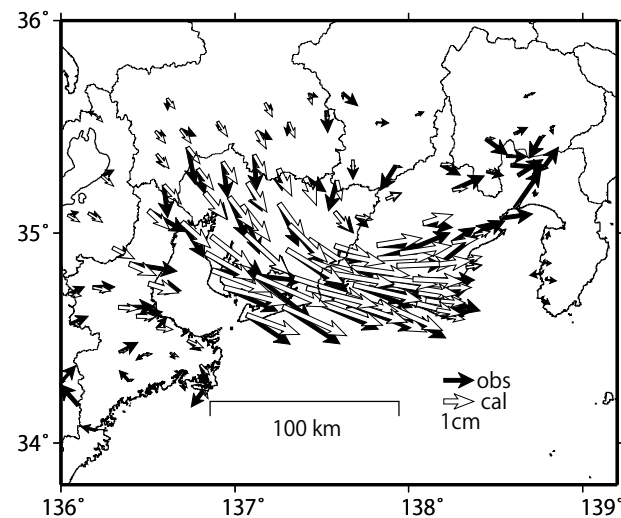


GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり(暫定)

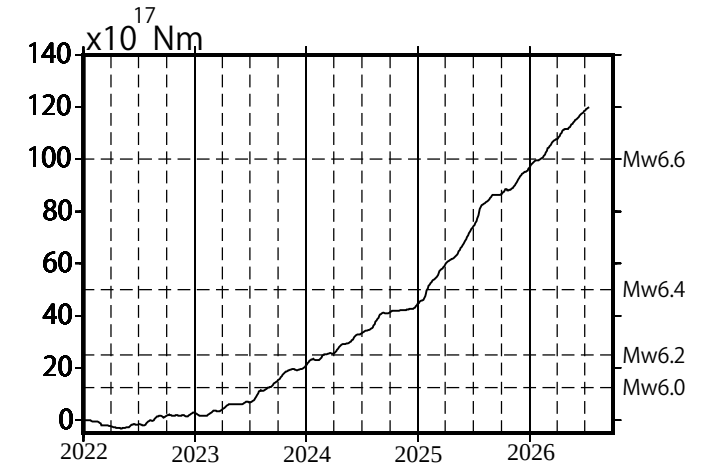
推定すべり分布
(2022-01-01/2026-07-15)



観測値(黒)と計算値(白)の比較
(2022-01-01/2026-07-15)



モーメント時系列(試算)



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

使用データ: GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)

F5.1解(2021-07-01/2026-06-27) R5.1解(2026-06-28/2026-07-15)

トレンド期間: 2020-01-01/2022-01-01 (年周・半年周成分は補正していない)

モーメント計算範囲: 左図の黒枠内側

観測値: 3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線: フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)

すべり方向: プレートの沈み込み方向に拘束

青丸: 低周波地震(気象庁一元化震源)(期間: 2022-01-01/2026-07-15)

モーメント: 断層運動のエネルギーの目安となる量。

解析での補正内容

* 電子基準点の保守等による変動

* 共通誤差成分を推定

* 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形(Suito 2017)

* 令和6年能登半島地震に伴う地殻変動

* 令和6年能登半島地震の粘弾性変形(Suito 2025)

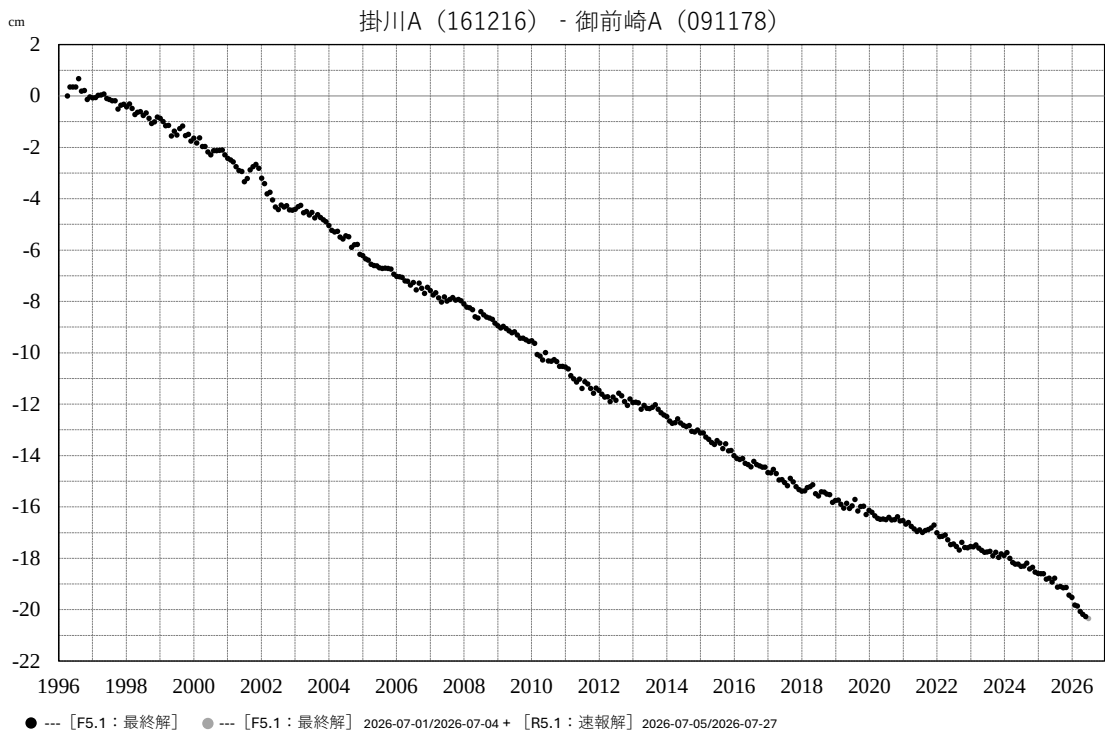
* 短期的ゆっくりすべりに伴う地殻変動(2017-01/2026-06-26: 気象庁カタログによる)

固定局: 三隅

御前崎 電子基準点の上下変動

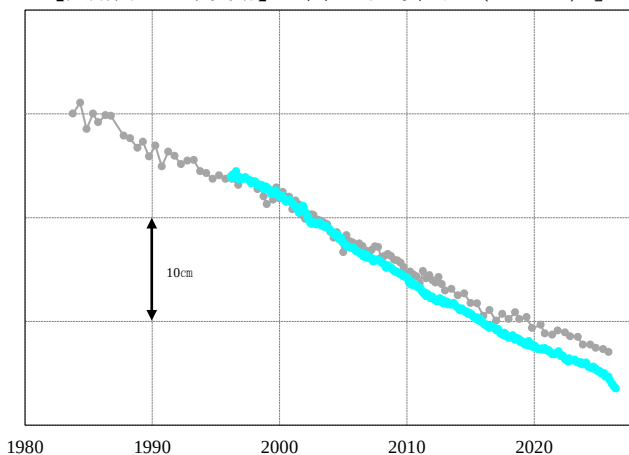
水準測量とGNSS連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。



- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5.1:最終解 及び R5.1:速報解) から計算した値の月平均値。
- ※ 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震に伴う電子基準点「御前崎」の局所的な変動について、地震前後の水準測量で得られた「御前崎」周辺の水準点との比高の差を用いて補正を行った。
- ※ 電子基準点「御前崎 A」については、2010 年 3 月 23 日まで電子基準点「御前崎」のデータを使用。
- ※ 電子基準点「掛川 A」については、2017 年 1 月 29 日まで電子基準点「掛川」のデータを使用。
- ※ 2026 年初頭頃から見られる沈降速度の増加は、東海地方の長期的ゆっくりすべりのすべりの中心が浜名湖の東側へ移動していることに伴う電子基準点「掛川 A」等での変動の影響によるものである。

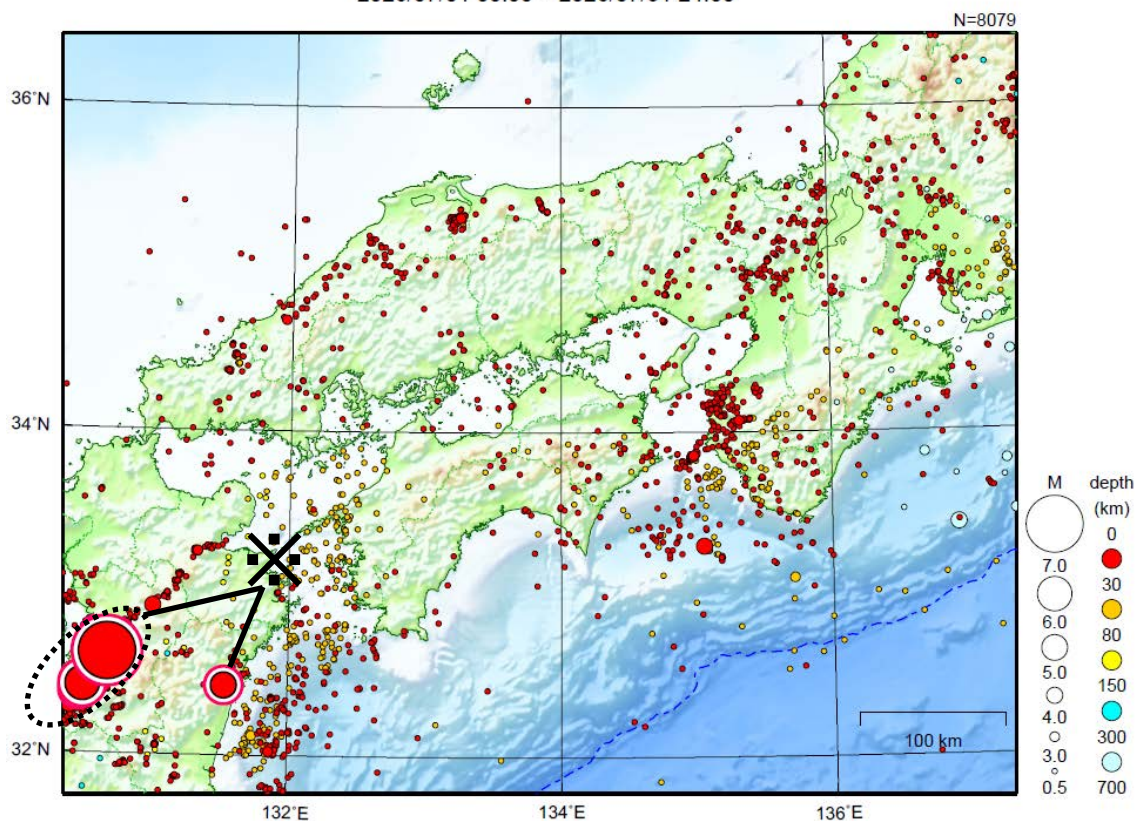
【長期間の上下変動】「固定局：掛川 A (161216)」



- 水色のプロットは上記のGEONET による日々の座標値の月平均値。
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点「10150」の水準測量結果を示している (固定：140-1)。

近畿・中国・四国地方

2026/07/01 00:00 ~ 2026/07/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

※で示した地震については九州地方の資料を参照。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

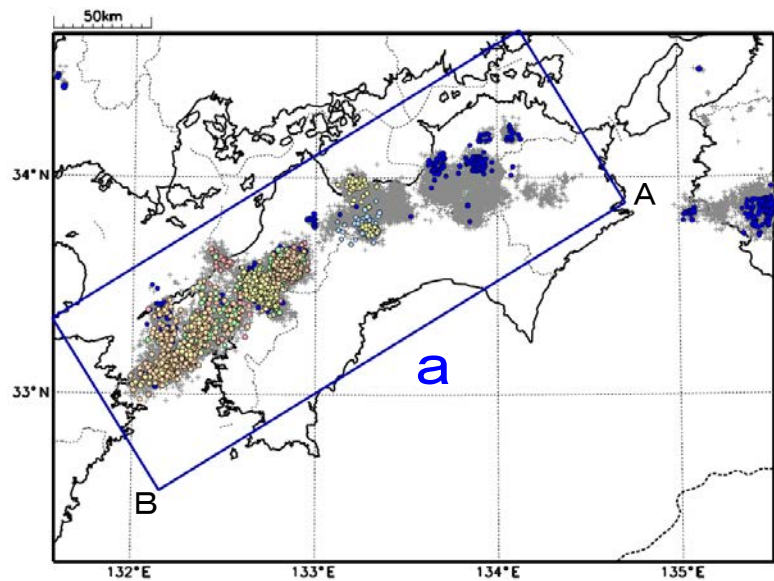
四国中部及び四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

7月16日から7月23日にかけて、四国中部で深部低周波地震（微動）を観測した。また、7月29日から、四国西部で深部低周波地震（微動）を観測している。

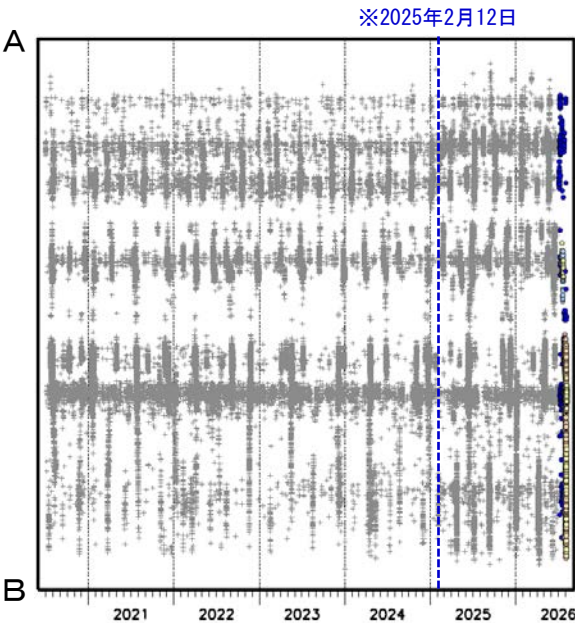
深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測している。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震（微動）活動

震央分布図
(2020年7月1日～2026年8月5日、
深さ0～60km、Mすべて)



領域a内の時空間分布図
(A－B投影)



凡例

- ＋：2020年7月1日～2026年6月30日
- ：2026年7月1日～

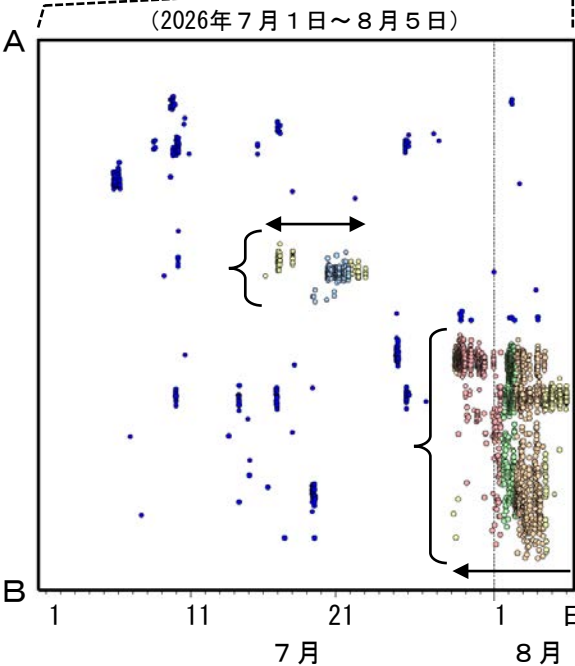
ただし、ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動の色分けは以下のとおり。

四国中部

- ：7月16日00時～18日24時
- ：7月19日00時～21日24時
- ：7月22日00時～23日24時

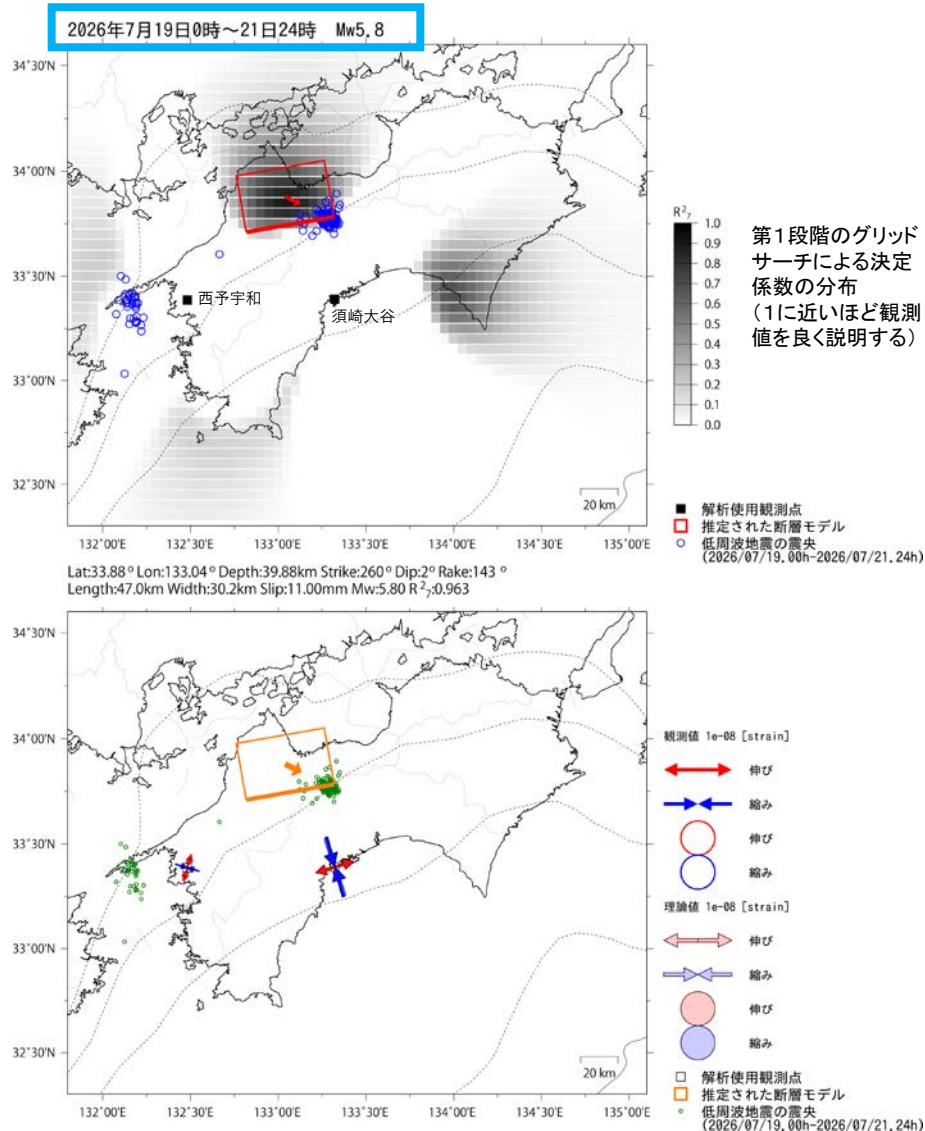
四国西部

- ：7月29日00時～7月29日12時
- ：7月29日12時～8月1日12時
- ：8月1日12時～2日12時
- ：8月2日12時～4日12時
- ：8月4日12時～



※2025年2月12日から、深部低周波地震（微動）の検知手法の改善により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

高知県から愛媛県で観測されたひずみ変化

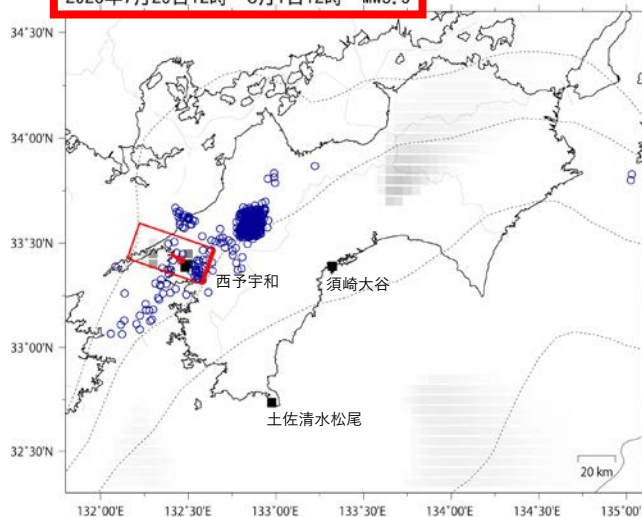


断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。

- ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
- ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

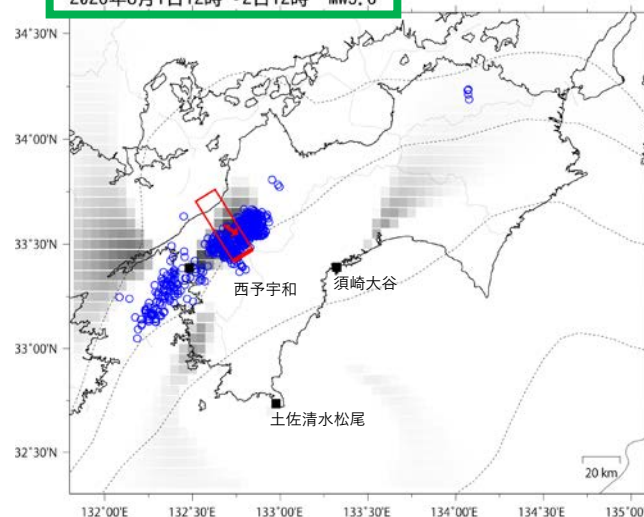
四国中部から四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり(7月19日～)

2026年7月29日12時～8月1日12時 Mw5.9

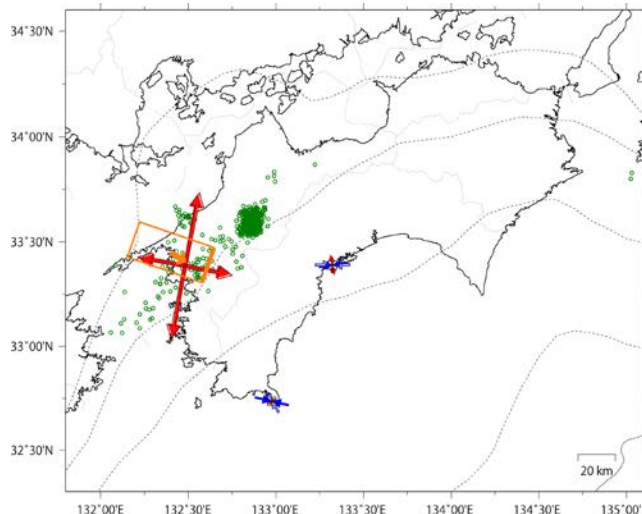


Lat:33.45° Lon:132.40° Depth:36.73km Strike:199° Dip:8° Rake:77°
Length:19.7km Width:42.1km Slip:30.30mm Mw:5.94 R^2 :0.934

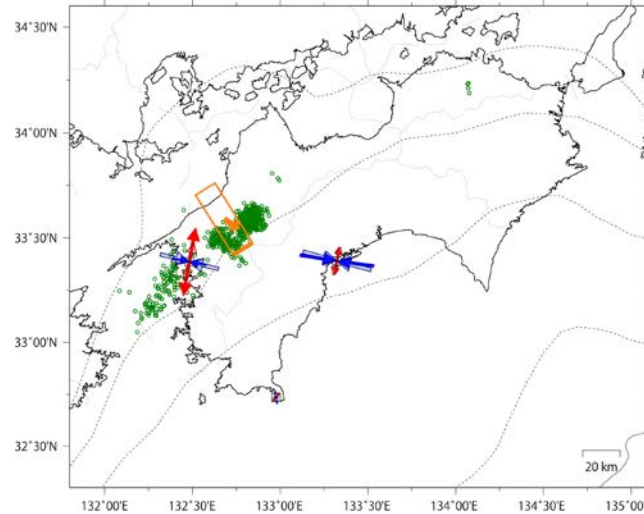
2026年8月1日12時～2日12時 Mw5.6



Lat:33.59° Lon:132.68° Depth:23.43km Strike:238° Dip:2° Rake:115°
Length:12.1km Width:37.4km Slip:20.00mm Mw:5.64 R^2 :0.914



観測値 $2e-08$ [strain]
伸び
縮み
理論値 $2e-08$ [strain]
伸び
縮み
解析使用観測点
推定された断層モデル
低周波地震の震央
(2026/07/29, 12h-2026/08/01, 12h)



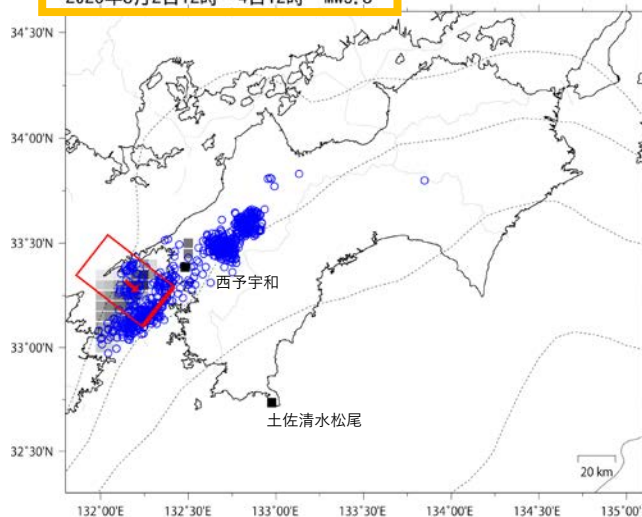
観測値 $1e-08$ [strain]
伸び
縮み
理論値 $1e-08$ [strain]
伸び
縮み
解析使用観測点
推定された断層モデル
低周波地震の震央
(2026/08/01, 12h-2026/08/02, 12h)

前頁に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

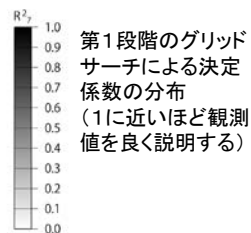
四国中部から四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり(7月19日～)

2026年8月2日12時～4日12時 Mw5.8

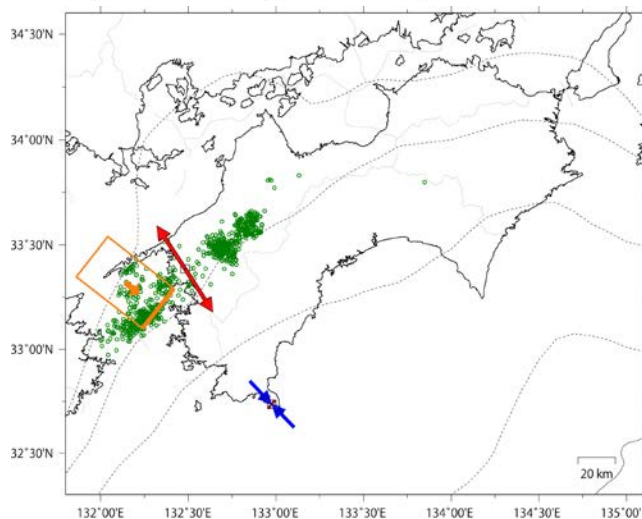


Lat:33.32° Lon:132.14° Depth:44.13km Strike:218° Dip:15° Rake:89°
Length:27.1km Width:46.1km Slip:15.00mm Mw:5.85 $R^2_p:0.925$

参考



■ 解析使用観測点
□ 推定された断層モデル
○ 低周波地震の震央
(2026/08/02, 12h~2026/08/04, 12h)



観測値 $1e-08$ [strain]

伸び

縮み

伸び

縮み

理論値 $1e-08$ [strain]

伸び

縮み

伸び

縮み

■ 解析使用観測点

□ 推定された断層モデル

○ 低周波地震の震央
(2026/08/02, 12h~2026/08/04, 12h)

前々頁に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

- 7 月 30 日頃より四国西部から豊後水道において、微動活動がみられる。

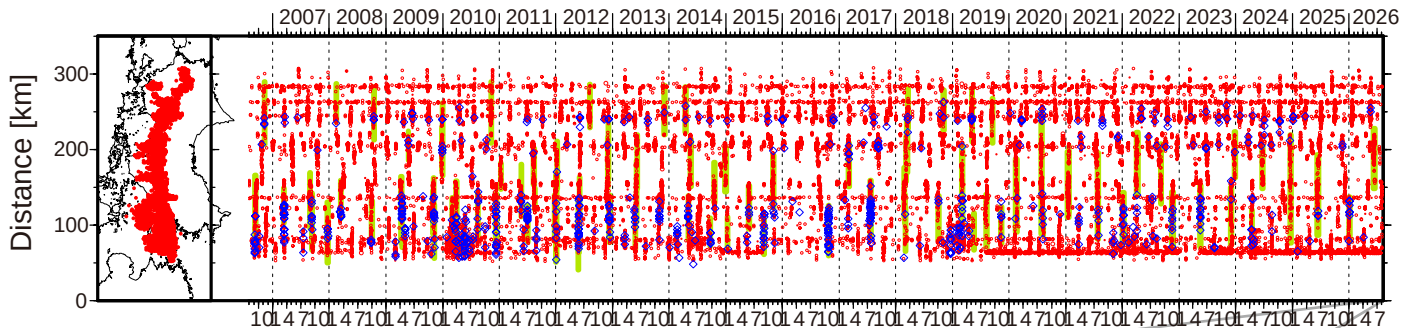


図 1. 四国における 2006 年 8 月～2026 年 8 月 4 日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）。赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって 1 時間毎に自動処理された微動分布の重心である。青菱形は

周期 20 秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である。黄緑色太線は、これまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す。下図は 2026 年 7 月を中心とした期間の拡大図である。7 月 30 日頃からは愛媛県西部で微動活動が開始し、2 日頃からは豊後水道付近への活動域の拡大がみられる。ただし、7 月 28 日 16:27 頃に発生した令和 8 年熊本地震の余震活動により、検出は影響を受けている可能性がある。7 月 5～6 日頃には愛媛・香川・徳島県境付近で、7 月 9～10 日頃には香川県から香川・徳島県境付近で、7 月 17 日頃には愛媛県東部で、7 月 19 日頃には豊後水道付近で、7 月 21 日頃には愛媛・高知県境付近で、7 月 25 日頃には愛媛県西部で、それぞれ小規模な活動がみられた。

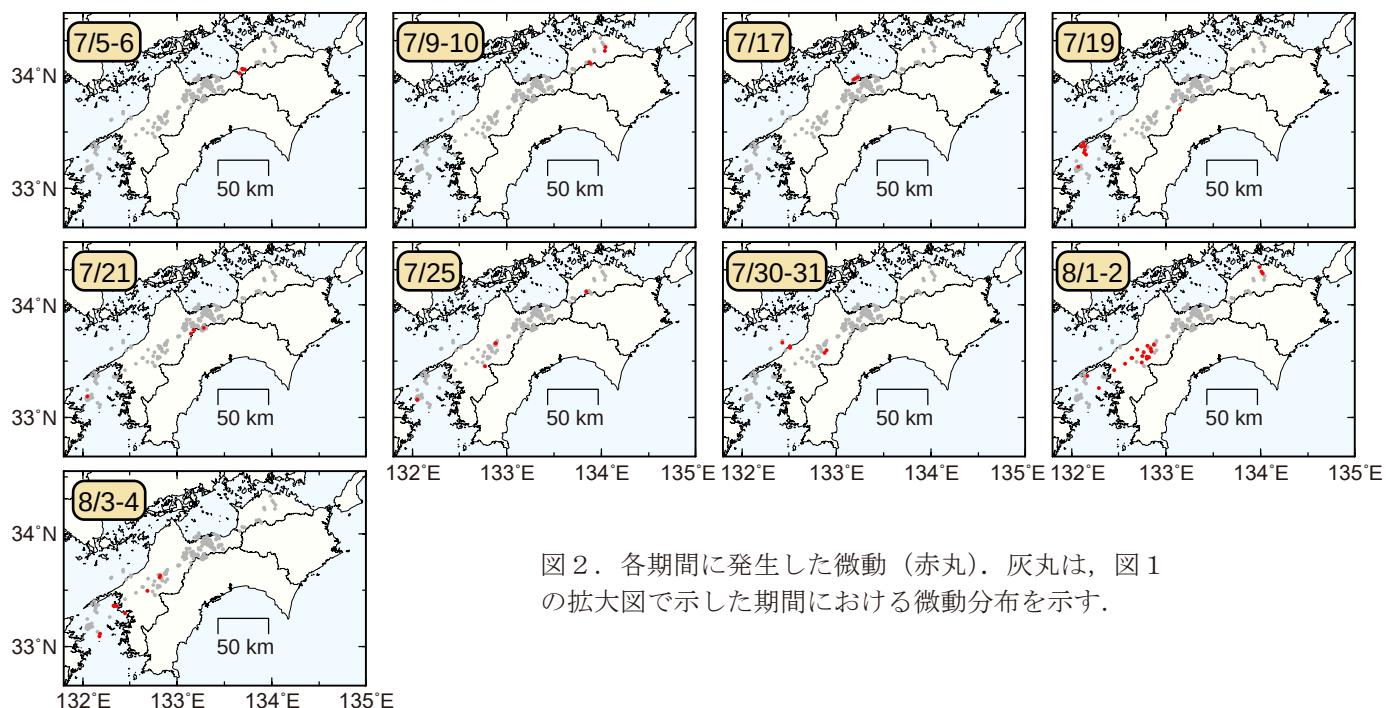
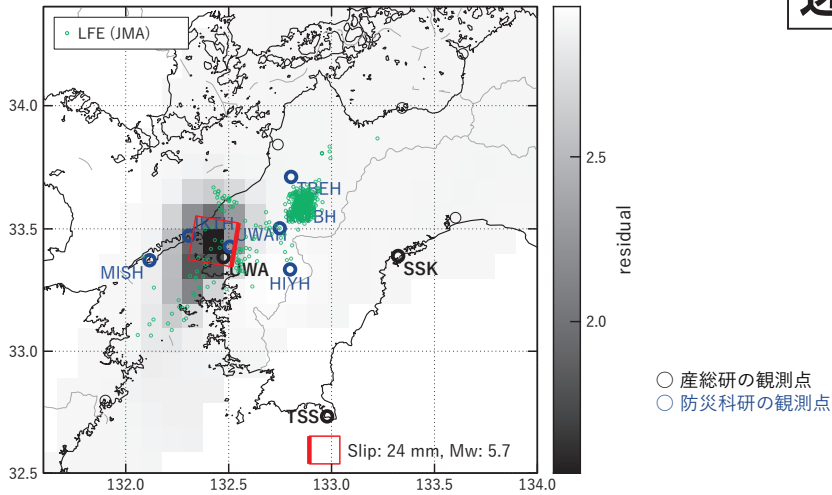


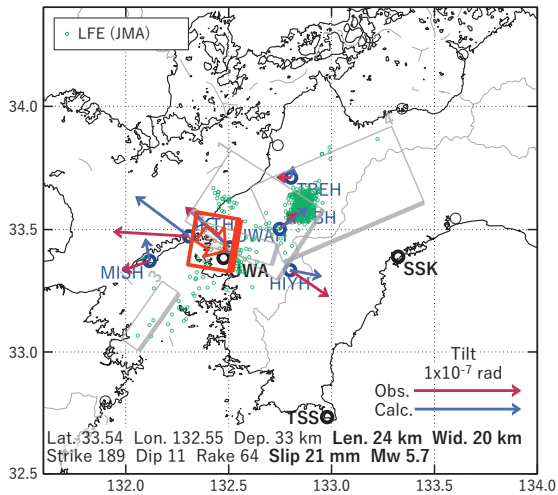
図 2. 各期間に発生した微動（赤丸）。灰丸は、図 1 の拡大図で示した期間における微動分布を示す。

[A] 2026/07/29PM-08/01AM

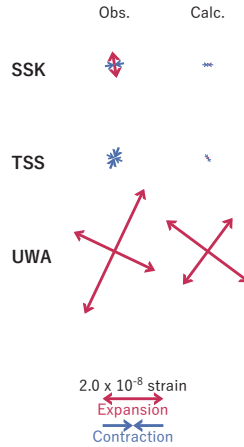
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



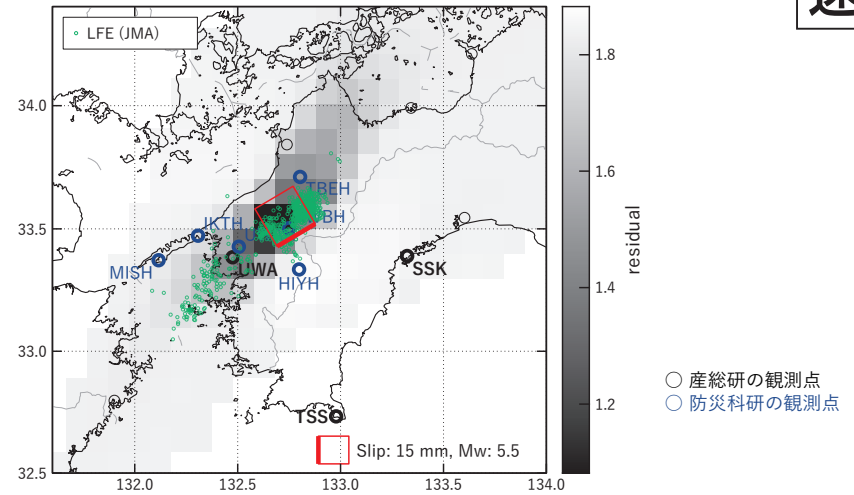
(b2) 主歪



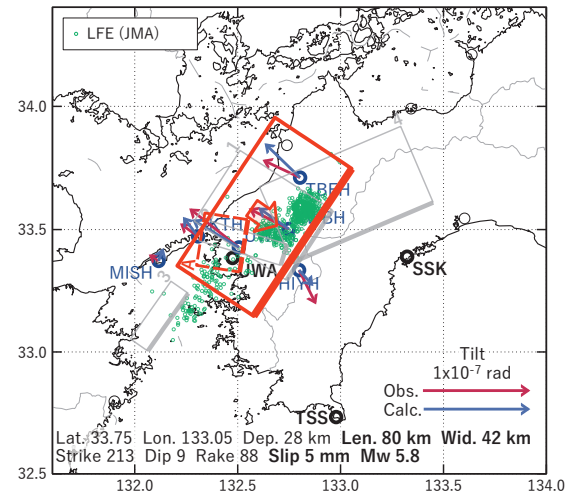
速報

[B] 2026/08/01PM-02AM

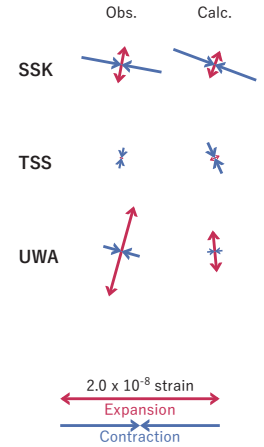
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



速報

図9 2026/07/29PM-08/01AMの歪・傾斜変化（図8[A]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2025/06/10-14 (Mw 6.0), 2: 2026/01/03-05 (Mw 6.0), 3: 2026/04/06-09 (Mw 5.8), 4: 2026/05/01PM-08AM (Mw 6.0)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

図10 2026/08/01PM-02AMの歪・傾斜変化（図8[B]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

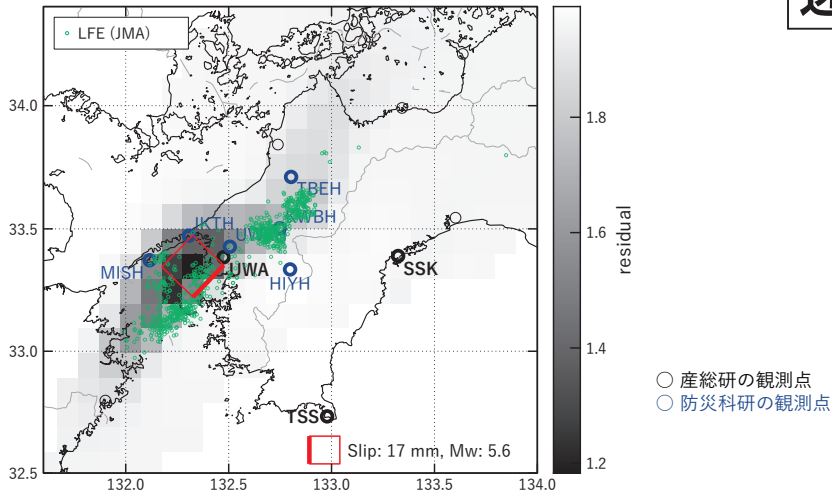
(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

1: 2025/06/10-14 (Mw 6.0), 2: 2026/01/03-05 (Mw 6.0), 3: 2026/04/06-09 (Mw 5.8), 4: 2026/05/01PM-08AM (Mw 6.0), A: 2026/07/29PM-08/01AM (Mw 5.7)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

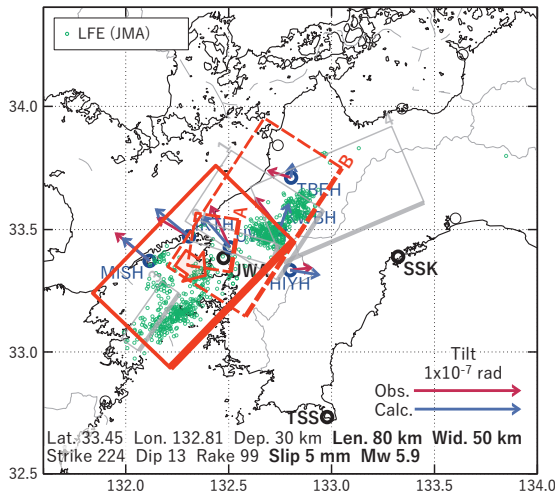
[C] 2026/08/02PM-04AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



速報

(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

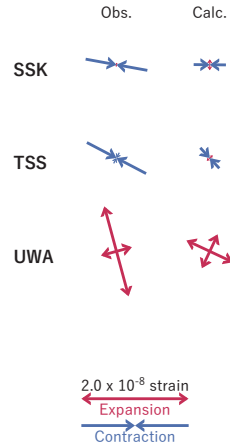


図11 2026/08/02PM-04AMの歪・傾斜変化（図8[C]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

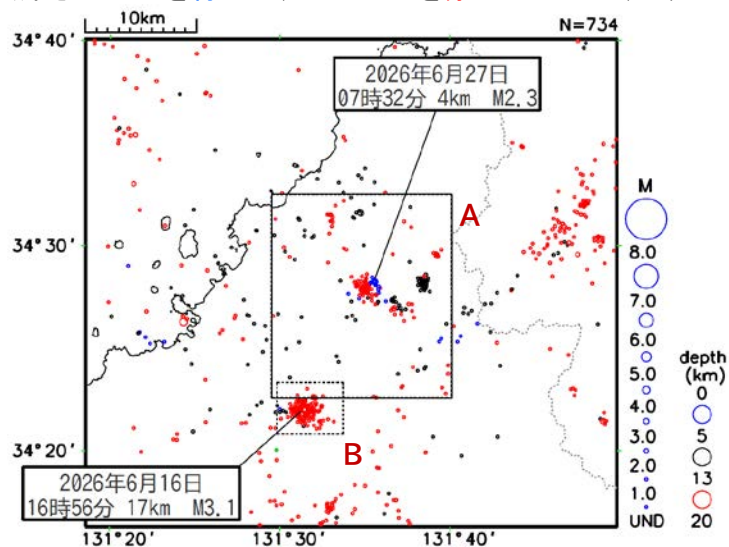
1: 2025/06/10-14 (Mw 6.0), 2: 2026/01/03-05 (Mw 6.0), 3: 2026/04/06-09 (Mw 5.8), 4: 2026/05/01PM-08AM (Mw 6.0), A: 2026/07/29PM-08/01AM (Mw 5.7), B: 2026/08/01PM-02AM (Mw 5.8)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

地震活動と地殻変動

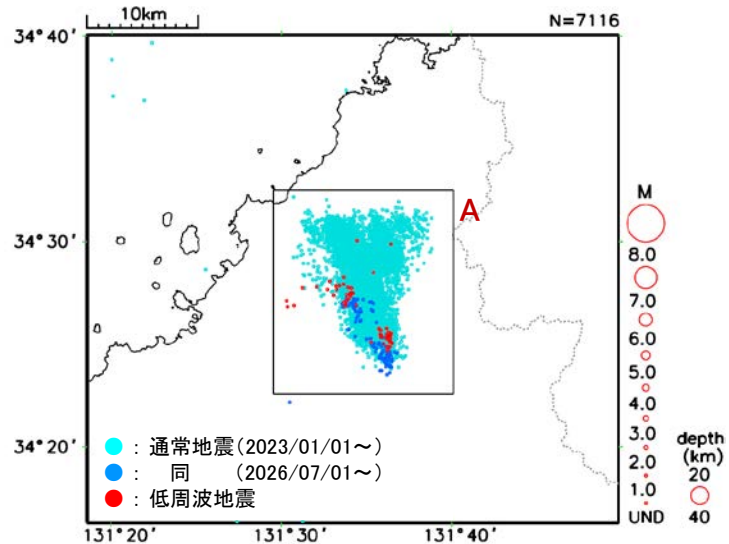
2023年1月1日～2026年7月31日、深さ0～20km

(深さ0～5kmを青色で、13～20kmを赤色でプロット、Mすべて)

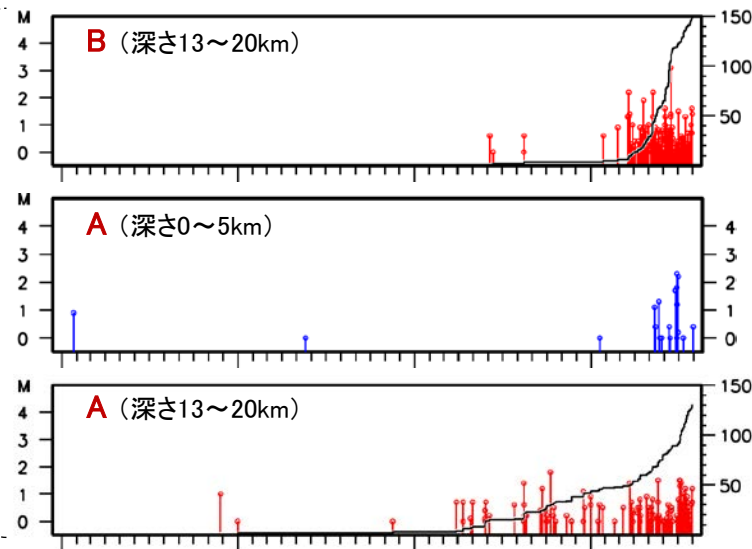


2023年1月1日～2026年7月31日、深さ: 20～40km

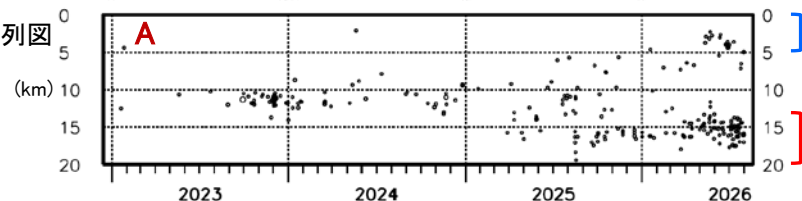
(2026年 7月以降を青色で、低周波地震を赤色でプロット、Mすべて)



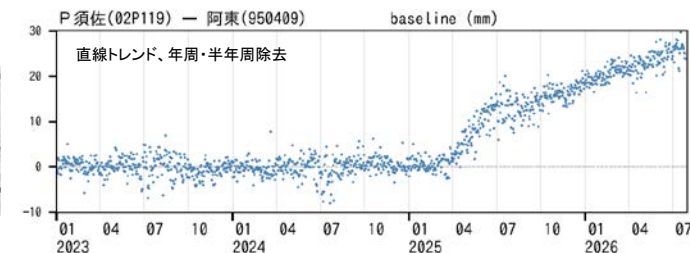
MT図、
回数積算図



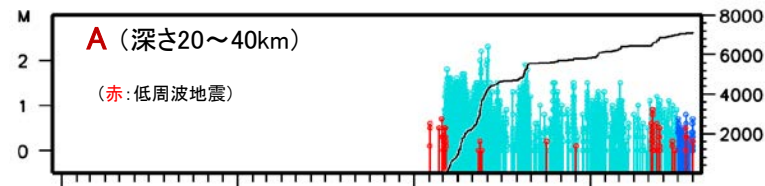
深さの時系列図



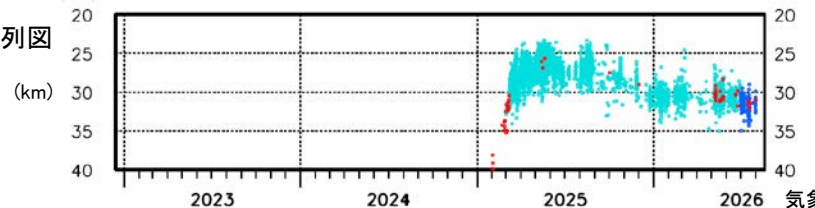
GNSS基線長



MT一回数積算図



深さの時系列図

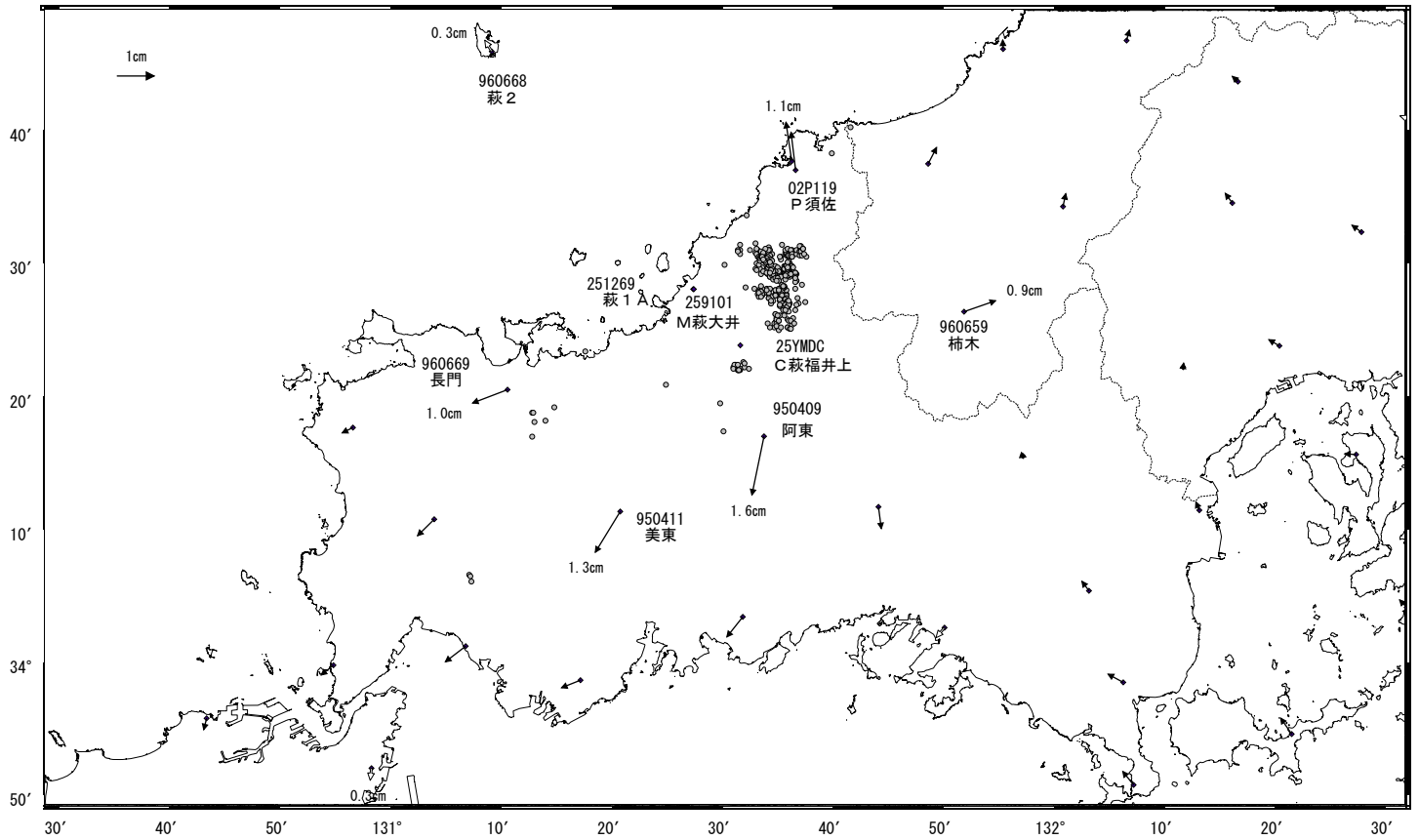


山口県北部の地震活動域周辺の地殻変動(暫定)

地殻変動

基準期間: 2025-01-01 ~ 2025-01-07 [F5. 1: 最終解]
比較期間: 2026-07-21 ~ 2026-07-27 [R5. 1: 速報解]

計算期間: 2017-01-01 ~ 2020-01-01

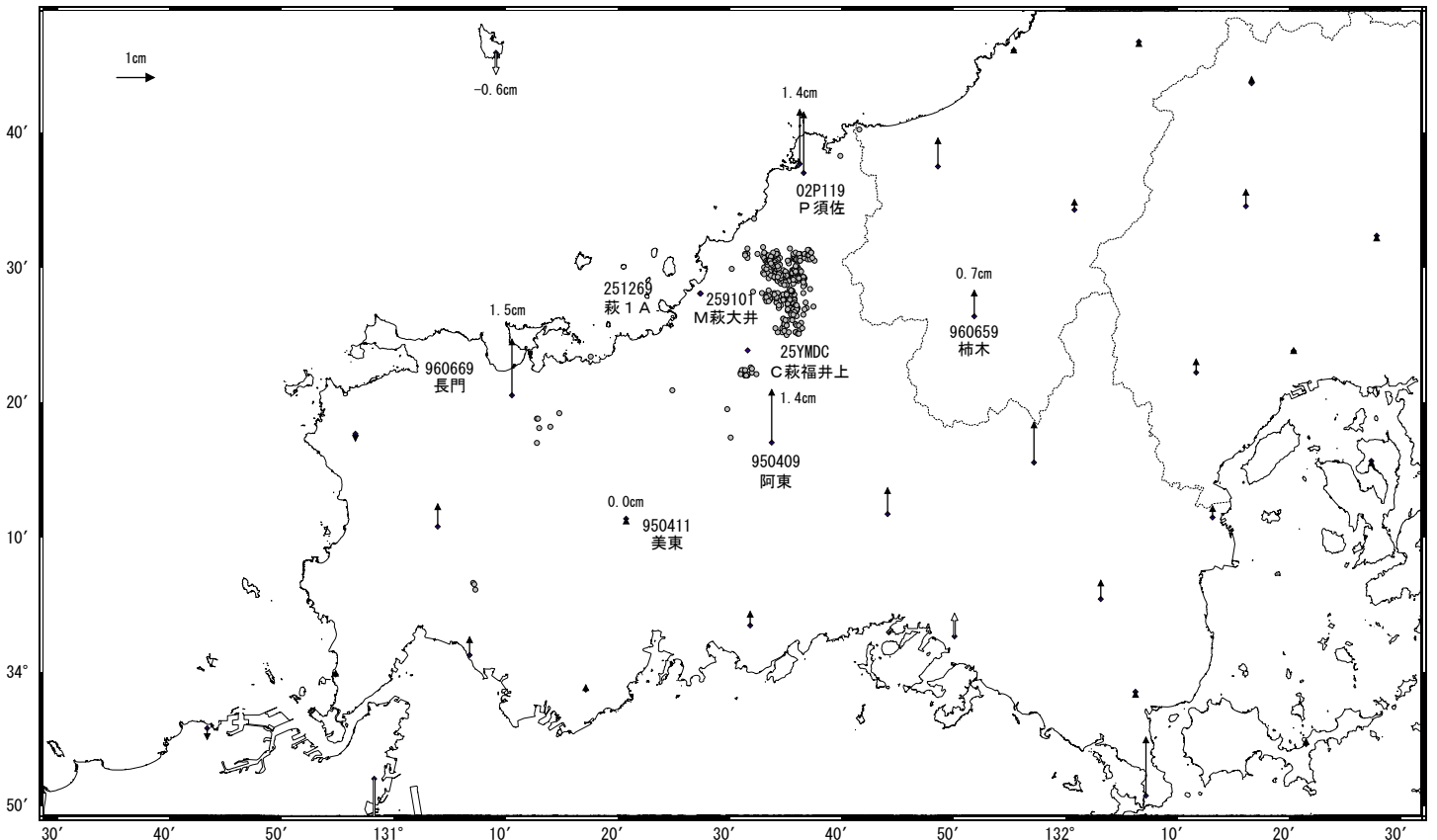


震央 (M1以上の地震)

★ 固定局: 上対馬 (950456) (長崎県)

基準期間: 2025-01-01 ~ 2025-01-07 [F5. 1: 最終解]
比較期間: 2026-07-21 ~ 2026-07-27 [R5. 1: 速報解]

計算期間: 2017-01-01 ~ 2020-01-01



震央 (M1以上の地震)

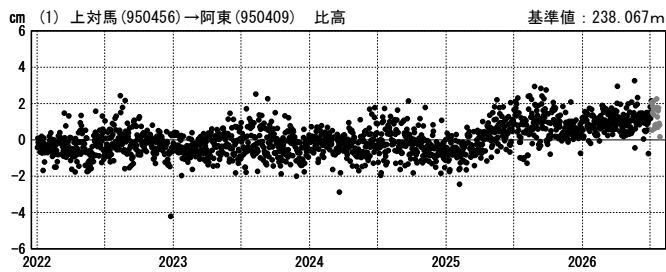
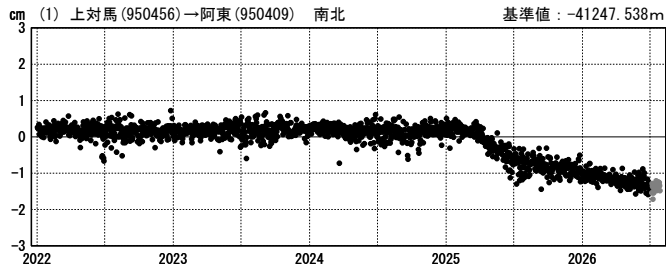
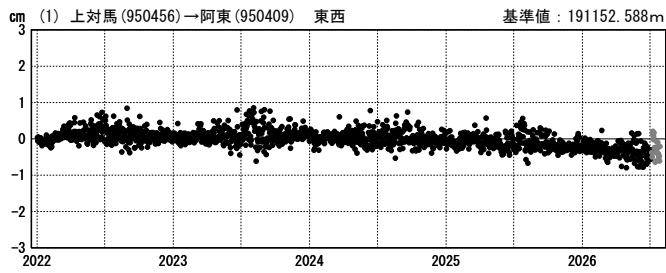
★ 固定局: 上対馬 (950456) (長崎県)

※C萩福井上、M萩大井、萩 1 Aは基準期間のデータが存在しない

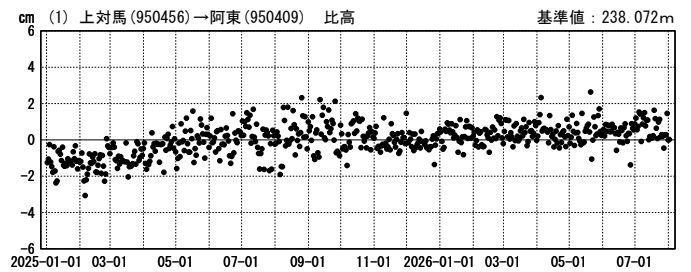
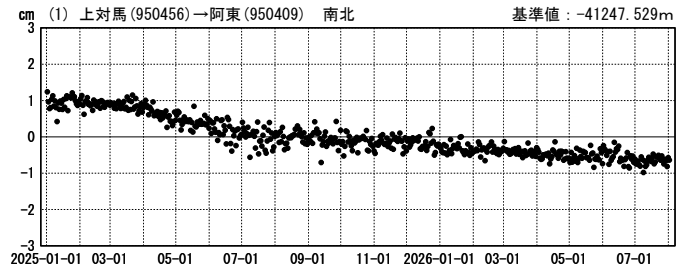
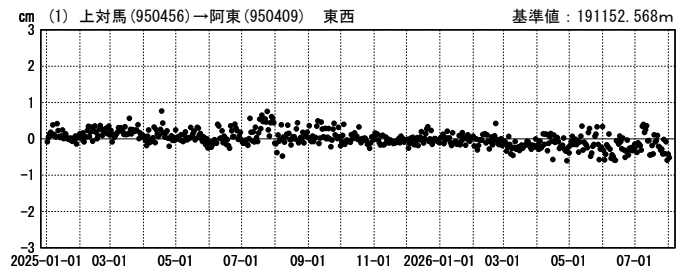
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

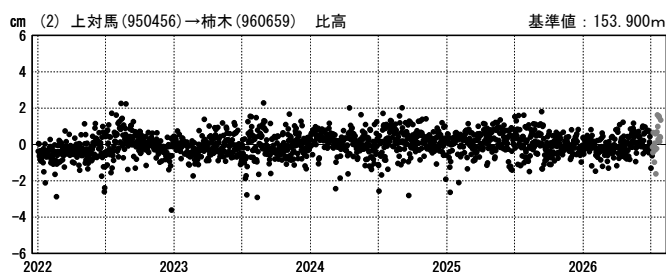
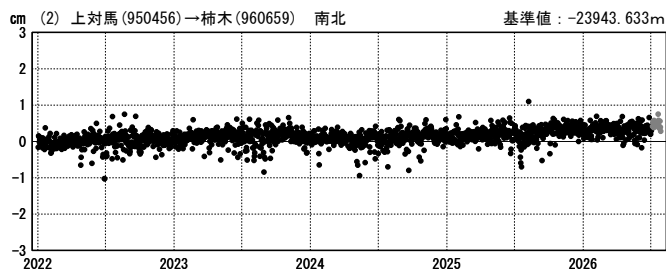
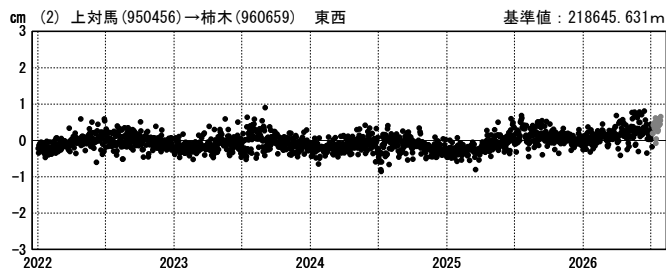
期間：2022-01-01～2026-07-27 JST



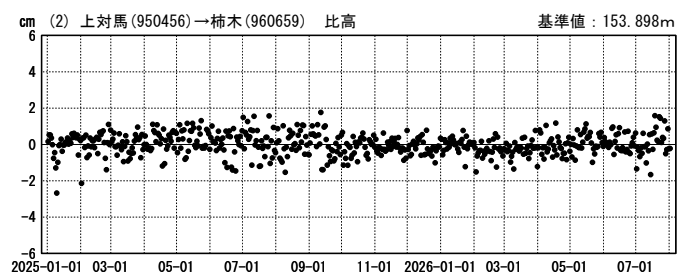
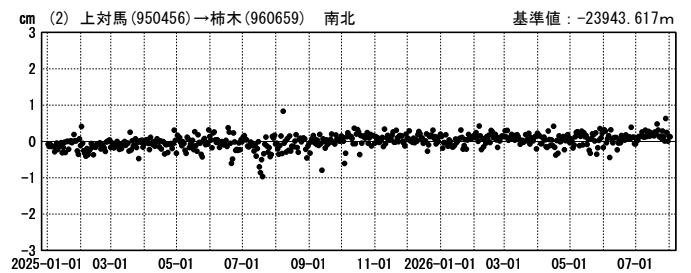
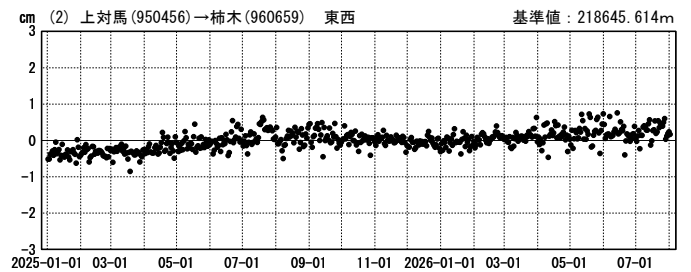
期間：2025-01-01～2026-08-01 JST



期間：2022-01-01～2026-07-27 JST



期間：2025-01-01～2026-08-01 JST

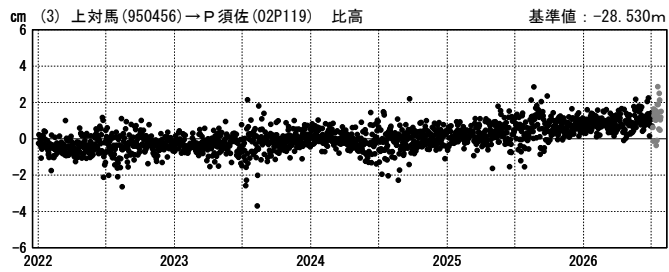
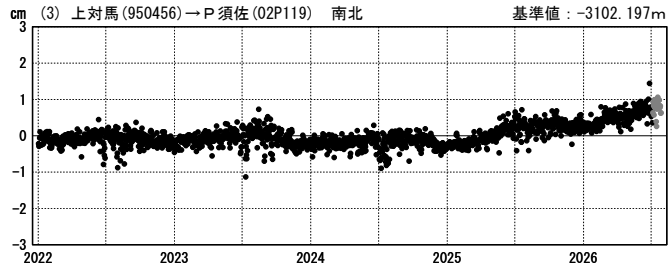
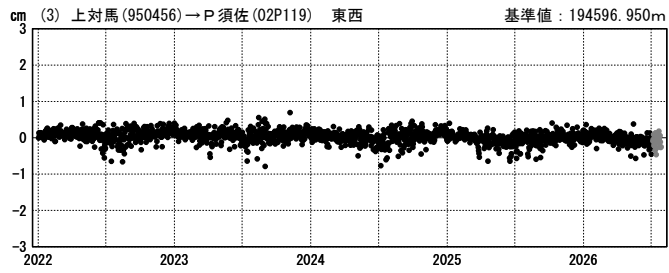


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

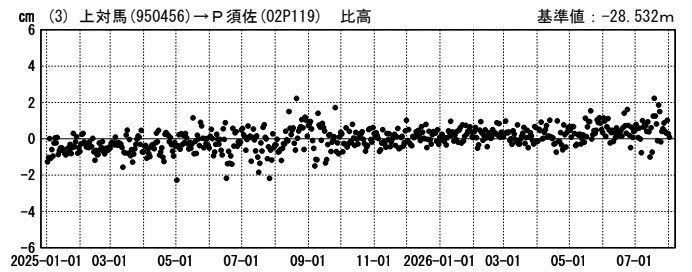
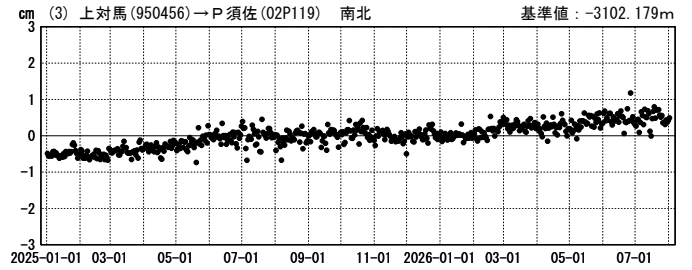
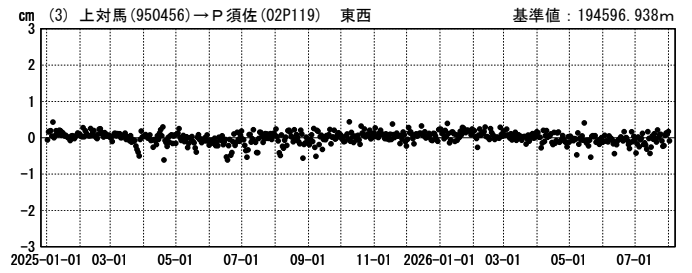
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

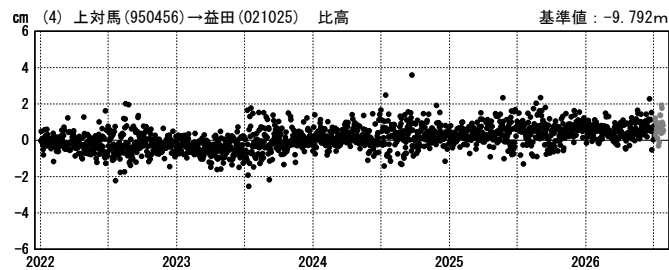
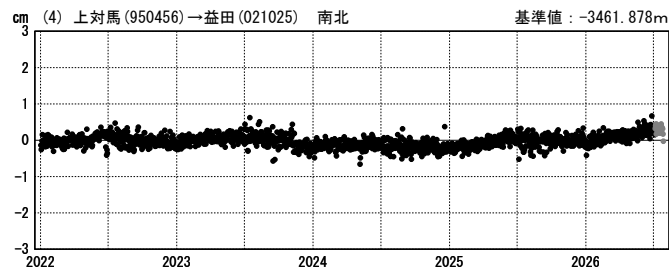
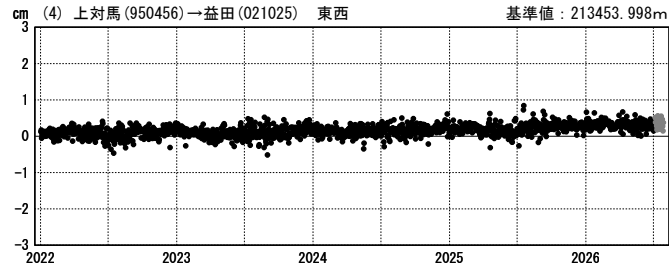
期間：2022-01-01～2026-07-27 JST



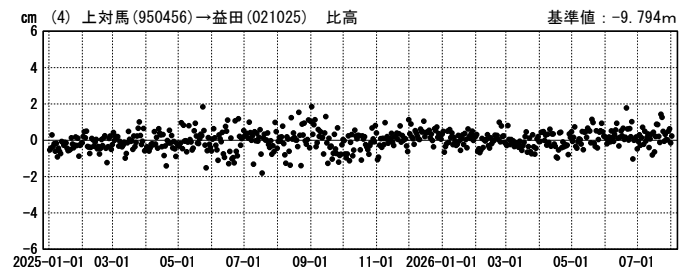
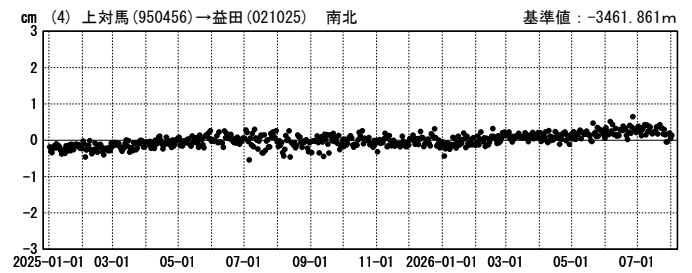
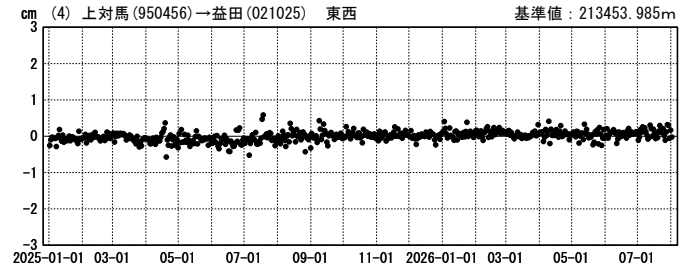
期間：2025-01-01～2026-08-01 JST



期間：2022-01-01～2026-07-27 JST



期間：2025-01-01～2026-08-01 JST

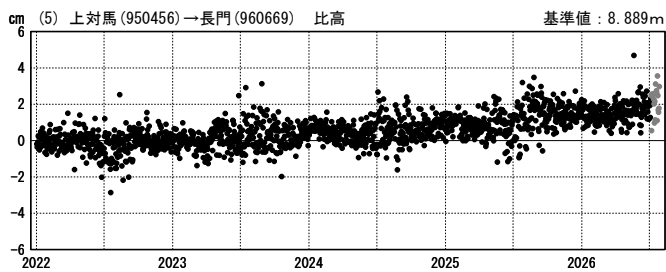
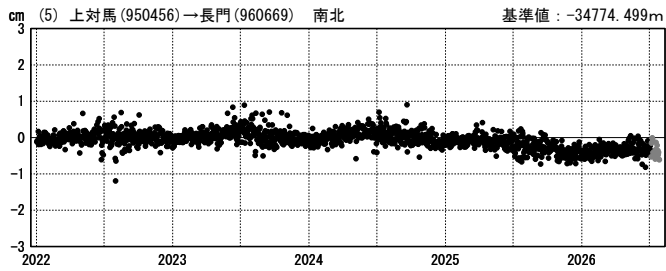
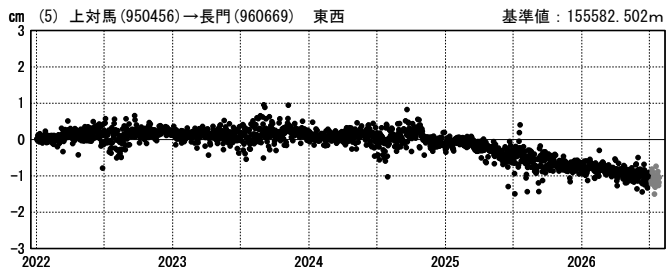


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

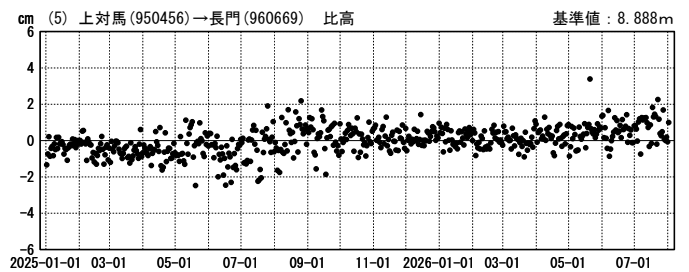
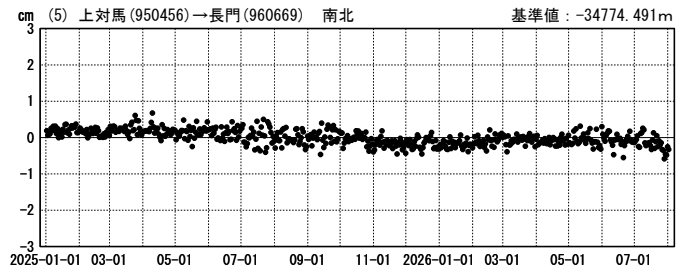
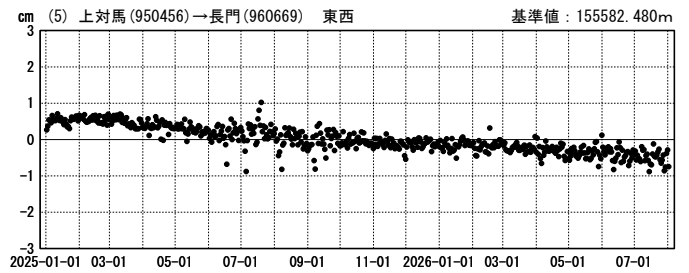
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

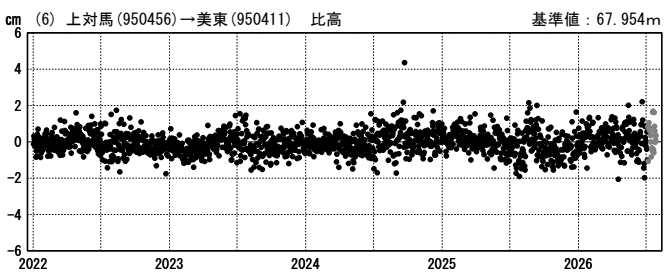
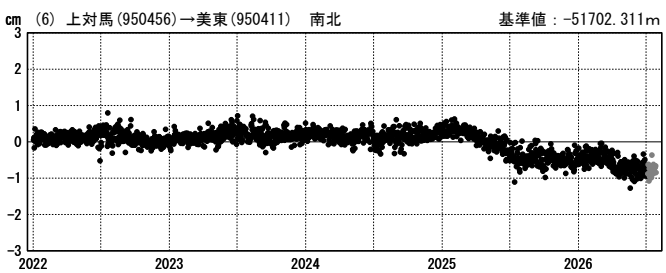
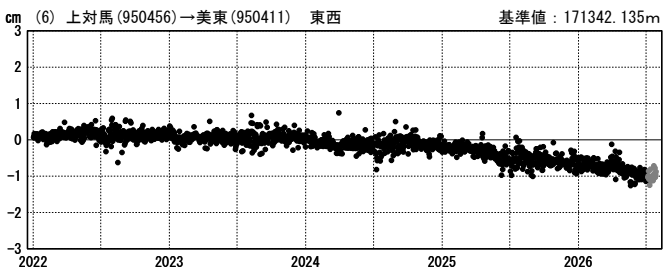
期間：2022-01-01～2026-07-27 JST



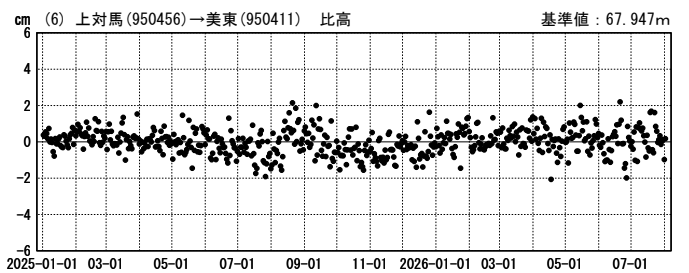
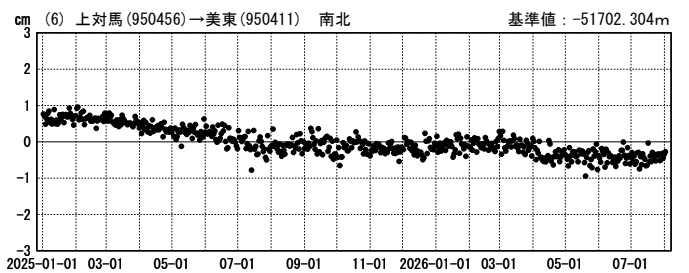
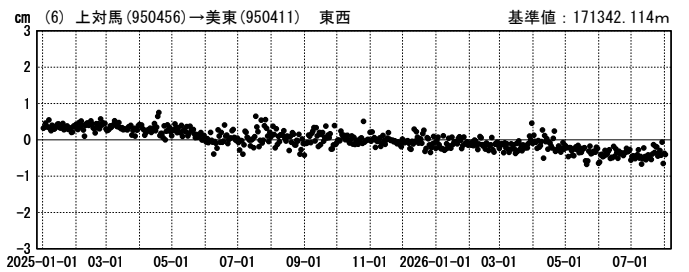
期間：2025-01-01～2026-08-01 JST



期間：2022-01-01～2026-07-27 JST



期間：2025-01-01～2026-08-01 JST

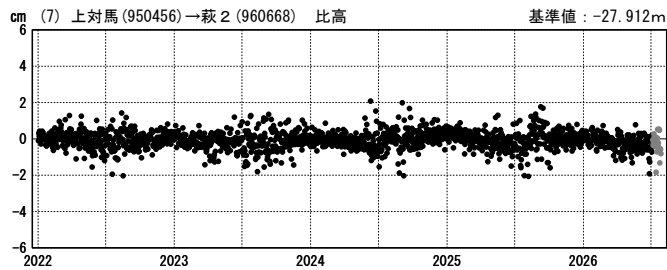
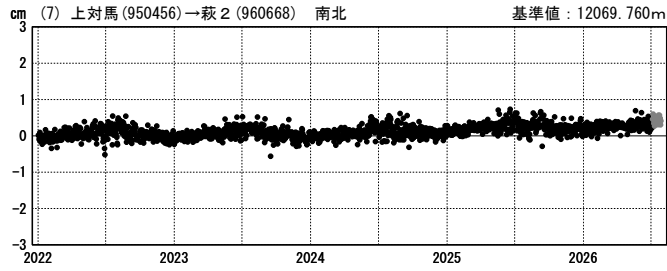
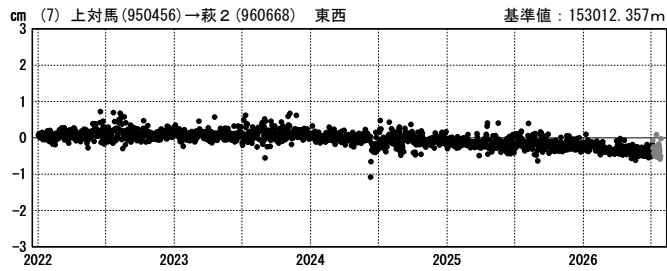


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

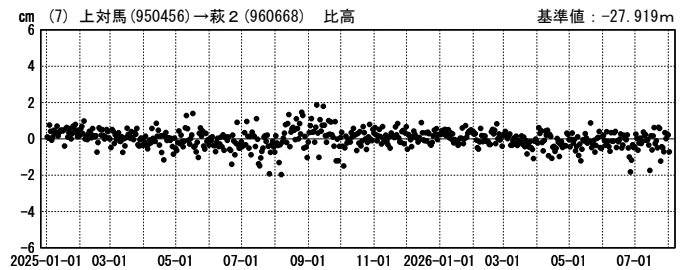
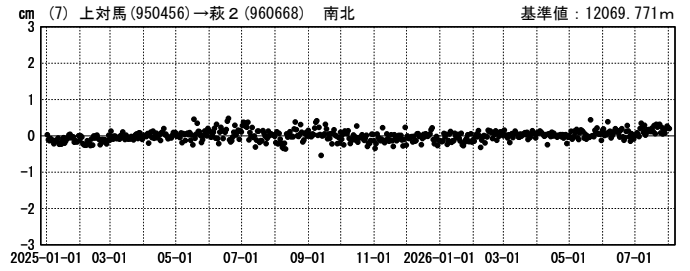
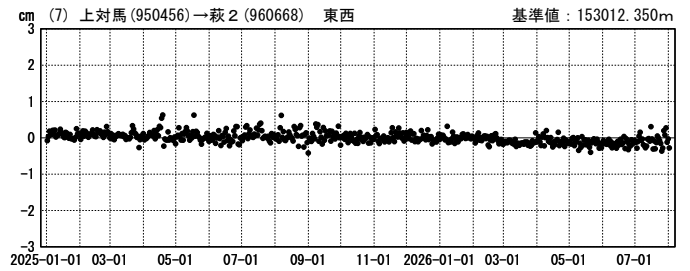
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

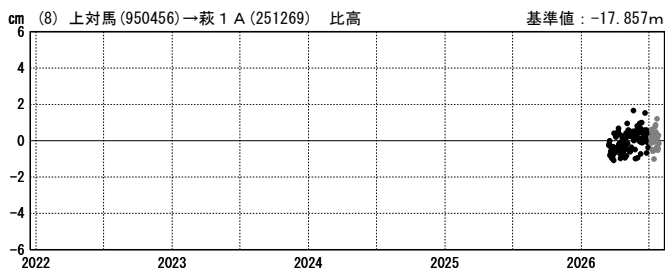
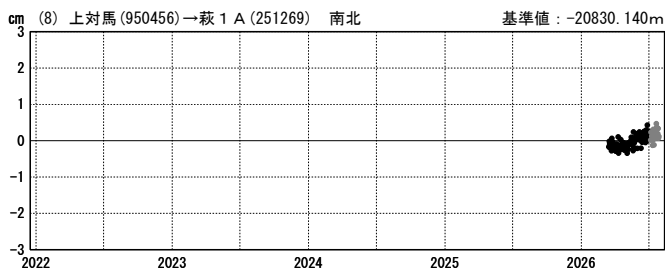
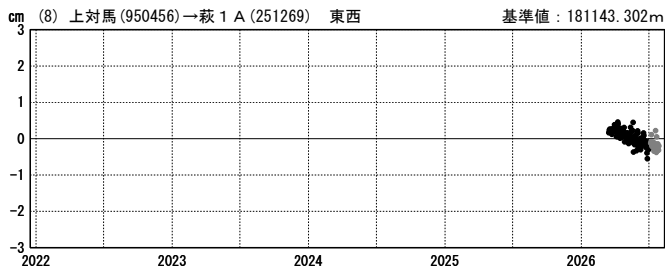
期間：2022-01-01～2026-07-27 JST



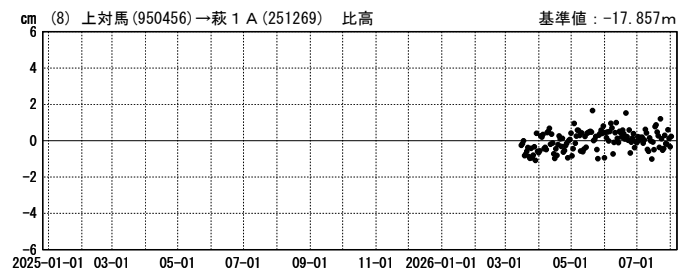
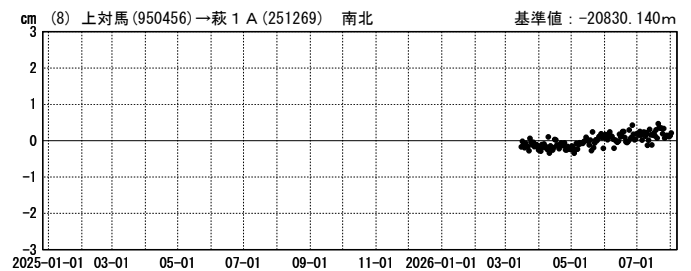
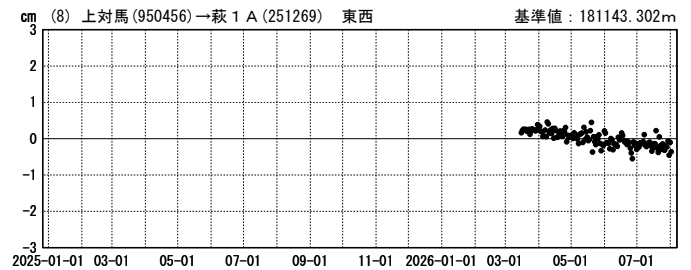
期間：2025-01-01～2026-08-01 JST



期間：2022-01-01～2026-07-27 JST



期間：2025-01-01～2026-08-01 JST

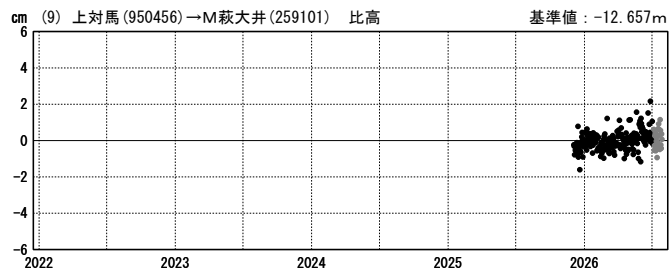
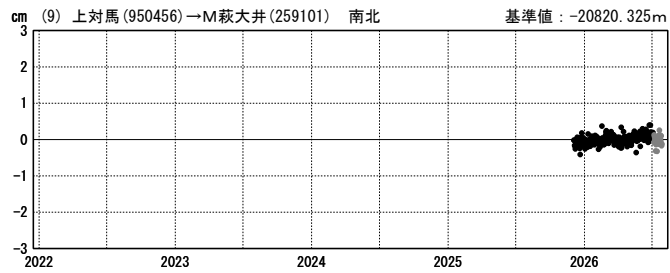
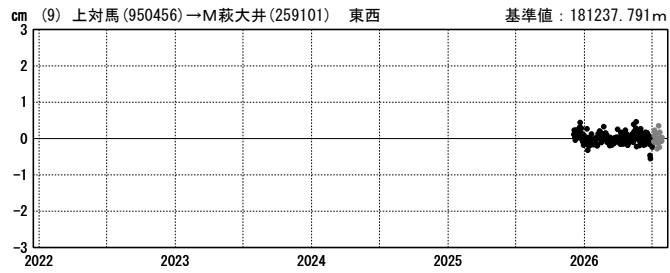


●—[F5. 1:最終解] ●—[R5. 1:速報解]

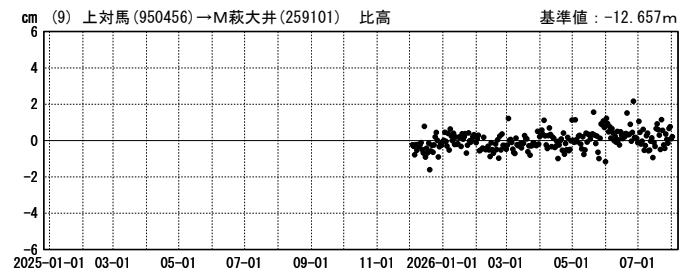
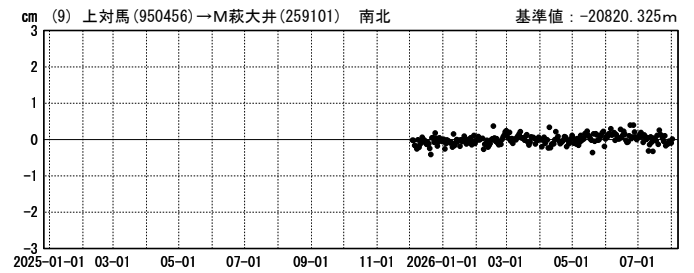
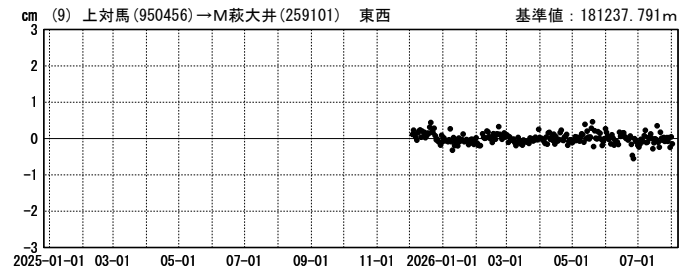
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

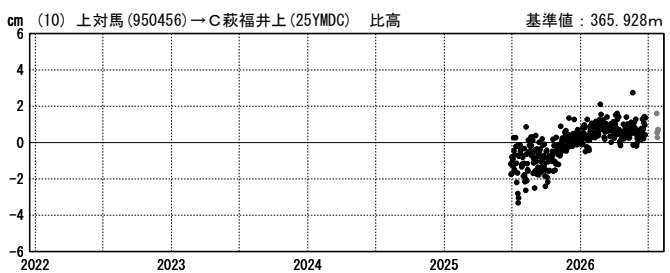
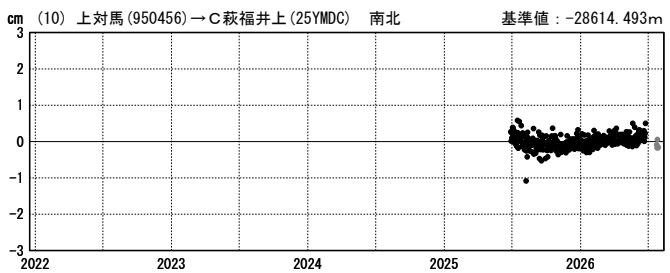
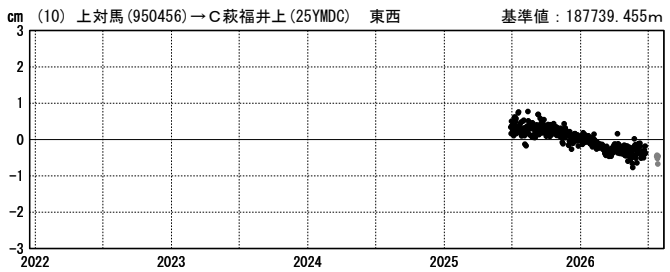
期間：2022-01-01～2026-07-27 JST



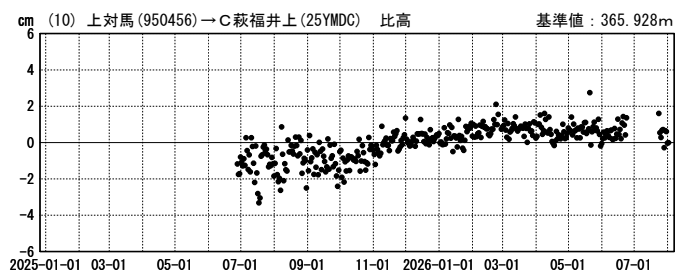
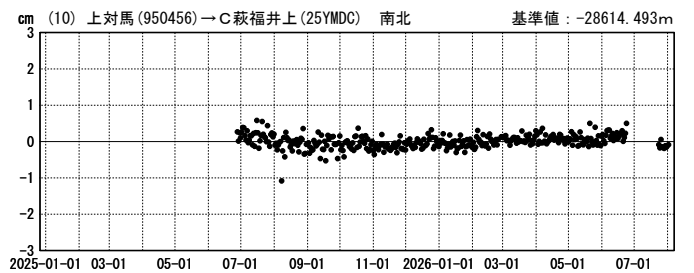
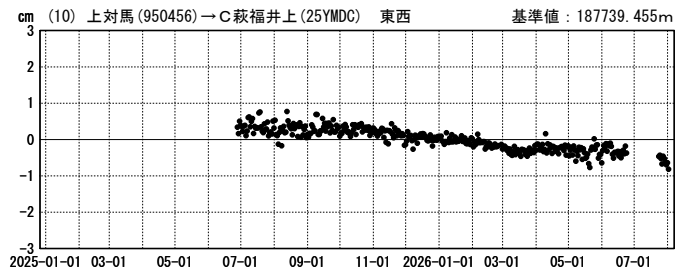
期間：2025-01-01～2026-08-01 JST



期間：2022-01-01～2026-07-27 JST

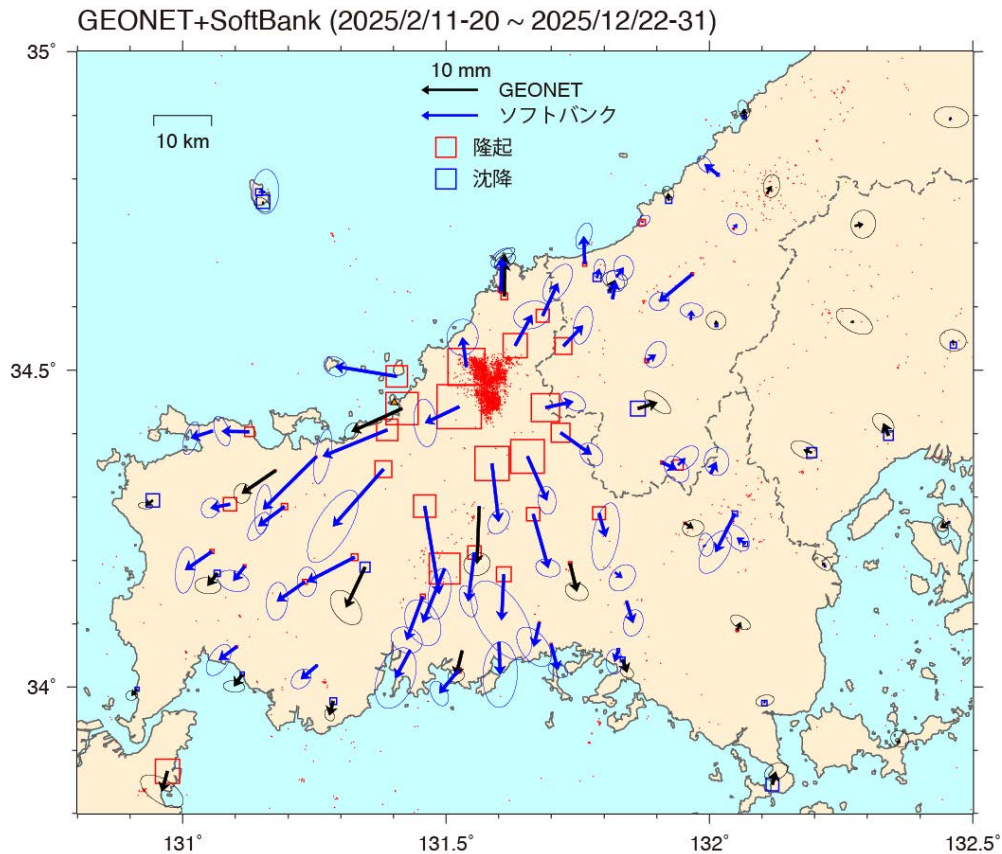


期間：2025-01-01～2026-08-01 JST



●—[F5. 1:最終解] ●—[R5. 1:速報解]

(a)



(b)

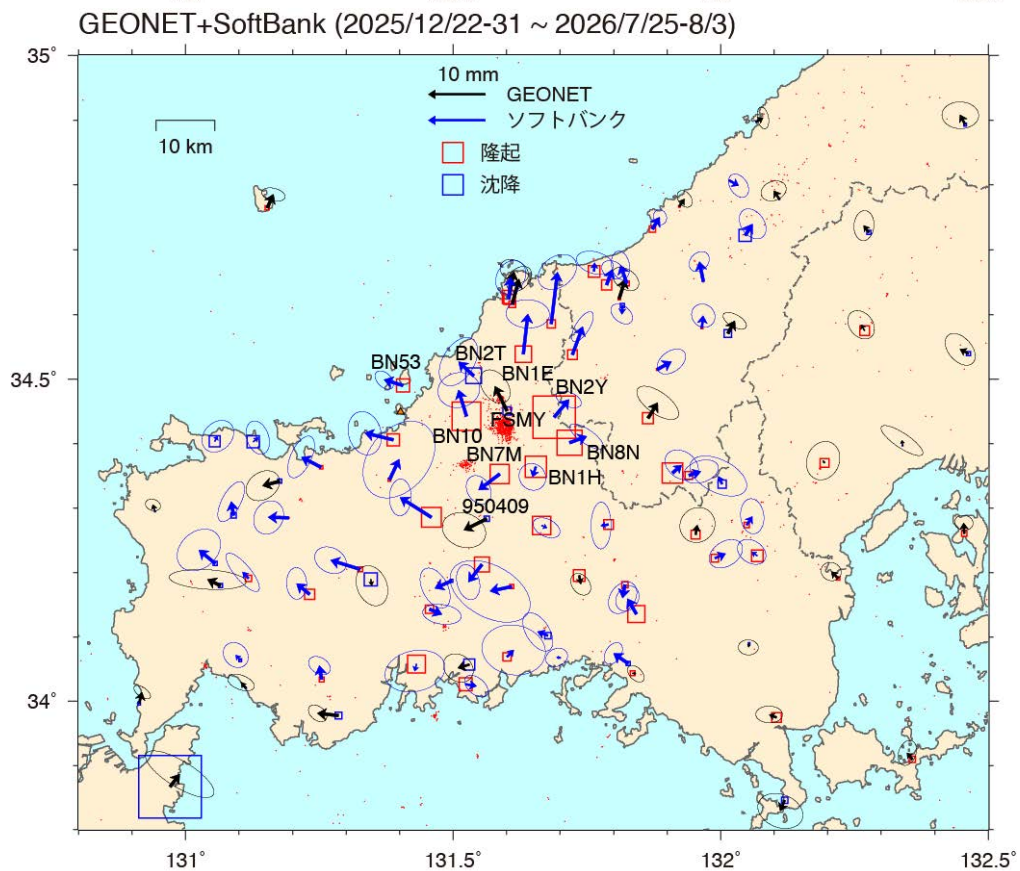


図1 GNSS 統合解析による山口県北部の非定常地殻変動。2023 年 1 月から 2025 年 1 月までの定常成分と年周・半年周成分は補正済み。赤丸は、 M_0 以上 45km 以浅の気象庁一元化震源。(a)2025 年 2 月 11-20 日から 12 月 22-31 日までの変位分布 (速報暦使用)。(b) 2025 年 12 月 22-31 日から 2026 年 7 月 25 日-8 月 3 日までの変位分布 (速報暦使用)。

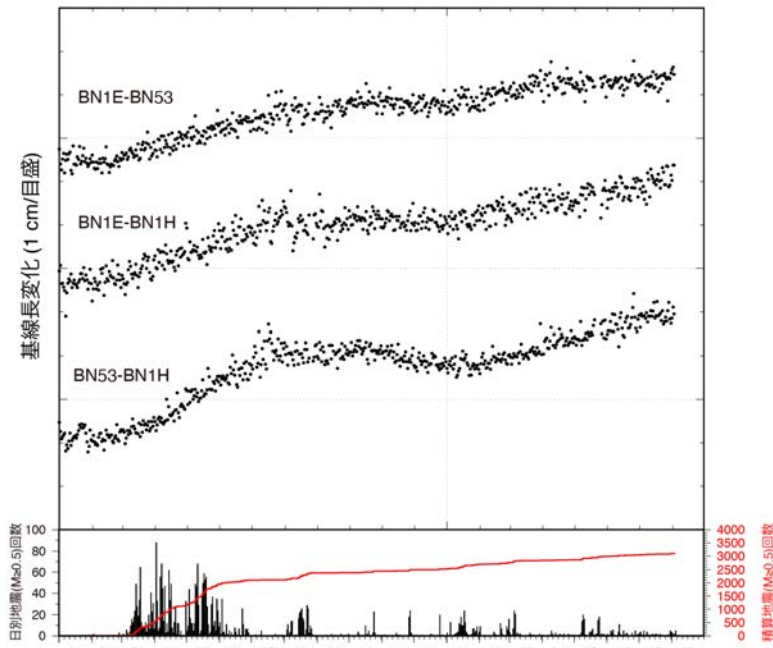


図2 山口県北部のGNSS観測点における基線長変化(2025年1月-2026年8月、速報暦使用)。棒グラフと赤線は、山口県北部におけるM0.5以上の日別地震回数とその累積を表す。

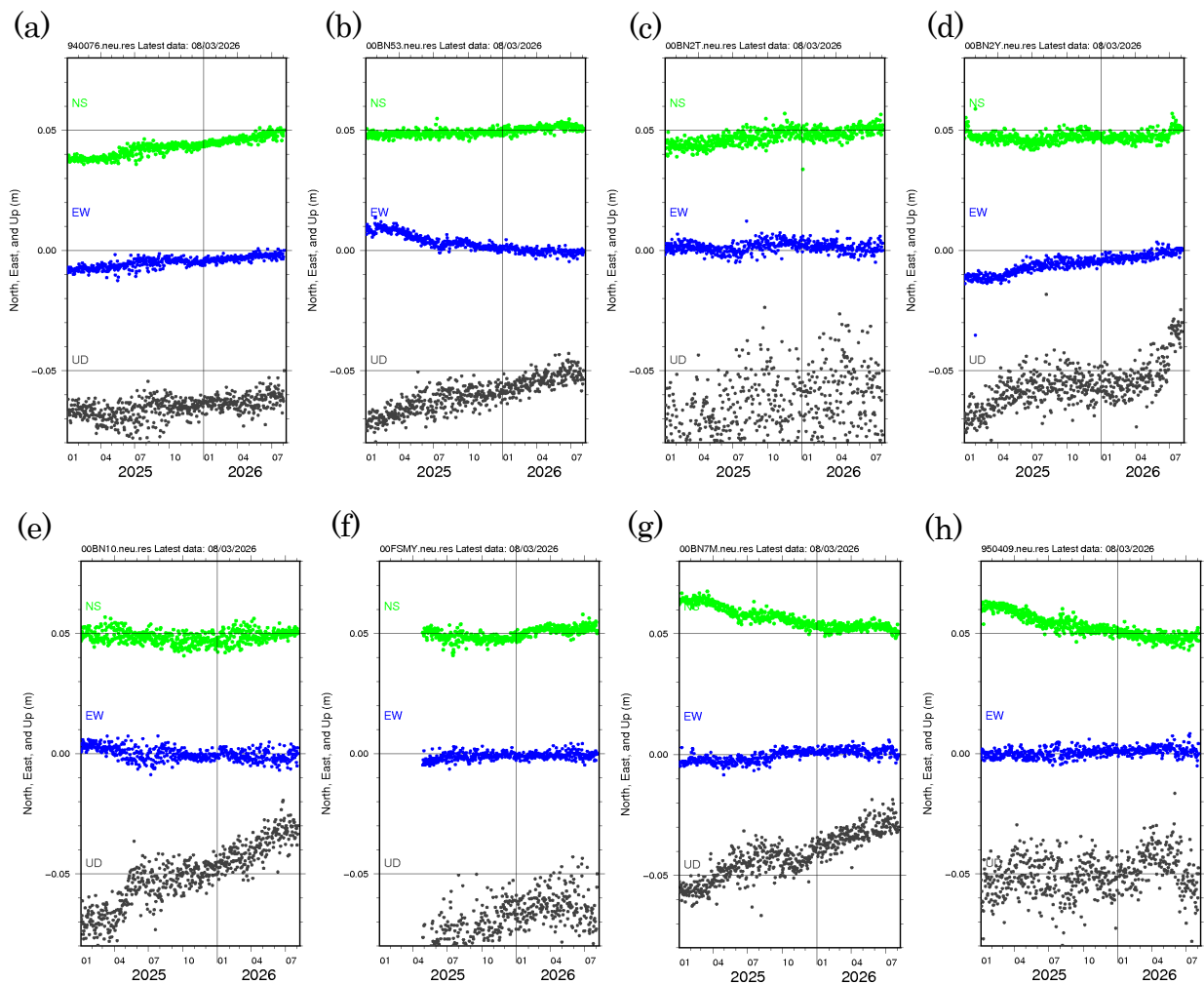
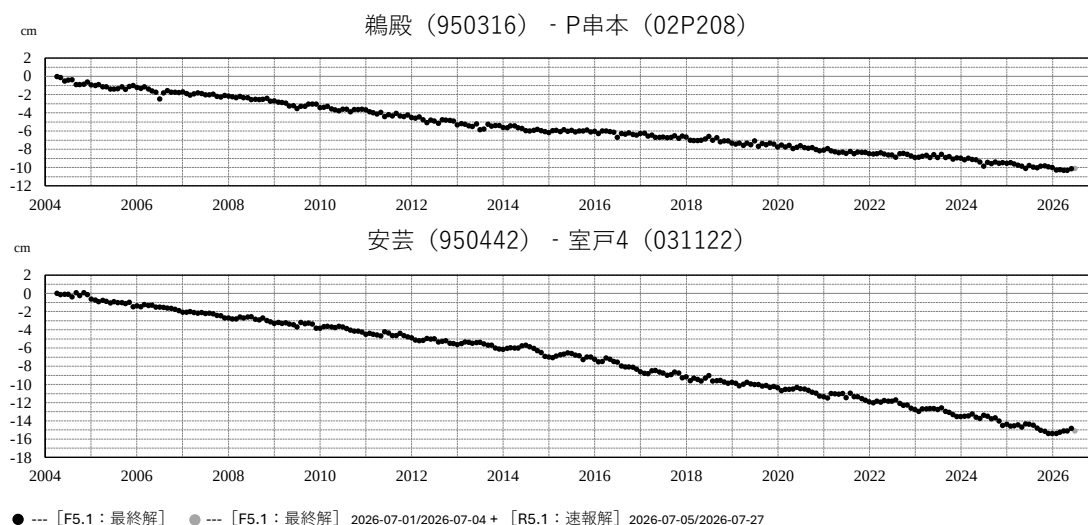


図3 山口県北部のGNSS観測点における非定常地殻変動時系列(日座標値、速報暦使用)。横軸の数値は月を表す。最新データは2025年12月1日。(a) 940076 (b) BN53。(c) BN2T。(d) BN2Y。(e) BN10。(f) FSMY。(g) BN7M。(h) 950409。

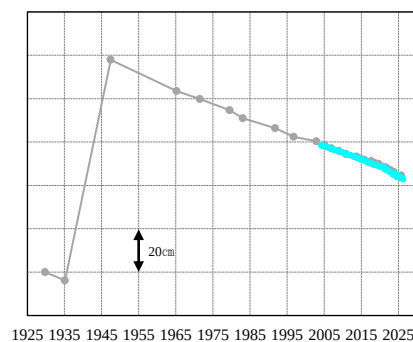
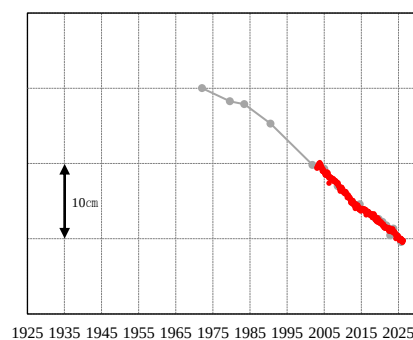
紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

水準測量とGNSS連続観測

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。



【長期間の上下変動】

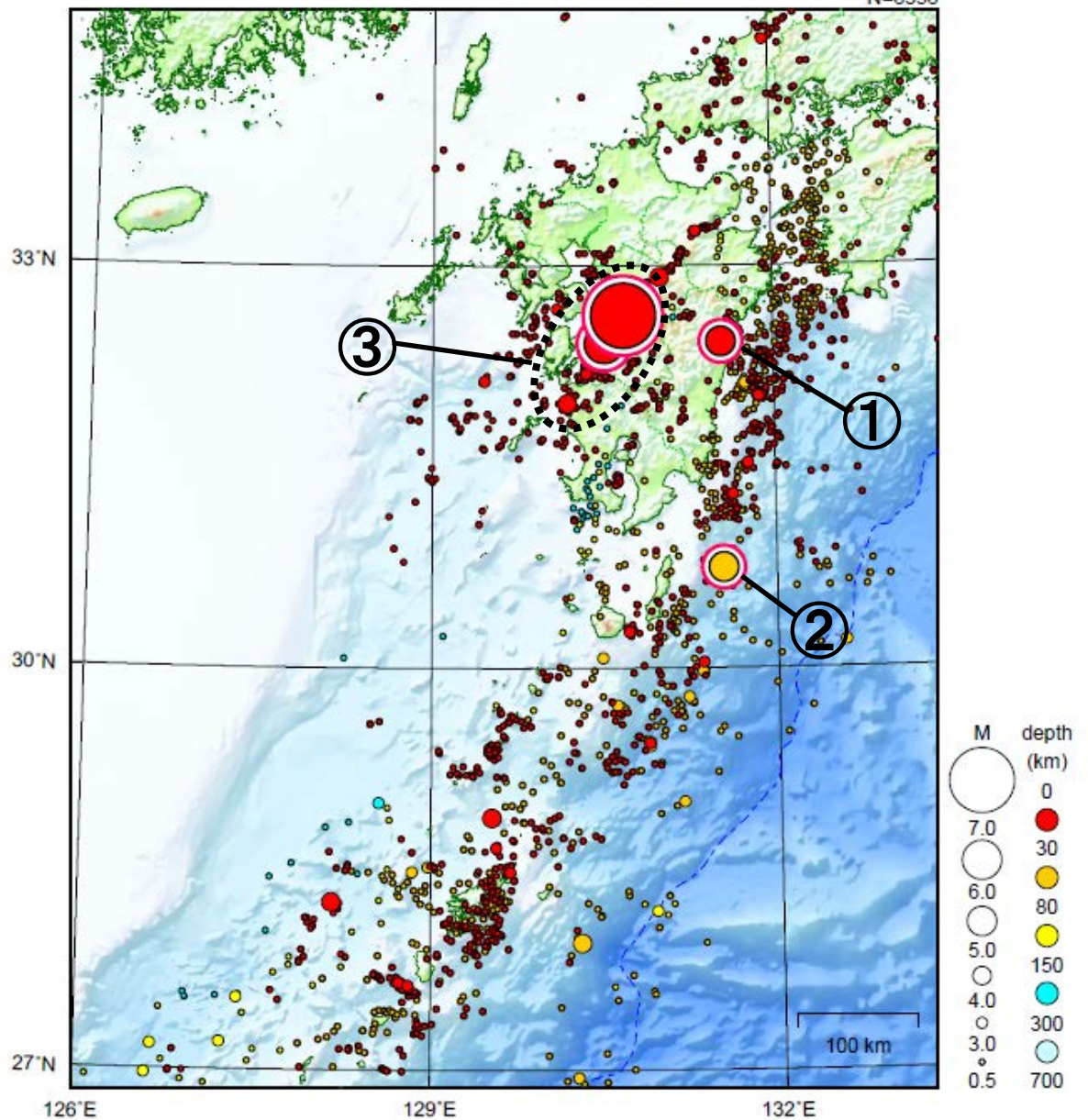


- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5.1：最終解及びR5.1:速報解) から計算した値の月平均値。
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点の水準測量結果を示している (固定：J4810、5164)。
- ※ 2021年2月2日に電子基準点「安芸」のアンテナ更新及びレドーム交換を実施した。
- ※ 2024年11月25日に電子基準点「鵜殿」のアンテナ更新を実施した。

九州地方

2026/07/01 00:00 ~ 2026/07/31 24:00

N=8358



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

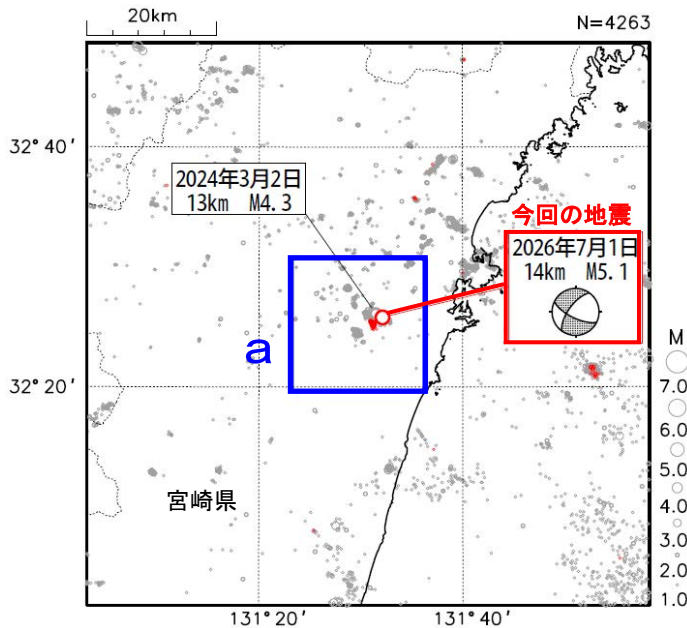
- ① 7月1日に宮崎県北部平野部でM5.1の地震(最大震度4)が発生した。
- ② 7月17日に大隅半島東方沖でM5.2の地震(最大震度3)が発生した。
- ③ 7月28日16時27分に熊本県熊本地方でM7.1の地震(最大震度7)が発生した。この地震の震央周辺では、7月28日16時から8月10日08時までに震度1以上を観測した地震が589回(震度7:1回、震度5弱:5回、震度4:22回、震度3:57回、震度2:148回、震度1:356回)^(注)発生した。

(注) 掲載している地震回数は、後日の調査で更に変更になることがある。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

7月1日 宮崎県北部平野部の地震

震央分布図
(2000年10月1日～2026年7月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 1.0$)
2026年7月の地震を赤色○で表示

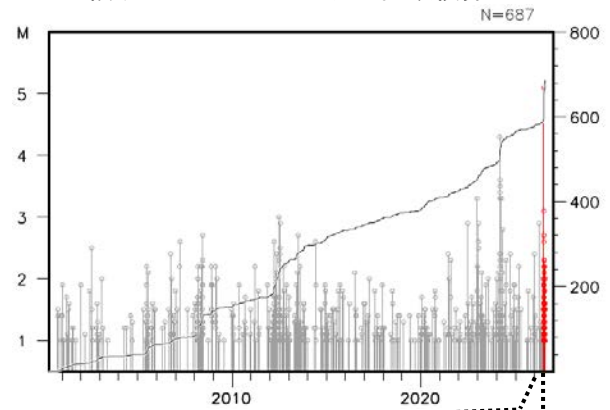


2026年7月1日08時40分に宮崎県北部平野部の深さ14kmで $M 5.1$ の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は、北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震の震央付近では、7月1日から2日にかけて震度1以上を観測した地震が4回 (震度4:1回、震度1:3回) 発生した。

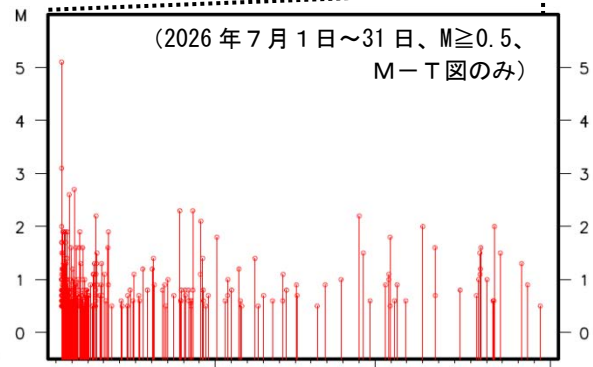
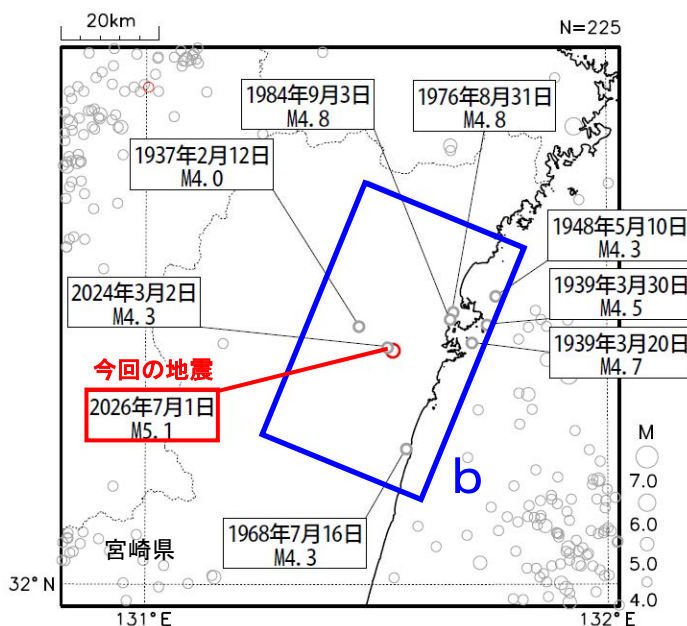
2000年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近 (領域a) では、 $M 4.0$ 以上の地震が今回を含めて2回発生している。2024年3月2日には $M 4.3$ の地震 (最大震度4) が発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域b) では、 $M 4.0$ 以上の地震が今回の地震を含めて9回発生しているが、 $M 5.0$ 以上の地震が発生したのは今回が初めてである。

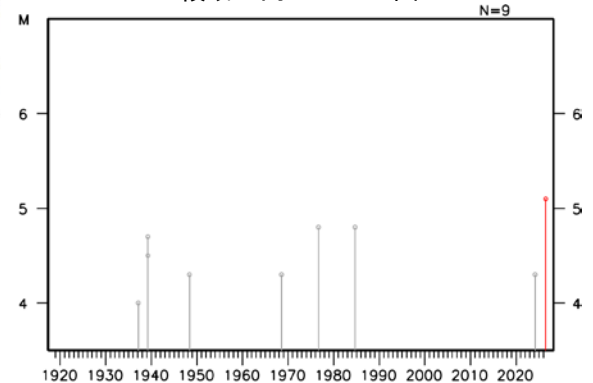
領域a内のM-T図及び回数積算図



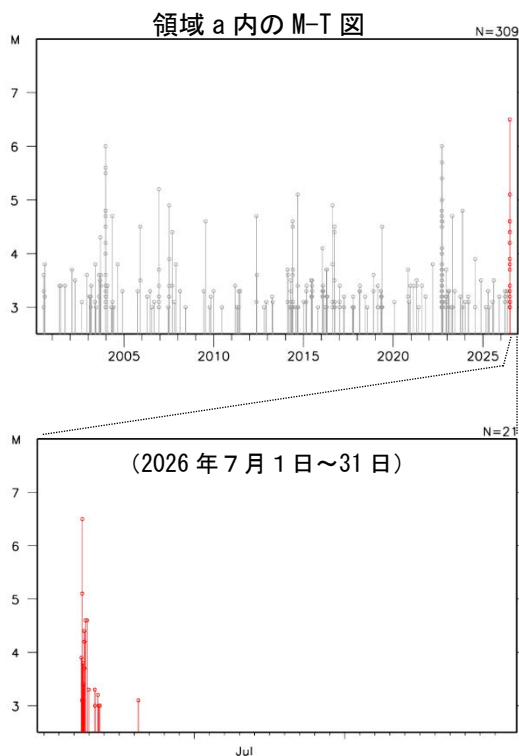
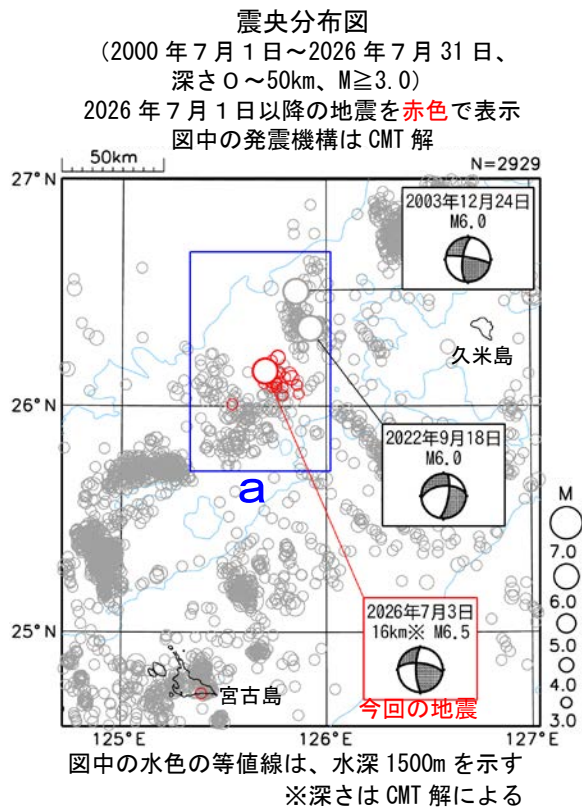
震央分布図
(1919年1月1日～2026年7月31日、
深さ0～40km、 $M \geq 4.0$)
2026年7月の地震を赤色○で表示



領域b内のM-T図



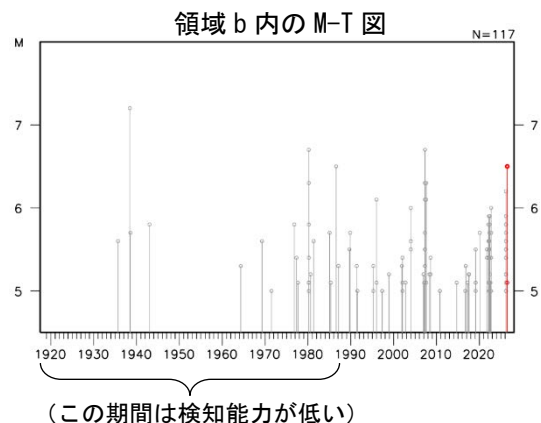
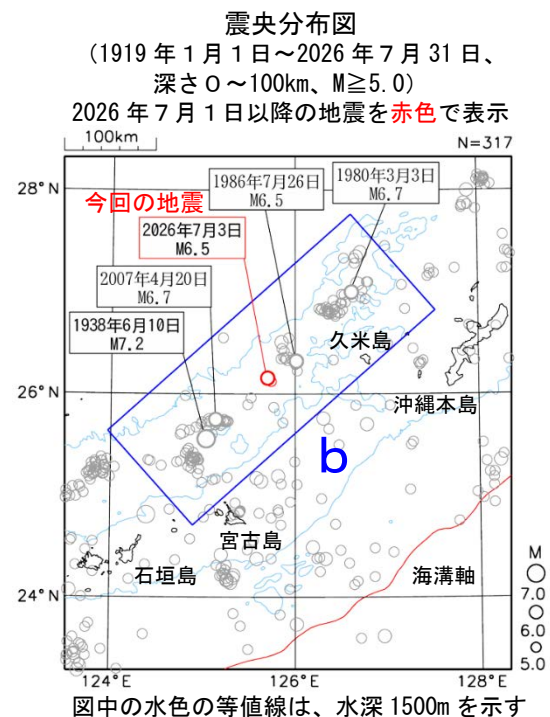
7月3日 宮古島北西沖の地震（久米島の西約100kmの地震）



2026年7月3日13時04分に宮古島北西沖の深さ16km（深さはCMT解による）でM6.5の地震（最大震度3）が発生した。この地震は、沖縄トラフ沿いで発生した陸のプレート内の地震である。発震機構（CMT解）は、北西－南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

2000年7月以降の活動をみると、この地震の震央付近（領域a）では、2022年9月18日にM6.0の地震（最大震度2）が発生するなど、M6.0以上の地震が時々発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）ではM6.0以上の地震が時々発生している。1938年6月10日に発生したM7.2の地震（最大震度4）では、地震後10分で宮古島平良港に高さ1.5m（目視による最大の高さ）の津波が襲来し、栈橋の流出などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。



7月17日 大隅半島東方沖の地震

震央分布図

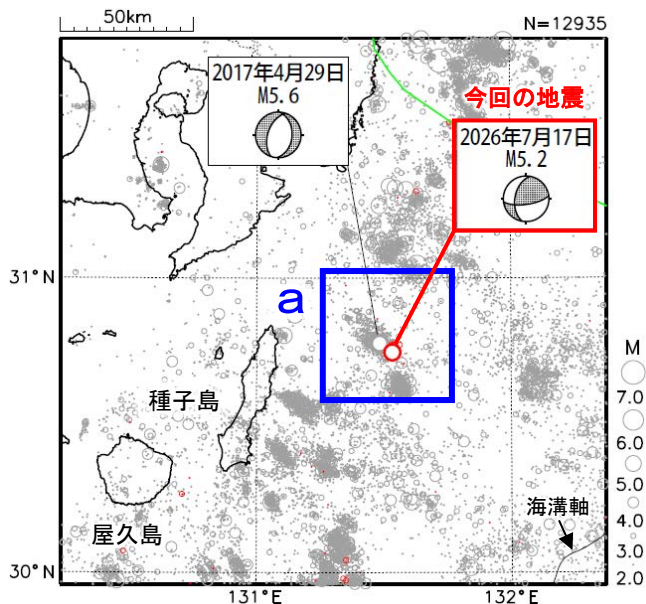
(1997年10月1日～2026年7月31日)

深さ 0～80km、 $M \geq 2.0$

2026年7月の地震を赤色○で表示

緑色の実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す

図中の発震機構は CMT 解

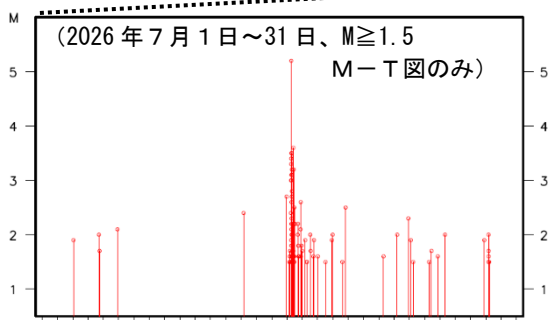
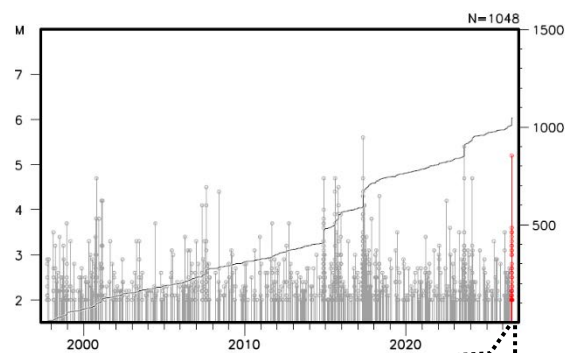


2026年7月17日06時49分に大隅半島東方沖でM5.2の地震（最大震度3）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

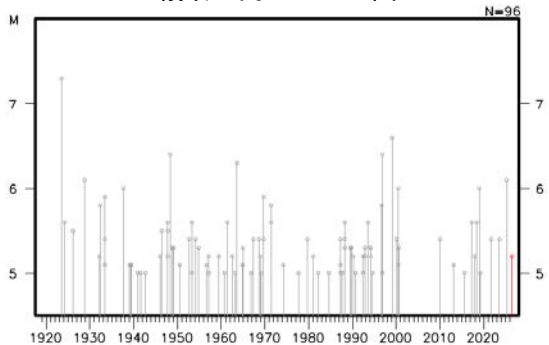
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、M5.0以上の地震が今回を含めて3回発生している。2017年4月29日にM5.6の地震（最大震度3）が発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）ではM6.0以上の地震が時々発生している。1923年7月13日にはM7.3の地震が発生し、種子島の中種子村（現、中種子町）で住家小破27棟、南種子村（現、南種子町）で住家小破約30棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図



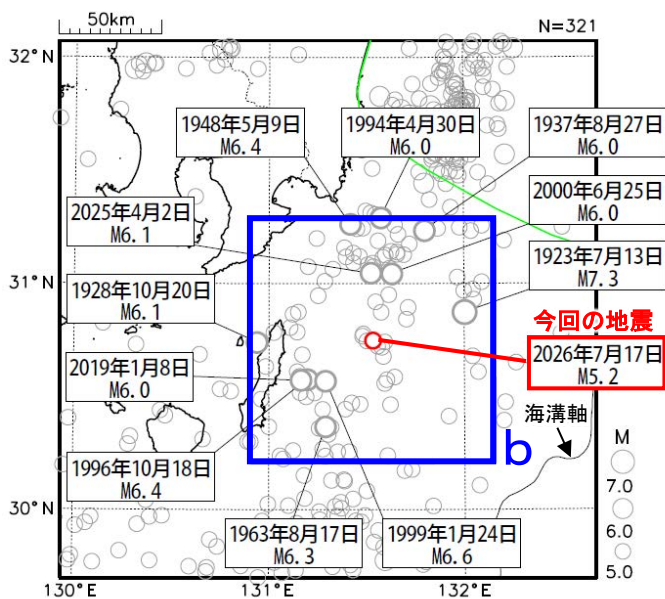
震央分布図

(1919年1月1日～2026年7月31日、

深さ 0～100km、 $M \geq 5.0$)

2026年7月の地震を赤色○で表示

緑色の実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す



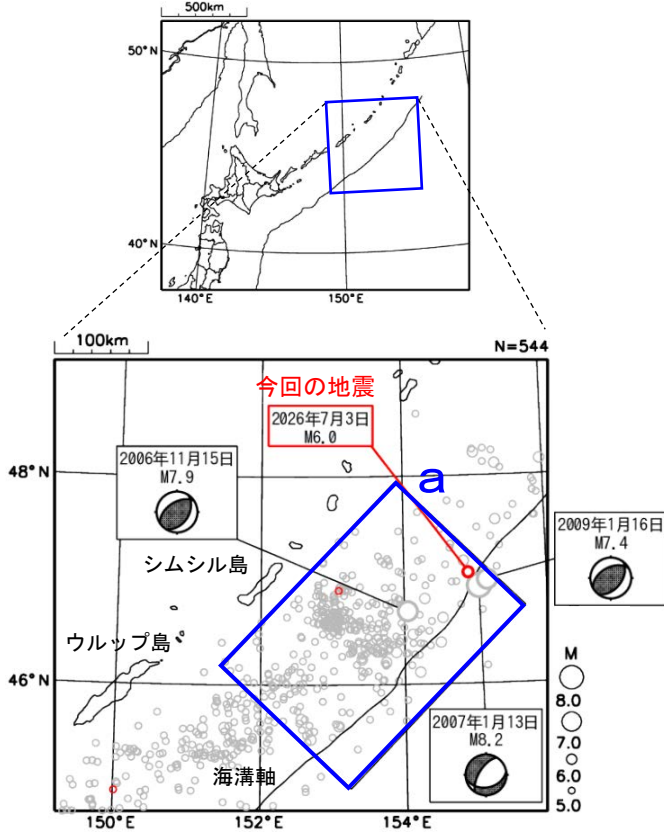
7月3日 北西太平洋の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2026年7月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)

2026年7月の地震を赤色で表示

図中の発震機構はCMT解

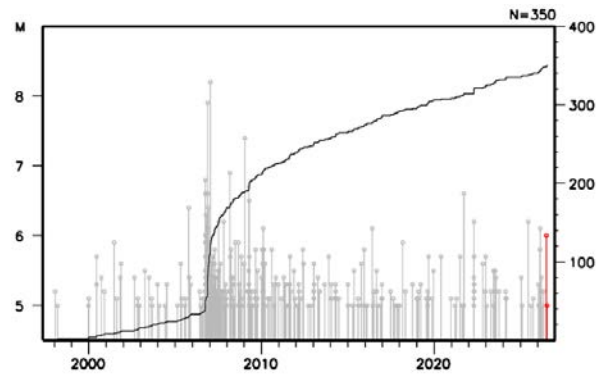


2026年7月3日17時22分に北西太平洋でM6.0の地震（日本国内で震度1以上を観測した地点はなし）が発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、M6.0以上の地震が時々発生している。2006年11月15日に発生したM7.9の地震では、北海道で震度2の揺れを観測したほか、三宅島坪田で84cmなど、オホーツク海沿岸から太平洋沿岸及び伊豆・小笠原諸島の広い範囲で津波を観測した。また、2007年1月13日に発生したM8.2の地震では、北海道から東北地方にかけて震度3の揺れを観測したほか、三宅島坪田で43cmなど、北海道日本海沿岸北部からオホーツク海沿岸、太平洋沿岸及び伊豆・小笠原諸島の広い範囲で津波を観測した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M7.0以上の地震が時々発生している。

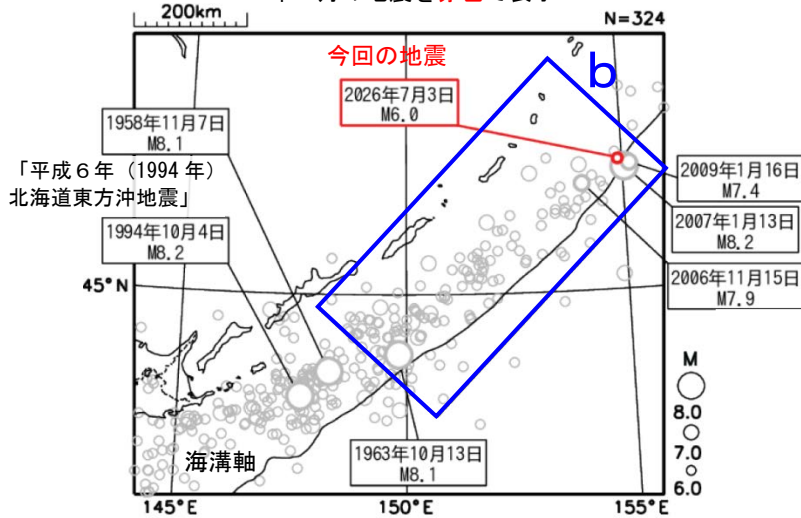
領域a内のM-T図及び回数積算図



震央分布図

(1919年1月1日～2026年7月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$)

2026年7月の地震を赤色で表示



領域b内のM-T図

